



384
14

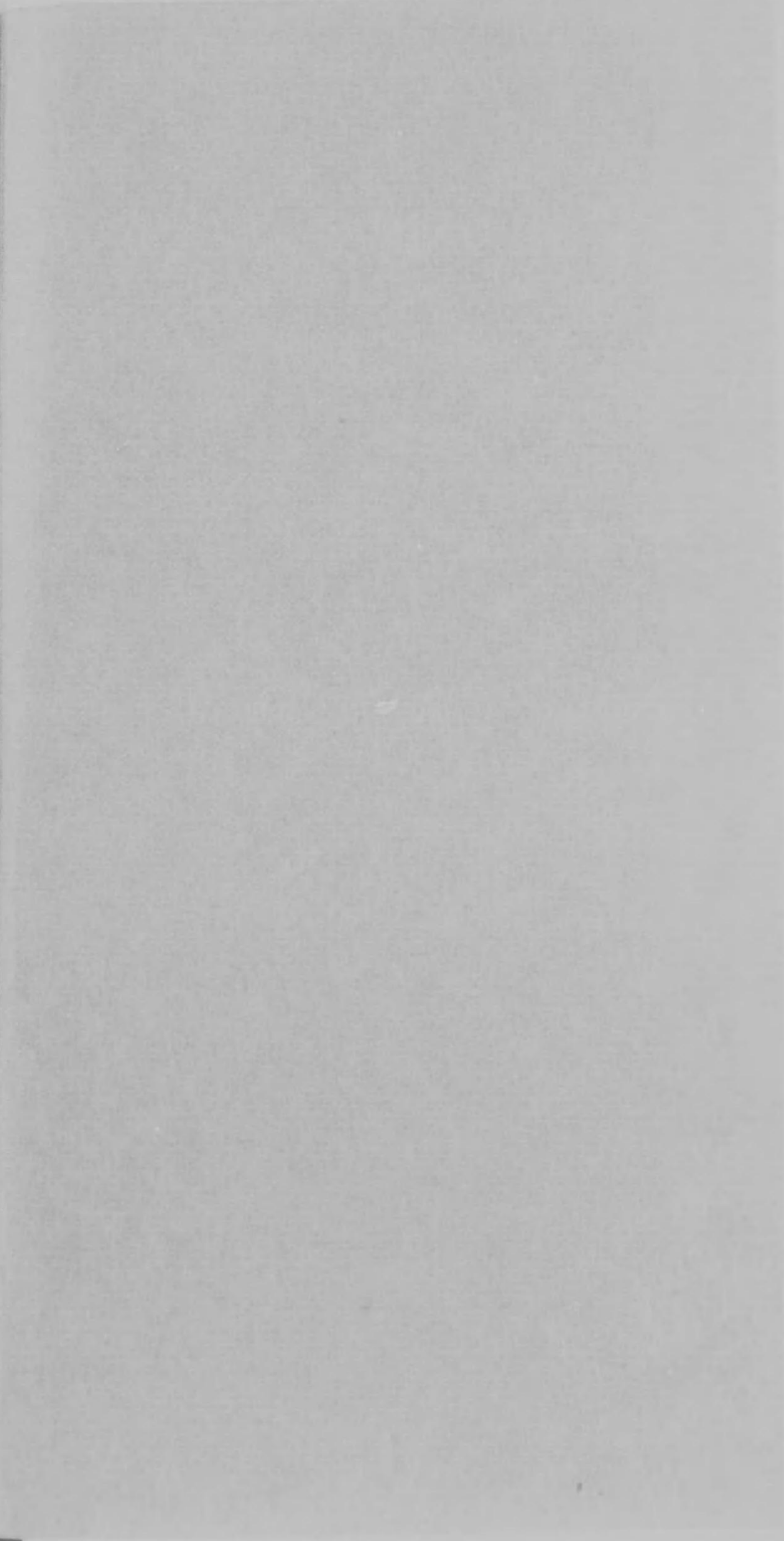
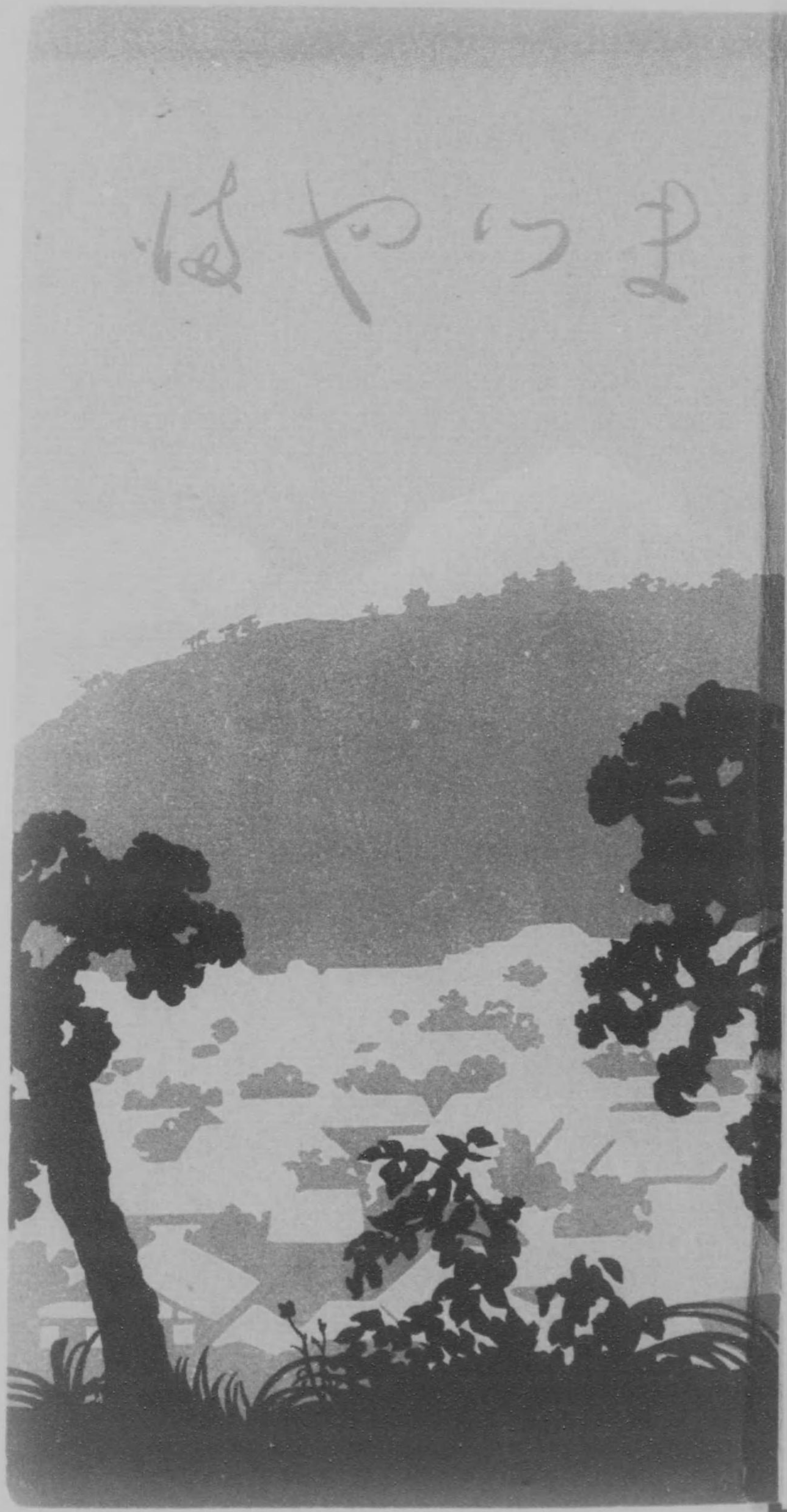


始



8.12.13

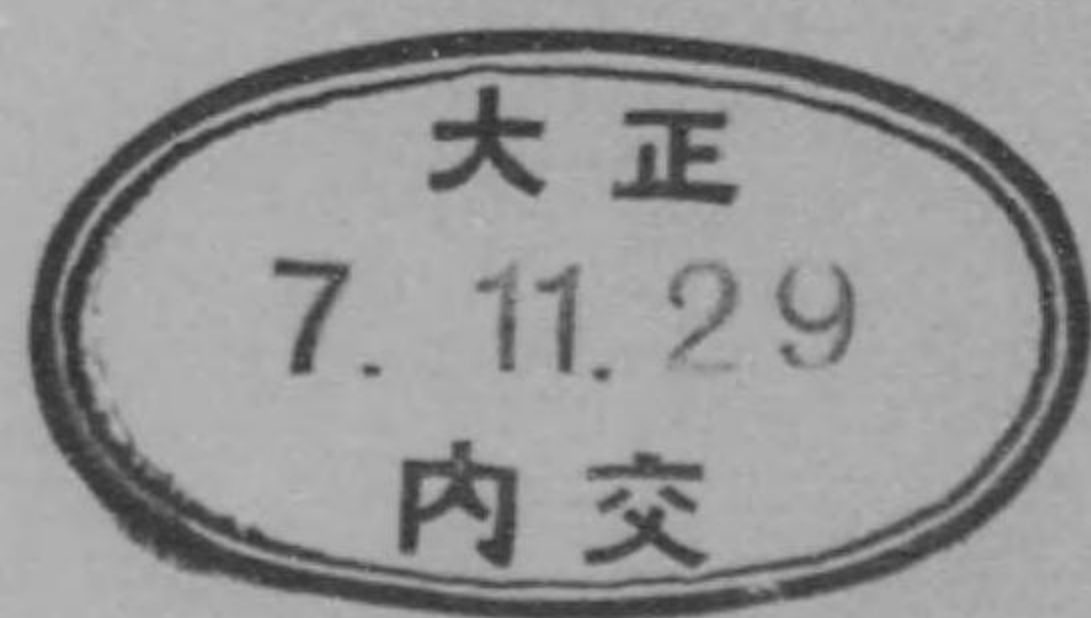
建心如意

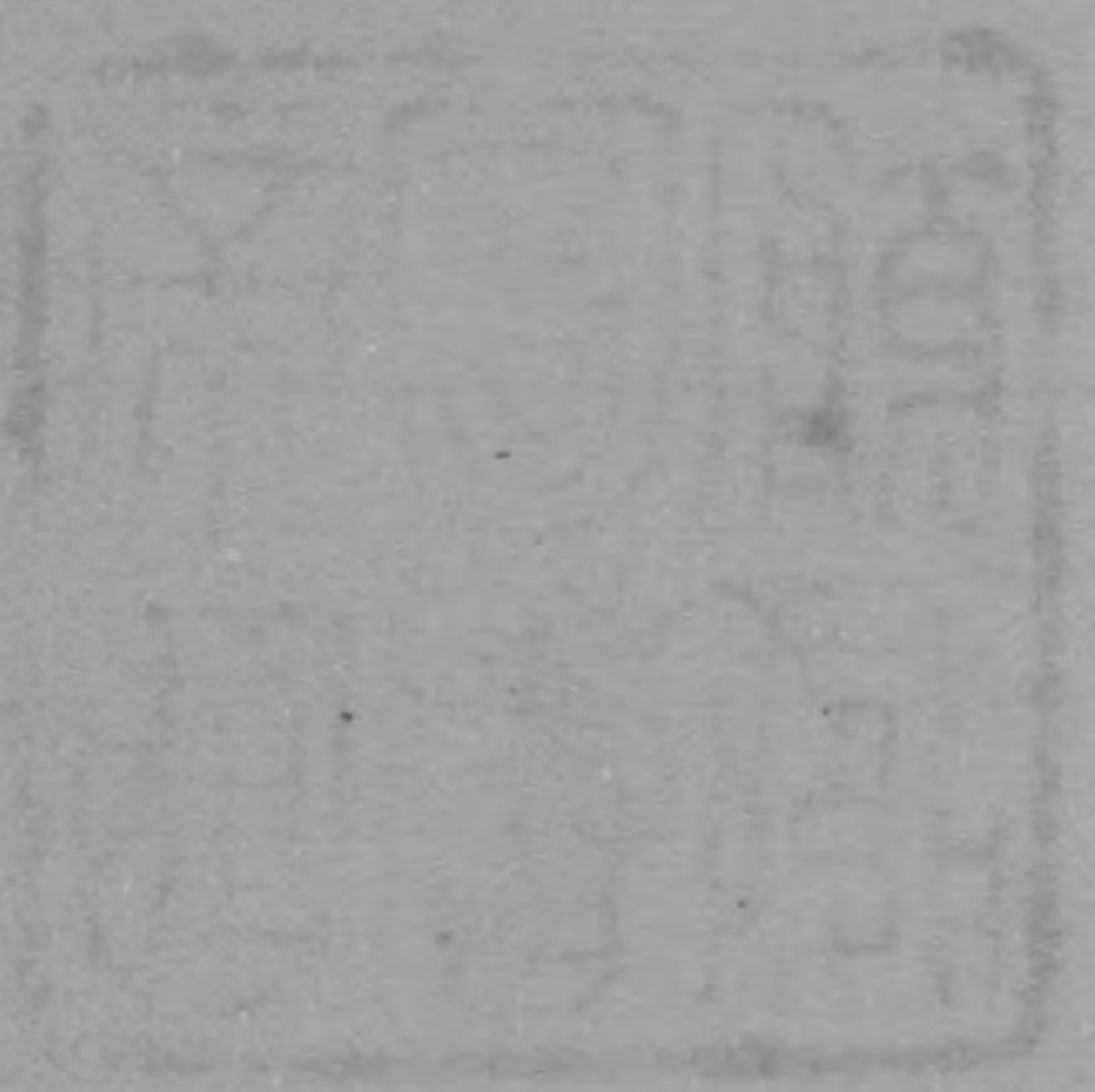
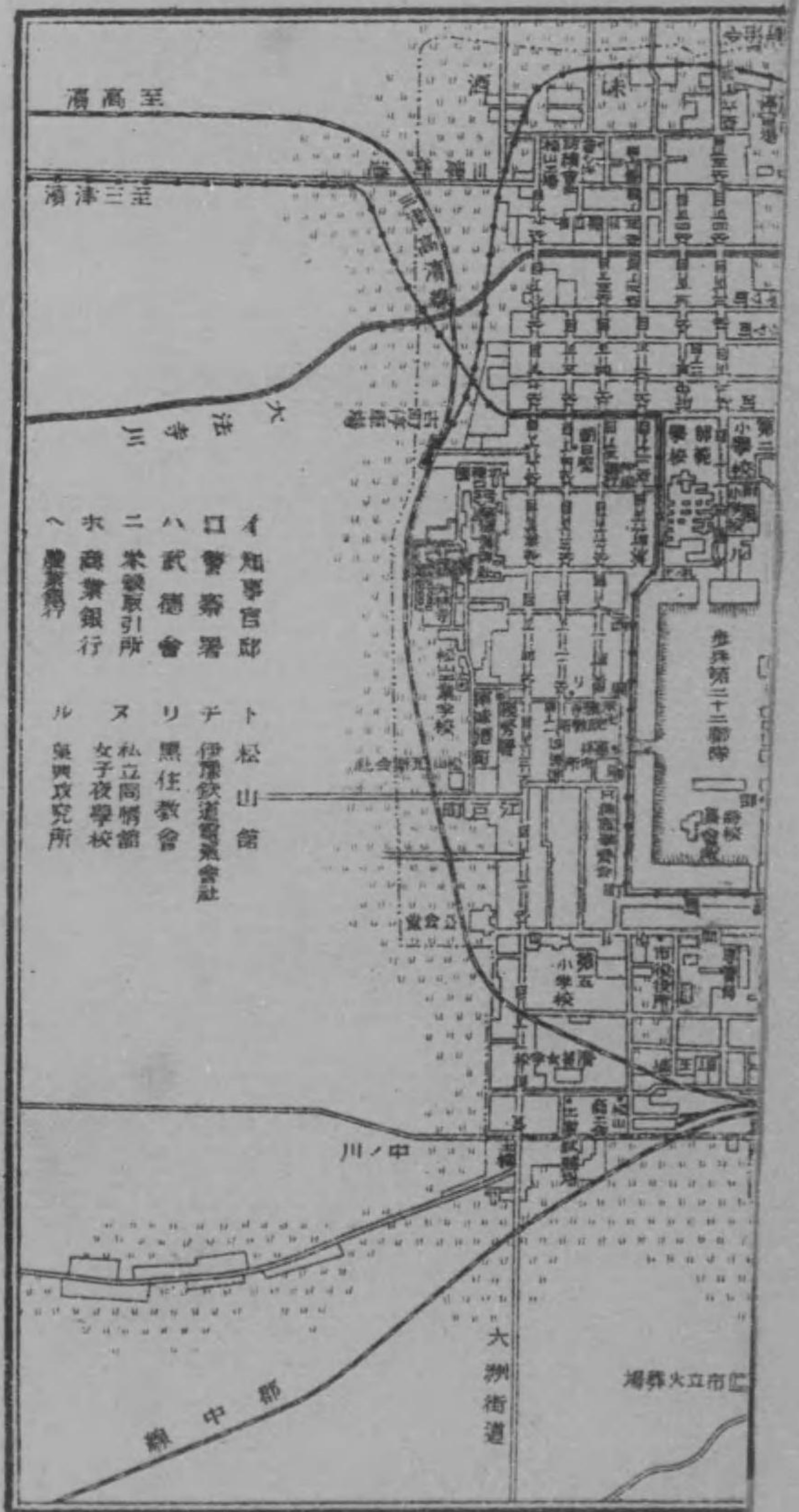


384-14



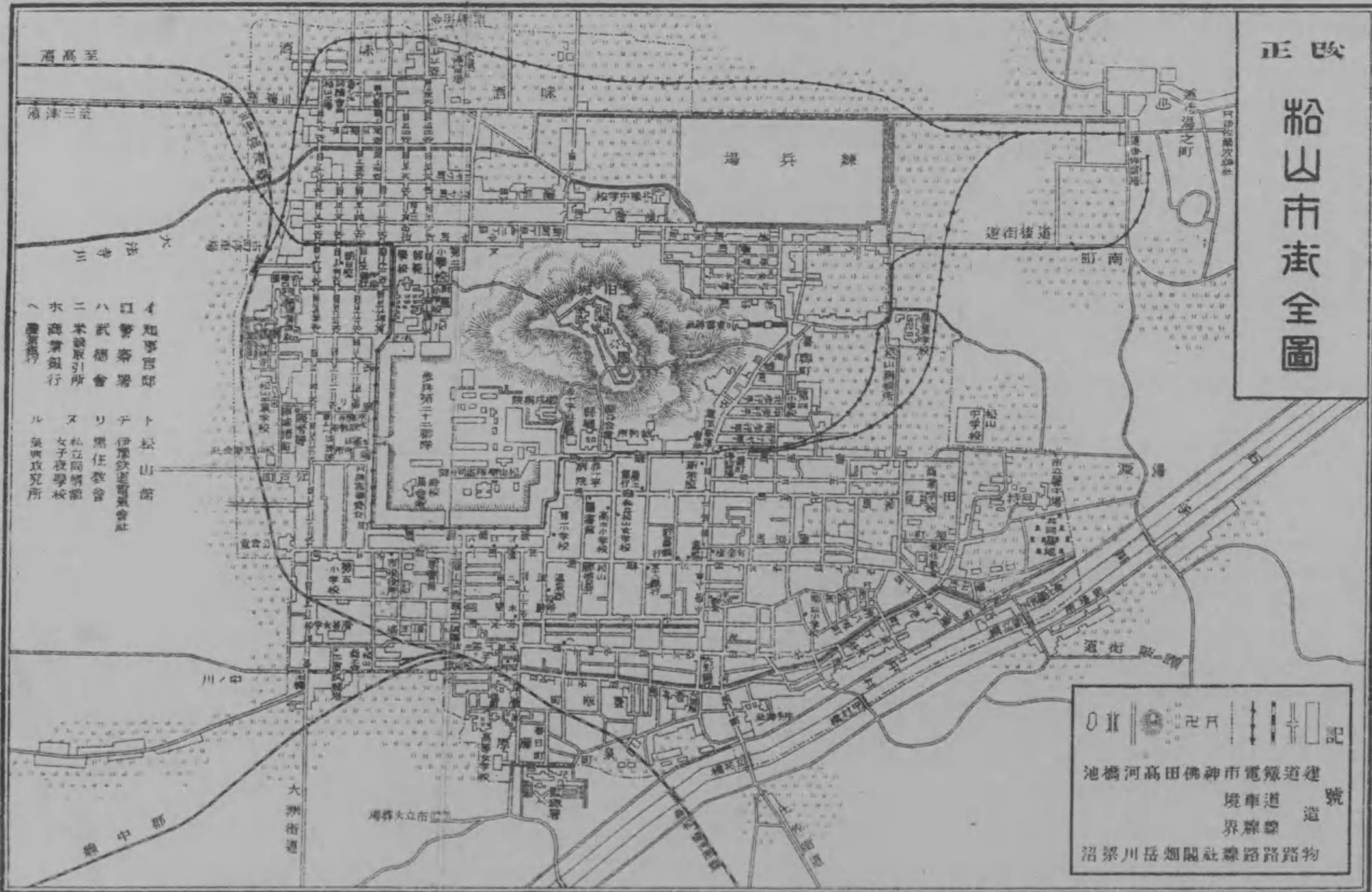
子
也
故





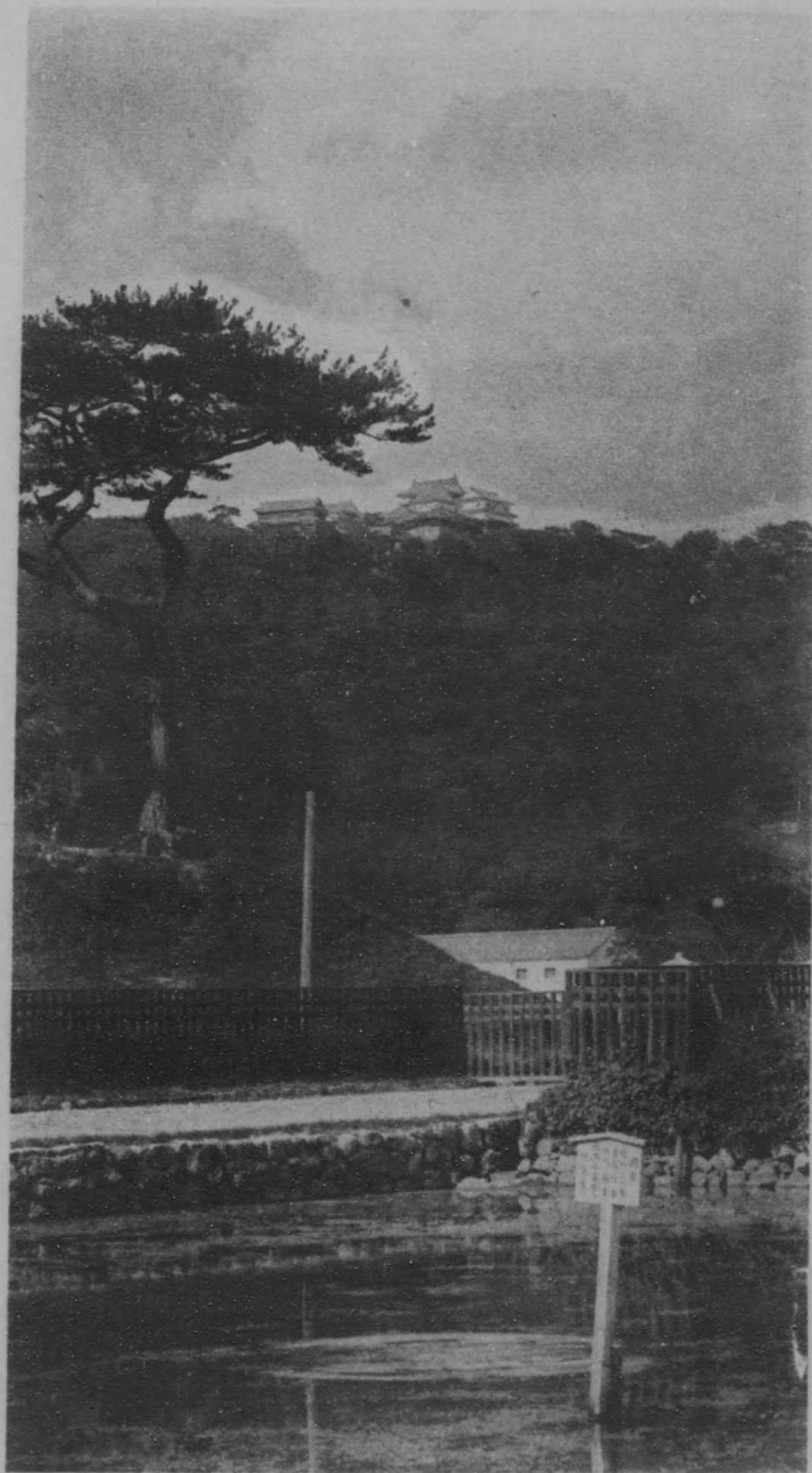
正改

松山市街全圖



- 4 知事官邸
- 1 警察署
- 8 武蔵會
- 2 本郷引所
- 水 商業銀行
- ル 松山女子夜學校
- ル 松山女子夜學校
- ル 松山女子夜學校

記
 池橋河高田佛神市電線道建
 境車道
 界線線
 沼梁川岳畑關社線路路物

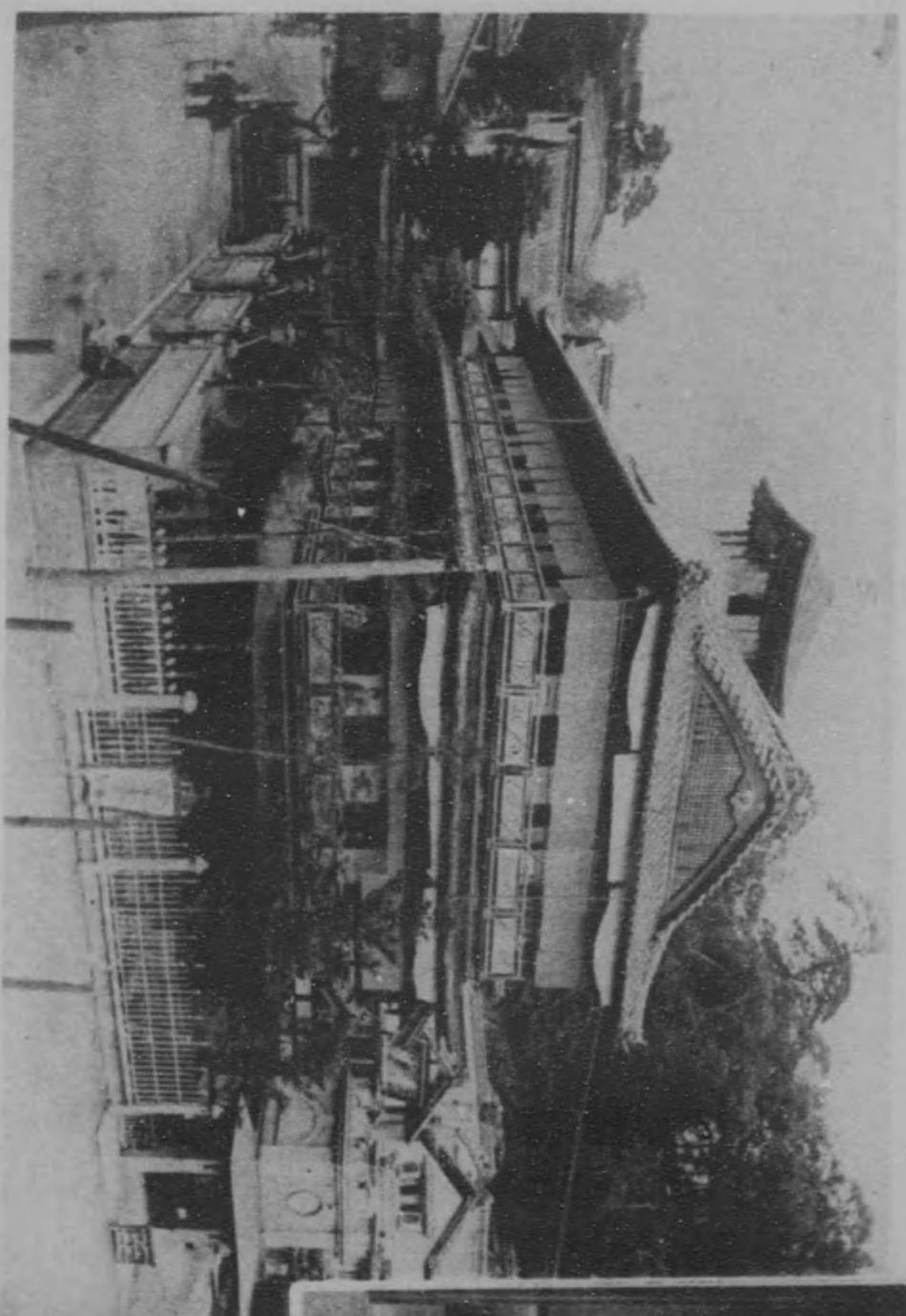


(關城山城) 景全城山松

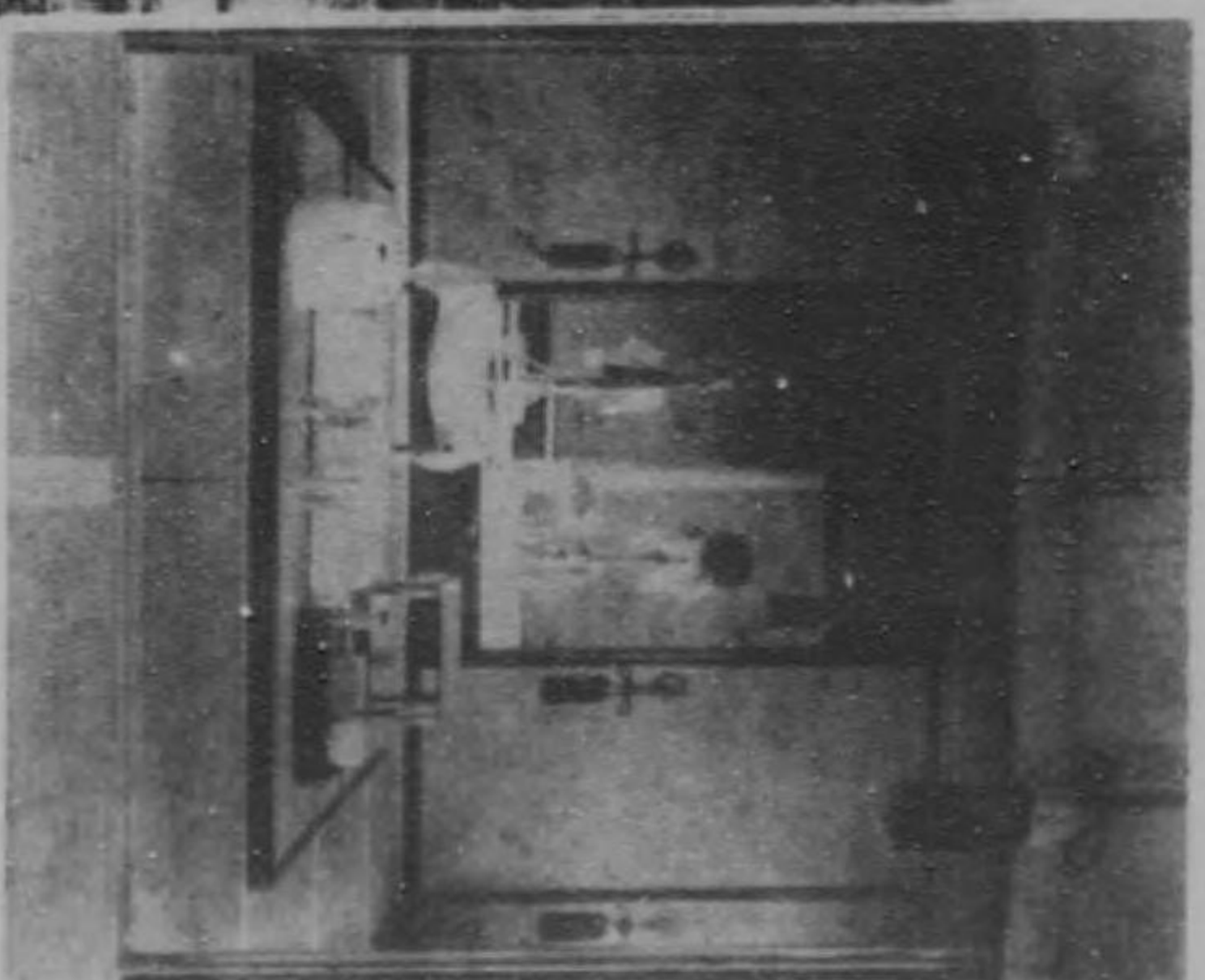
松山城

松山城は今より三百十五年前、慶長八年十月、加藤左馬之助嘉明の手に依りて竣工したる、天下の名城なり。寛永十二年松平隱岐守定行、伊勢桑名より移つて城主となりし以來、連綿相繼ぎ、明治二年久松家第十五代定昭、城地を奉還して遂に廢城となり、一時陸軍省管轄地として庶人の登山を許さざりしも、明治四十三年に至り、松山市は陸軍省より貸與を受けて公園とし、今や四時遊覽の客を以て城域を賑はすに至れり。

- 城山高さ 七十二間(天主閣臺迄)
- 城山惣廻り 千七百五十五間(三十町十五間)
- 本丸 東西三十四間、南北三十間五尺
- 本櫓高さ 十間
- 石垣廻り 七町四十二間
- 本丸井深さ 二十六間



泉 温 後 道

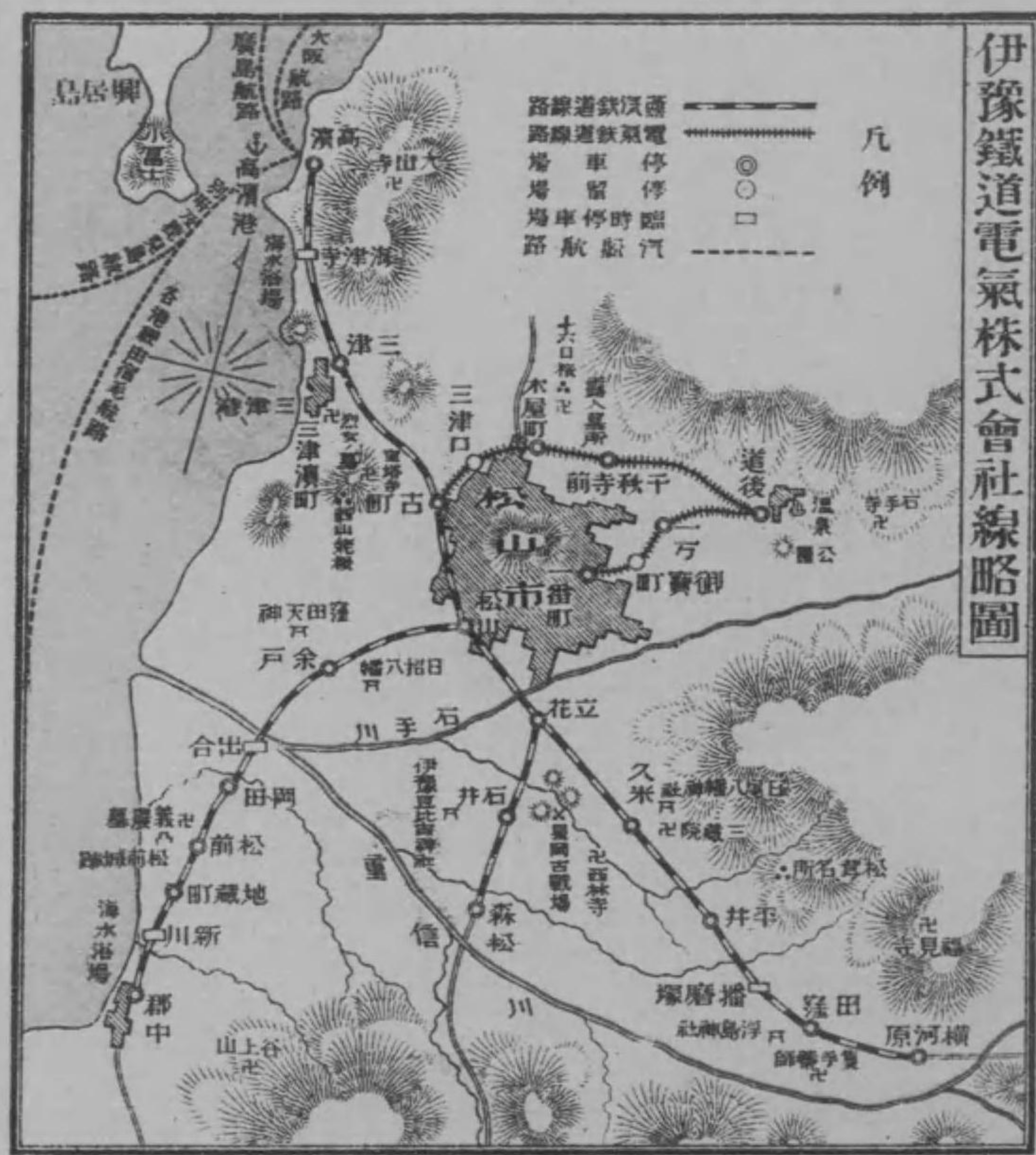


室 賓 貴

道後温泉

神代の昔、大國主命が發見し給ひたる靈泉にして、近來ラヂウム含量全國温泉中の自眉と稱せらる、皮膚病、痲瘋、肋膜炎、貧血症、慢性腸胃病等に効能著し、浴室は神の湯、靈の湯、養生湯、松の湯等に分かれ、浴槽は何れも花崗石にして、透明玲瓏の温泉衰々として湯口より瀧をなし、天然の温度よく人體に適す。

伊豫鐵道電氣株式會社線略圖



創立明治二十九年九月
 資本金四百萬圓
 貨客運輸並電灯電力供給
 松山市湊町五丁目
伊豫鐵道電氣株式會社

本社用 圓七番
 電灯用 圓十五番、二百十七番
 鐵道用 二〇七番、二二三番



高濱港ヨリ海面ヲ望ム



海上ヨリ高濱港ヲ望ム



海上ヨリ三津濱港ヲ望ム



三津朝市場

資本積立金
七拾貳萬五千元

株式會社
五十二銀行

本店電話 五二番 四〇三番

支店 今治、三津濱、郡中、宇和島町、
砥部、西條、三島、

出張所

高濱、森松、上灘、松前、
大街道、新居濱、
今治常盤町、松山本町

本店電話 五八番 五一七番

松山市三番町

高濱港

縣下重要な良港にして松山市の關門なり、海上には伊豫の小富士の稱ある興居島横たはり、瀬戸内海中屈指の勝景と稱へらる。

三津濱港

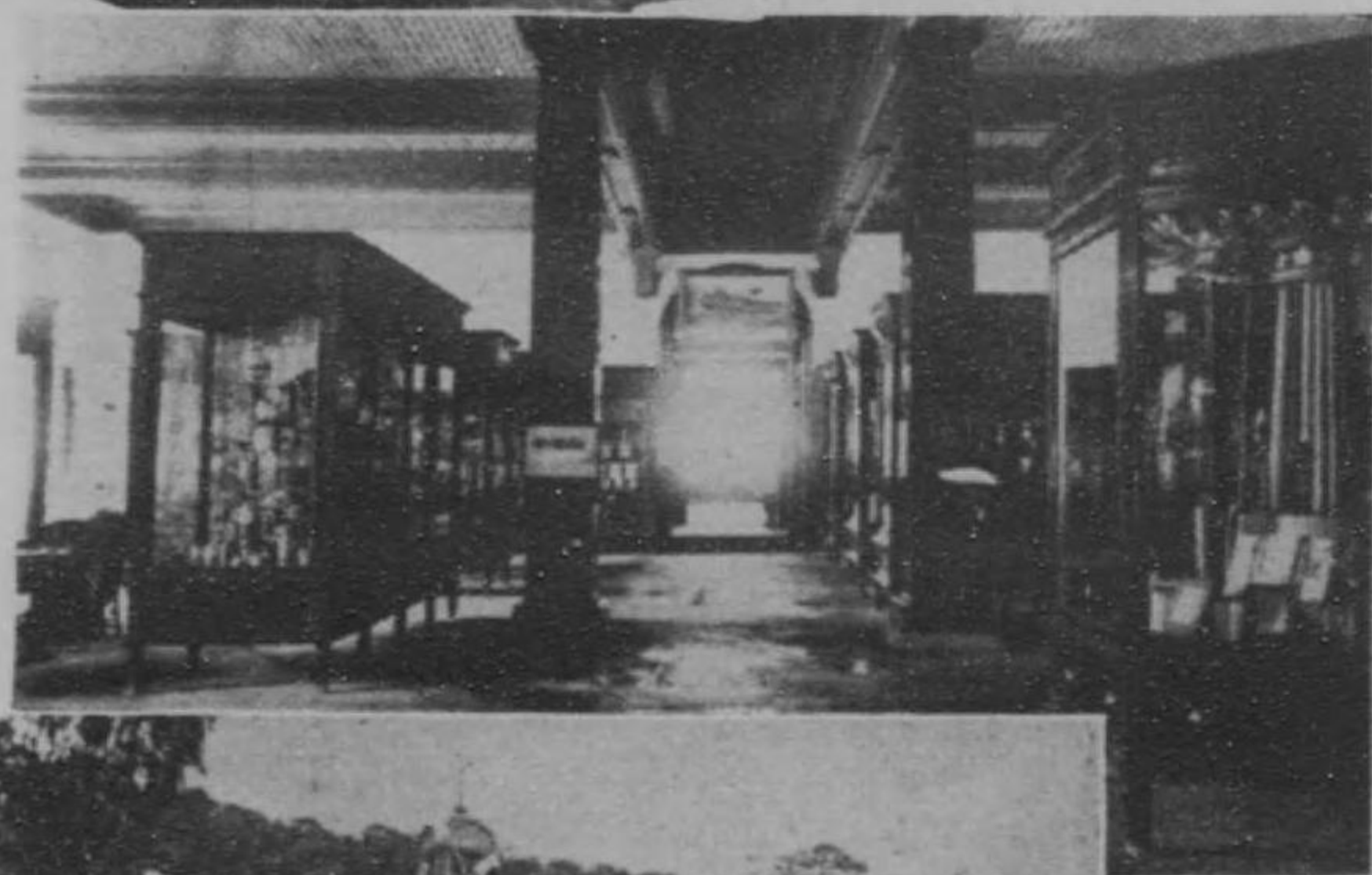
高濱港と相俟つて瀬戸内海の要津なり、港頭の魚市場は毎朝之を開き、元和二年の創立にして關西の巨擘と稱せらる。

索道（自郡中町至中山村）



郡中港

愛媛縣物産陳列場内部



愛媛縣物産陳列場



郡 中 港

松山を距ること西南三里北豫海岸の要津なり、港頭の彩濱館は白砂青松の裏にありて眺望に富む、中山町に至る索道は延長四萬六千二百九十二呎に互りて全國中最長のものなり。

愛媛縣物産陳列場

愛媛縣物産陳列場は大正三年三月新築に係る。構造は木骨外部鐵筋混泥土二階建瓦葺にして兩妻地下室及中央望遠臺付一棟建坪三百一十一坪五合とす、之が形体は復興式を採用基礎石造とし、前後左右各石造昇降口を設置す。敢て輪奐の美なきも工事の堅牢と會堂の廣大とは本館の特色とする所なり。

松山商工會々議室



松山商工會

松山商工會

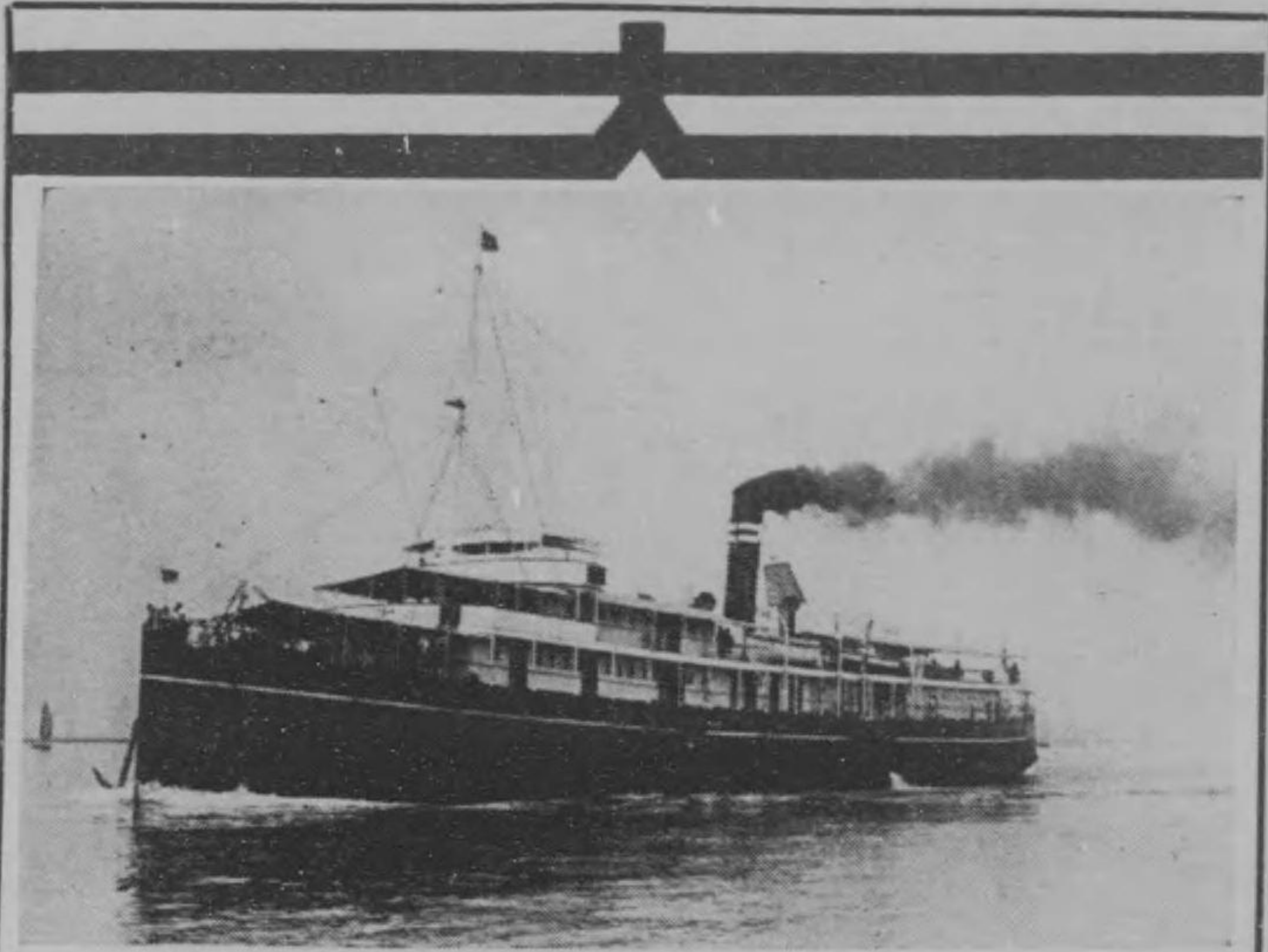
松山商工會は明治三十一年の創立にして、今や市内商工業家の大多數を網羅し、市の商工業發展に對して貢獻する處大なり。役員は會長一名、副會長一名、専務理事十一名を以て常務を處理し、理事三十名、常議員七十名ありて、會務を審議決定し、尙若干名の相談役ありて重要會務の顧問たり。其他調査部會あり、分つて商業、工業、理財、統計、運輸の五部とし、屢次會合して各部專屬の事項を調査研究せり。

はしがき

拜啓

伊豫二名の島とは神代より聞えたる處に有之就中伊豫の道後は、人皇第七代孝靈天皇を肇め奉り景行、仲哀、舒明、齋明、天智、天武六帝の行幸地たるのみならず今上陛下東宮に在らせられたる時、行啓の温泉にて其の名夙に高く、近來ラヂウムを多量に含めることの發見せられてより、湯治の効驗益々喧傳せられ候。特に松山市は伊豫全國を統轄せる愛媛縣廳の所在地にて東數十歩に此の靈泉湧出し、西に風光明媚の瀬戸内海を湛へ、氣候溫和にして人情自ら醇朴に御座候。かの日清日露兩役は固より、近くは青島俘虜收容地として其の名を世界的に擴め候、市の中央に聳ゆる勝山城は三百餘年前、加藤左馬之助の築きたるものにて、依然舊形を存し天下の名城と稱せられ候、百聞は一見に如かず是非御來遊被成下度候 敬具

松山商工會



丸みなれく

◇高濱港汽船出帆時刻◇

上
り

- 神戸大阪行 毎日朝七時發……今治、多度津、高松、寄港、
- 神戸大阪行 毎日朝十時半發……今治、多度津、坂出、高松、寄港
- 神戸大阪行 毎偶日夜十時發……紅丸、愛媛丸、高松寄港
- 神戸大阪行 隔日朝七時發……東豫沿岸各港及讃岐各港寄港

下
り

- 宿毛行 毎日朝八時半發……長濱、南豫、各港寄港
 - 細島行 毎日晝二時半發……長濱、豊後、日向沿岸各港寄港
 - 別府行 毎奇日朝八時半發……紅丸、愛媛丸、直航
 - 門司行 隔日夕七時半發……郡中寄港
 - 宇品行 毎日朝夕二回發……音戸、吉浦寄港
- 尚ホ内海、油津、鹿兒島行及山陰各港行毎月數回寄港ス

大 阪 商 船 株 式 會 社

凡 例

一 本書は松山に來遊し、若くは市勢の一斑を知らんとするもの、便宜に供せんことを期せり。故に其の記述は専ら簡明を旨とし、單に要點を摘記するに止めたり。

一 書中の商工人名録は、孰れも信用確實なる商工業者を網羅せるものなり。

一 本書の記事は力めて精確なることを期せしも、尙粗漏の點なき能はず、漸次版を重ねて之れが完璧を期す。

人造洋監、各種染料、小麥澱粉、
工業藥品、工業雜品、果樹藥品、
製紙原料、住友肥料、各種肥料

松山市水屋町三丁目

村上商店

電話四番

目次

松山市街全圖	(口)
松山城全景	(繪)
道後溫泉	(同上)
高濱及三津濱	(同上)
郡中港及物産陳列場	(同上)
松山商工會	(同上)
松山市役所、松山市古町、同外側	(寫真版)
湯の山發電所、松山電氣軌道株式會社、伊豫鐵道電氣株式會社	(同上)
鍵谷カナ子肖像、菊屋新助手簡、主要物産	(同上)

伊豫織物同業組合、松山瓦斯株式會社、倉敷紡績株式會社松山工場、田内機織所……(寫真版)	二
五十二銀行、松山商業銀行、農工銀行……	(同)
伊豫農業銀行、仲田銀行、伊豫米穀取引所……	(同)
愛媛縣廳、松山地方裁判所、步兵第二十二聯隊兵營……	(同)
愛媛教育協會圖書館、武德殿、日本赤十字社愛媛支部病院……	(同)
愛媛縣師範學校、松山中學校、松山商業學校、松山農業學校……	(同)
松山高等女學校、工業學校、北豫中學校、盲啞學校……	(同)
松山公園、道後公園、東雲神社、大林寺……	(同)
新榮座、壽座、有樂座……	(同)
道後湯之町、郡中町、三津濱町……	(同)
女子師範學校、湧夕淵、重信橋、岩堰……	(同上)

市氣沿市	候勢	(一)
市氣沿市	改革	(一)
市氣沿市	政	(二)
市氣沿市	關	(四)
市氣沿市	關	(五)
市氣沿市	通	(三)
市氣沿市	機	(四)
市氣沿市	機	(五)
市氣沿市	瓦	(六)
市氣沿市	業	(一六)
市氣沿市	業	(一四)
市氣沿市	業	(一三)
市氣沿市	業	(一五)
市氣沿市	業	(一六)
市氣沿市	業	(一七)
市氣沿市	業	(一八)
市氣沿市	業	(一九)
市氣沿市	業	(二〇)
市氣沿市	業	(二一)
市氣沿市	業	(二二)
市氣沿市	業	(二三)
市氣沿市	業	(二四)
市氣沿市	業	(二五)
市氣沿市	業	(二六)
市氣沿市	業	(二七)
市氣沿市	業	(二八)
市氣沿市	業	(二九)
市氣沿市	業	(三〇)
市氣沿市	業	(三一)
市氣沿市	業	(三二)
市氣沿市	業	(三三)
市氣沿市	業	(三四)
市氣沿市	業	(三五)
市氣沿市	業	(三六)
市氣沿市	業	(三七)
市氣沿市	業	(三八)
市氣沿市	業	(三九)
市氣沿市	業	(四〇)
市氣沿市	業	(四一)
市氣沿市	業	(四二)
市氣沿市	業	(四三)
市氣沿市	業	(四四)
市氣沿市	業	(四五)
市氣沿市	業	(四六)
市氣沿市	業	(四七)
市氣沿市	業	(四八)
市氣沿市	業	(四九)
市氣沿市	業	(五〇)
市氣沿市	業	(五一)
市氣沿市	業	(五二)
市氣沿市	業	(五三)
市氣沿市	業	(五四)
市氣沿市	業	(五五)
市氣沿市	業	(五六)
市氣沿市	業	(五七)
市氣沿市	業	(五八)
市氣沿市	業	(五九)
市氣沿市	業	(六〇)
市氣沿市	業	(六一)
市氣沿市	業	(六二)
市氣沿市	業	(六三)
市氣沿市	業	(六四)
市氣沿市	業	(六五)
市氣沿市	業	(六六)
市氣沿市	業	(六七)
市氣沿市	業	(六八)
市氣沿市	業	(六九)
市氣沿市	業	(七〇)
市氣沿市	業	(七一)
市氣沿市	業	(七二)
市氣沿市	業	(七三)
市氣沿市	業	(七四)
市氣沿市	業	(七五)
市氣沿市	業	(七六)
市氣沿市	業	(七七)
市氣沿市	業	(七八)
市氣沿市	業	(七九)
市氣沿市	業	(八〇)
市氣沿市	業	(八一)
市氣沿市	業	(八二)
市氣沿市	業	(八三)
市氣沿市	業	(八四)
市氣沿市	業	(八五)
市氣沿市	業	(八六)
市氣沿市	業	(八七)
市氣沿市	業	(八八)
市氣沿市	業	(八九)
市氣沿市	業	(九〇)
市氣沿市	業	(九一)
市氣沿市	業	(九二)
市氣沿市	業	(九三)
市氣沿市	業	(九四)
市氣沿市	業	(九五)
市氣沿市	業	(九六)
市氣沿市	業	(九七)
市氣沿市	業	(九八)
市氣沿市	業	(九九)
市氣沿市	業	(一〇〇)

各種團體	病院及醫師	公共營造	教育	新宗教	神社寺院	名所舊蹟	地方行事	旅館	料理屋	遊藝場、活動寫真	土産	道後湯之濱	三津濱	高津濱	郡中
.....
(七)	(元)	(元)	(四)	(四)	(四)	(四)	(四)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(七)	(七)	(共)

松山案内

木勢

松山市は伊豫國の中央部に位し、道後平野の西南部を貫流する石手川の右岸に在り、愛媛縣廳の所在地にして、三津、高濱の兩港を距ること一里半、東方十餘町にして道後温泉あり、廣袤は東西二十三町、南北二十二町にして、周圍の延長二里十五町に及ぶ市の中央に聳ゆる城山は海拔七十二間あり。

氣候

雨量少くして快晴の日多く、空氣乾燥にして健康に適す、既往二十ヶ年に於ける年平均溫度華氏六十度、八月平均七十九度、二月平均四十度に及び、寒

まつやま

松山商工人名錄

【イ】之部

印刷業

印刷、紙合名會社	魚町二丁目	松山町	向陽社	電一四二
印刷、紙	魚町二丁目	福田合名會社		電二二一
印刷、紙	萱町一丁目	關		電一
印刷	出淵町一丁目	田坂印刷所		電七二三
諸印刷	松山石版印刷所	福島忠太郎		電五一五

暑共に甚しからず、又天變地異頗る稀にして人情自ら温雅なり。

沿革

慶長五年關ヶ原の戦に、東軍の先鋒たりし加藤左馬之助嘉明、戦功に因りて二十萬石に増加せらるゝや、慶長七年正月勝山を下して工を起し、翌八年十月竣工し、舊城松前より茲に移ると共に城下を區劃して家臣の邸宅、商工の店舗を設く、是れ松山市の起源にして、大正七年より三百十五年前なり。

嘉明松山城に居ること二十三年にして奥洲會津城に移る、寛永四年蒲生忠知、出羽上山城より松山二十萬石に封ぜられ、居ること七年、寛永十一年八月參勤交代の途次、京都に客死し嗣なくして國除かる、後徳川家康の異父弟久松定勝の長子松平定行、松山

絲商

綿糸	菅野仙次郎 電四一八
綿糸、砂糖	唐人町一丁目 勝岡茂市郎 電一三七
綿糸、荒物	末廣町一丁目 佐伯久太郎 電五七
綿糸卸	西堀端町 泉安太郎 電六三六
綿糸	萱町三丁目 垂水幾太郎 電四〇二

鑄物

鑄造鐵工	唐人町三丁目 豊田鑄造所 電七三一
石工	湊町二丁目 小田元一
石工	湊町二丁目 鴻田忠次郎 電一七九乙
煎豆	千舟清水町 煎豆、花あられ 電五四八

【口】之部

十五萬石に封ぜられ、寛永十二年九月（二百八十二年）伊勢の桑名より之に移る、以來久松家累代の城下たりしが、明治初年に至り、第十五代久松定昭城地を奉還せり。

藩政時代の行政は、東西兩町奉行あり、月次交代を以て之を行ひ、大年寄、町年寄、組頭等之れに屬せり。明治四年廢藩置縣後は、松山を若干の區に分ちて戸長を置き、大區長或は郡長之を統轄せり。後明治二十二年十二月市町村制實施と共に市制を布きて松山市と稱するに至れり。

二百餘年前なる正徳年間には松山町數七十一にして戸數一千七百三十六と稱せられしも、現今町數百十六、戸數一萬四千〇六十三戸、人口五萬四千三百十五人に及べり。

市政

市制實施以來市長に選舉せられたるは、木村利武、白川福儀、淺野長道及び現市長長井政光にして、何れも其職に適ひ自治體に於ける諸般の設備能く整へり、大正七年度經常部豫算高金拾貳萬貳千六百六拾五圓、臨時部豫算高金四萬五千八百參拾圓にして臨時部の主なるものは小學校建築費及び下水道工事に關する費用なり。

尙大正四年度より向ふ三ヶ年間の繼續事業として、全市に下水道を敷設することとなり、參拾餘萬圓の豫算を以て目下工事中に屬し、工程着々進行せり。現在の市會議員左の如し。

議長 伴 政孝 副議長 山崎 集
市參事會員 岩田 正雄 同 宇和川濱藏

蠟燭、油製造

蠟燭、諸油 唐人町三丁目 古川 慶次 電 一六七

蠟燭、香油、びん附製造 石鹼、マツチ卸商 松山市紙屋町 井上 本店 電 四一〇

蠟燭、諸油 淡町一丁目 露口 幸次郎 電 六二三

蠟燭、諸油 木屋町三丁目 加藤 勝次郎 電 五三九

石油、輕油、種油 機械油、香油 唐人町二丁目 松岡 油店支店 電 三五〇

市參事會員 黑田此太郎 市參事會員 山本義晴
同 山本昌信 同 檜垣喜太郎

富田嘉吉 郷田藤次郎
村瀬正敬 清水義彰
堀内胖治郎 岡田源之助
佐伯 保 天野義一郎
世良作藏 森 亮太郎
津守 歡三 白石 務
長坂周次郎 柳原正之
櫻井清與 向井愛次郎
和田佐七 相原槌太郎
三井新太郎 重川富五郎

〔八〕之部

履物、花緒

履物卸問屋 木屋町三丁目 玉井 嘉正 電 五一

分

大街道角本店 やまゝん履物店 淡町二丁目支店 (八〇二電)

履物 淡町四丁目不動銀行前 菊屋 商店

履物 淡町五丁目 三好屋 商店

交通機關

陸路

香川縣より本縣宇摩郡三島町に入れる院線豫讃鐵道も近く松山まで開通せんとし、郡中町より大洲町を経て八幡濱に至る愛媛鐵道も既に一部の開通を見、縣下の交通機關日を逐ふて完成せんとす、殊に松山より縣下各地に至る陸路の交通は十分ならざるも、元來松山地方は米の産額三十萬石を越ゆる温泉伊豫の二郡を控ふる所謂道後平野にして、道路坦々砥の如く、往來極めて便に、加ふるに鐵道電車の便多く最近自働車の各地に通ずるあり交通最も便なり。

(鐵道)

伊豫鐵道は明治二十一年十月、松山三津濱間の開通を見たるを始めとし、爾來他會社との併合、線路延長等幾多の沿革を経、尙最近伊豫水力電氣株式會社と合同して電氣事業をも兼營し、目下左の數線を運

履物	三島町五丁目 利吉
履物	淡町四丁目 黒屋
履物	木屋町三丁目 玉井莊三郎
履物	淡町四丁目 梶原時安
履物	花緒、履物卸 合名 淡町一丁目 森松履物部
履物	丸又 松田商店
履物	淡町三(魚の棚)
肉類	【二】之部

轉して荷客の便を計れり。

高濱線 (松山) 古町 三津濱 梅津寺

高濱 (高濱) 五哩四十九鎖

横河原線 (松山) 立花 久米 平井

田窪 横河原 八哩十八鎖

郡中線 (松山) 余土 岡田 松前

地藏町 新川 郡中 六哩五十六鎖

森松線 (松山) 立花 石井 森松

三哩五十一鎖

道後線(電車) (古町) 三津口 木屋町 千

秋寺 道後 一萬 御寶町

一番町 三哩二十二鎖

(表中の○印は時期に依り開驛するもの)

牛内	三島町 脇島 電二クニ
牛肉豚肉氷室	淡町五丁目 水木重太郎
牛肉	小唐人町三丁目 志村道之助
牛肉、かしわ、うなぎ、蒲焼	淡町四丁目(不動銀行横) 黒川商店
荷車貸付	本町四丁目 浮穴徳太郎
【木】之部	
紡績	

松山電氣軌道は明治四十四年九月の開業にして、三津濱を起點とし、松山市を通過して道後を往復する廣軌式軌道なり。其の中間に設けたる停留場は左の如く、乗客輸送の外、貨車を運轉して貨物の運輸に便せり。

三津濱江の口(起點)堀川 住吉町 新立
 三本柳 山西 江戸谷 知新園前 衣
 山 六軒家(車庫前)萱町 本町 札の辻
 西堀端 南堀端 榎前 八股 裁判所
 前 一番町 六角堂 農事試験場前
 公園前 道後(終點) 六哩六十鎖

(道路)

國道讚岐街道は、松山より川上を經、櫻三里を過ぎ、小松、西條、川之江を經て讚岐國境に至る、延長

紡績糸

三津口町 電一〇番三六〇番
 倉敷紡績株式會社
 松山工場

帽子製造

帽子足袋

湊町四丁目
 矢野孫太郎

保 險

保 險

湊町四丁目 電四三九
 帝國生命保險株式會社
 松山出張所

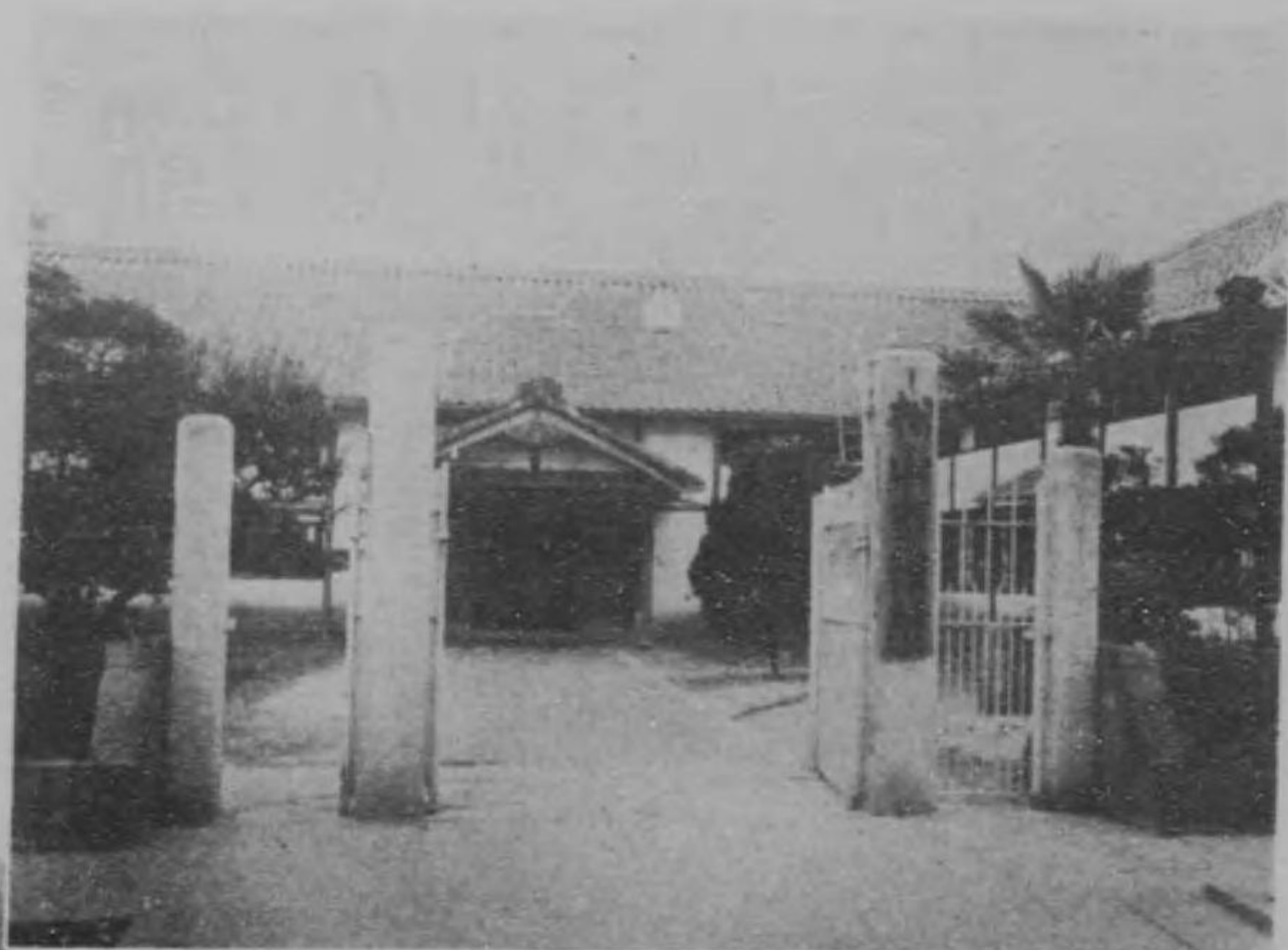
唧筒販賣

唧筒、噴霧器

小唐人町三丁目
 山田 唧筒 八部
 電四

【へ】之部

松山市役所



松山市古町



松山市外側



伊豫鐵道電氣株式會社湯の山發電所



伊豫鐵道電氣株式會社
(燒失前建物)



松山電氣軌道株式會社

二十里餘。

國道八幡濱街道は、松山より郡中を經、犬寄峠を過ぎ、中山、内子、大洲を經て八幡濱に到る、延長二十里。

縣道今治街道は、松山より北條、菊間を過ぎ今治に達す、延長十一里餘。

縣道土佐街道は、松山より森松、砥部を經、三阪峠を過ぎ、久万町を經て土佐國境に達す、延長十五里二十五町。

以上の各線何れも俾、馬車を自由に通ずることを得べく、八幡濱街道並に讚岐、今治兩街道には乗合自動車あり。

松山市(愛媛縣廳を起點)より縣下主要地への距離
北條 四里三町 波止濱 十一里十町

まつやま

米 數

米穀、肥料	新立町
米穀、雜貨	波邊嘉市
米穀、雜貨	電六二七
米穀、荒物	專賣特許改良麥製造元
米穀、雜貨	柳井町
米穀、雜貨	町野丈太郎
米穀、雜貨	電三〇五
米穀、雜貨	末廣町一丁目
米穀、雜貨	大西眞木造
米穀、雜貨	小唐人町三丁目(停留場前)
米穀、雜貨	佐藤キク
米穀、雜貨	御寶町
米穀、雜貨	中岡國太郎

今 治 十一里十七町 西 條 十四里二十六町
 三島二十二里二十九町 川之江 二十四里八町
 郡 中 三里十町 中 山 七里六町
 内 子 十里三十一町 大 洲 十四里九町
 長 濱 十六里十六町 八幡濱 十七里二十六町
 宇和町 十九里十六町 宇和島 二十五里五町
 久万町 七里二十六町

海 路

本縣は海岸線の屈曲甚だしく、且つ一衣帯水を以て、
 中國九州に接せるため、海運の發達著し。其の主な
 るものを列擧すれば左の如し。

大阪商船高濱經由諸航路(高濱出帆時刻及航路)

(大正七年九月現在)

大阪別府線

每奇數日午前八時半發別府大分行
 每偶數日午後十時發高松神戸大阪行

米 穀	北 京 池 田 町 嘉 太 郎
米 穀	柳 會 井 我 龜 吉
米 穀	南 八 坂 原 町 虎 吉
米 穀、肥料	新 立 森 町 源 次 郎
米 穀、荒物	西 堀 端 町 白 石 瀧 五 郎
米 穀	木 屋 町 五 丁 目 山 中 松 五 郎
米 穀、薪炭	千 舟 町 吉 田 惟 行
米 穀、荒物	魚 町 四 丁 目 長 井 市 次 郎

本航路には改良客船紅丸(千四百噸)と愛媛丸と
 を以て、大阪別府隔日出帆とし、愛媛丸は上り
 今治にも寄港す。

大阪四國線

毎日午前八時半發、長濱、川之石、八
 幡濱、吉田、宇和島、深浦、宿毛行。
 毎日午前十時半發、今治、多度津、阪
 出、高松、神戸、大阪行。

大阪細島線

毎日午後二時半發、長濱、守江、日
 出、別府、佐賀關、臼杵、佐伯、
 蒲江、古江、土々呂、細島行。
 毎日午前七時發、今治、多度津、高
 松、神戸、大阪行。

本航路は細島を終點とせるも、内海、鹿兒島方
 面行の荷客は毎日(一、六の日を除く)佐賀關又
 は細島に於て大阪鹿兒島線に接續す。

米 穀	南 歩 行 町 石 原 德 次 郎
米 穀、荒物	魚 町 四 丁 目 渡 邊 源 治 郎
米 穀、煙草	東 渡 部 町 奎 藏
米 穀、薪炭	南 京 渡 部 甚 之 助
米 穀、煙草、雜品	御 寶 子 半 藏
米 穀	杉 谷 八 塚 嘉 宗 太
米 穀、荒物	南 京 越 智 實 太 郎
米 穀、荒物	湊 町 五 丁 目 坂 和 昌 熹

大阪門司線

(四國經過)

隔日午後七時半發、郡中、門司行。但中津、宇ノ島に寄港することあるべし。

隔日午前七時發、今治、壬生川、西條、新居濱、三島、川之江、觀音寺、多度津、高松、神戸大阪行。

大阪山陰線

一ヶ月十回午前五時發、下關、仙崎萩、須佐、江崎、濱田、溫泉津、和江、久手、杵築、境、馬潟、米子、安來行。

一ヶ月十回午前六時半發、今治、多度津、高松、神戸大阪行。

宇品高濱線

毎日午前八時、午後五時二回發。吉浦、宇品行。

本線は山陽道と本縣との最も近き航路にして、

米穀、新炭 辨天町 友澤福三郎

【ト】之部

陶器

砥部焼陶器 淡町三丁目 向井和平出張店 電五三五

各國陶器、砥部焼竹巻陶器各種 大洲街之内 元太郎

松山特産水月焼 砥部焼、竹巻陶器 大街道 樋口正義

美術陶器 淡町二丁目(魚の棚) 二宮里七郎

吉浦にて院線と伊豫鐵道との連絡を保てり。

以上は大阪商船株式會社の航路に屬するも、更に三津濱を起點とする左記の航路ありて、旅客に便する所極めて大なり。

三津尾道線

毎日午前六時半午後二時半の二回三津濱を出帆して高濱に寄港し午前七時午後三時同港出帆尾之道に直航し、同驛にて院線上下列車に接続す。

其他三津濱及高濱を出帆して、海上に散布せる島嶼を巡航し、山口縣の大島、柳井津に達する航路並に三津濱より郡中、長濱、三机等の沿岸を航海せるものあり、海上の交通遺憾なし。

通信機關

市内郵便局は松山郵便局(三番町)の外、本町、木屋

九谷焼陶器 松前町二丁目 朝日勝太郎

陶器、石炭 西堀端町 寺尾喜一郎

度量衡器

度量衡器製造 木屋町五丁目 廣藤義八 電八〇九

度量衡器販賣 淡町四丁目 世良作藏 明治二十六年創業

度量衡器 本町二丁目 多賀梅次郎 振替大阪三三五〇

時計商

町、一番町、唐人町、湊町、湊町五、萱町の七局ありて、一般郵便事務を處辨し、電信設備の完整せるは勿論、電話又自在にして、左に表示せる縣内主要地並に大阪、神戸、岡山、尾道、廣島、吳、草津、嚴島、音戸の都市に通ず。

松山局の縣内通話區域

川之江 三島 西條 小松 丹原 壬生
 川 三芳 櫻井 今治 波止濱 高濱
 三津濱 郡中 内子 新谷 粟津
 長濱 大洲 八幡濱 川之石 伊方 卯之町 野村 吉田 宇和島 岩松 平城

電氣瓦斯

市の電氣事業は、伊豫電氣鐵道株式會社と松山電氣鐵道株式會社とに依りて經營せらる。伊豫電氣鐵道

時計	時計	時計	時計、指輪	時計	時計	時計、眼鏡	時計、貴金屬	時計、眼鏡	時計修繕販賣
湊町四丁目	湊町三丁目	大服部	大佐街	湊町四丁目	千尾崎	三番尾崎	千尾崎	千船尾	湊町二丁目
電ヤ時計本店	電四六環	電七〇七店	伯道 虎雄	松田 通孝	船尾崎 勢二郎	番尾崎 貞五郎	尾崎 榮藏	船尾崎 榮藏	尾崎 榮藏

株式會社は、明治三十五年の創立に繋がる伊豫水力電氣株式會社と、大正六年一月合併して汽車電車の運轉、電燈及び電力供給の事業を兼營す。同社は石手川の上流、並に上浮穴郡柳谷村黒川に發電所を設け二千馬力の電力を有するも、其營業區域は松山市、道後、高濱、郡中、三津濱を始め、遠く喜多郡及越智郡に涉り、殊に近時實業界の發展は到底現状を以て之れが需用を満たすに足らざるを以て、目下發電所増設の計畫中に在り。

松山電氣鐵道株式會社は、明治四十四年の開業に繋がり、三津濱、松山、道後間の電車運轉及び電燈電力の供給を營む。同社の發電所も石手川の上流に在りて三百五十基の發電機二臺を運轉せり。

瓦斯事業は、松山瓦斯株式會社に依りて營まれ、市

土木建築請負	土木建築請負	土木建築請負	時計、眼鏡	時計	時計、眼鏡	時計	時計、眼鏡	時計、眼鏡	土木建築請負	土木建築請負	土木建築請負
辨天	白石	千船	久賞	西堀端	久賞	千船	久賞	久賞	千船	千船	千船
阪藏	阪藏	吉田勘次郎	中沼	門田	中沼	ニイノミ	中沼	中沼	吉田勘次郎	吉田勘次郎	吉田勘次郎

内の燈火、炊爨用並に動力の需用に應ぜり。同社は明治四十四年一月の開業に際り、七萬立方呎のタンクを有す。

産 業

松山市に於ける製産品の主なるものは、緋、綿絲、菓子、清酒、醬油、竹製品、指物、鐵製品等約三十種にして、生産額實に數百萬圓に達す、

(伊豫緋) 伊豫緋は、松山市を中心とし、温泉伊豫の二郡に亘りて製産せられ、其産額久留米緋を歴し、我國綿織物の主位を占む。近來異種織物の産出と時局の影響あるに拘らず、大正六年度に於ける産額百六十六萬三千七百九十反、價格四百貳萬參千九百七圓に及び、殆ど全國唯一の正藍織物として需要多く特に學生兒童の衣料に歡迎せらる。

土木建築請負業	花園町二丁目 安岡 卯助
土木建築請負 テリミトル特約販賣	三津口町 門屋 熊五郎
土木建築請負	木屋町五丁目 夷子 留藏
土木建築請負	花園町一丁目 木村 初次
道 具 商	
新道具賣買	萱町三丁目 木村 忠近
新道具賣買	淡町四丁目 山形 彦太郎
新古道具 卸小賣	大街道 宇野友三郎

鍵屋カナ子肖像



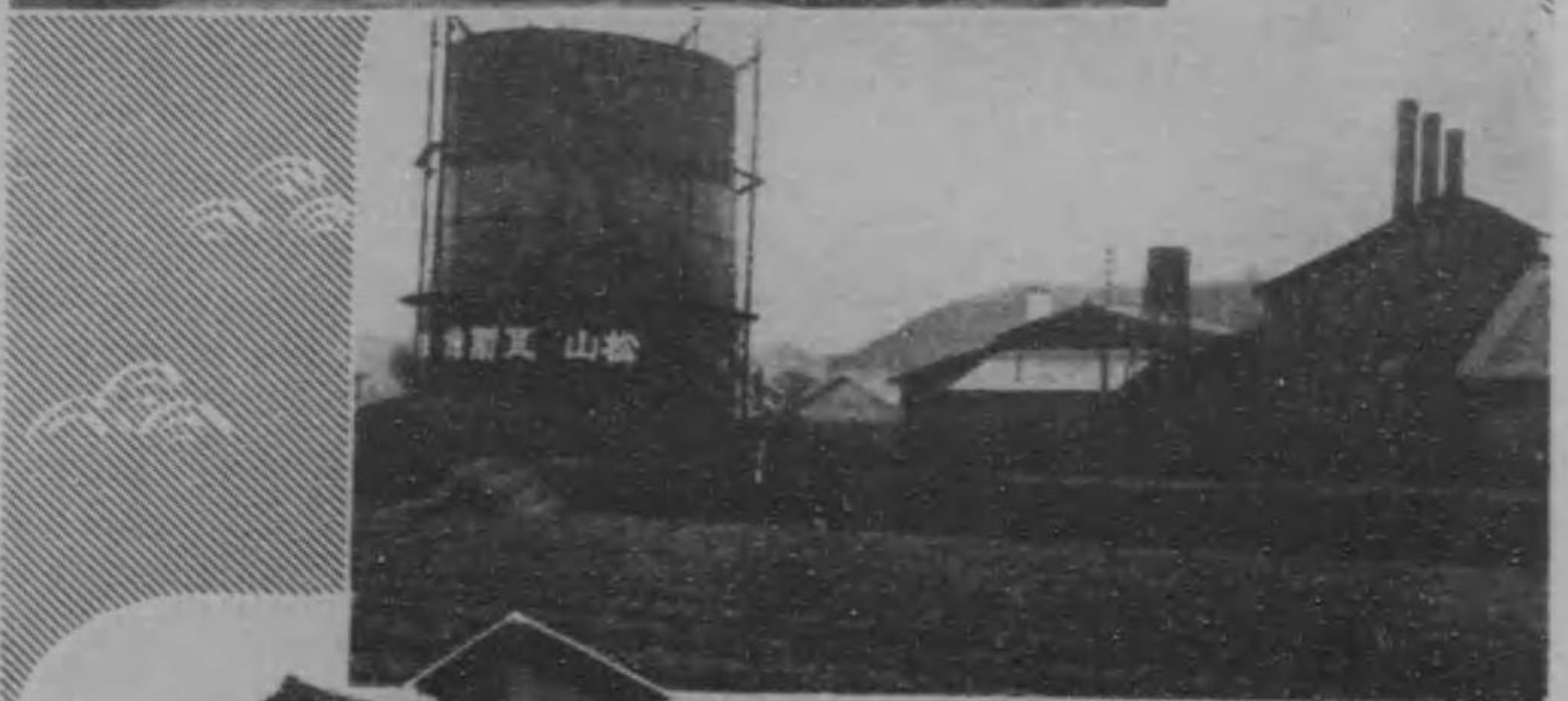
菊屋新助手簡

菊屋新助手簡
手簡の文は、菊屋新助手の簡便な手簡の文である。手簡の文は、菊屋新助手の簡便な手簡の文である。手簡の文は、菊屋新助手の簡便な手簡の文である。



主要物産

伊豫織物同業組合



松山五新株式会社

倉敷紡績株式會社松山工場

田内機織所

抑も伊豫絣の起源は、文政の頃松山市松前町の商人菊屋新助が、高機を工夫し盛に松山絣（一に伊豫結城）を織出し、藩廳の後援を得て、諸國に積出したるに始まる。新助が町奉行に出したる口上書の一節を見るも其の苦心と抱負の一斑を知るに足らん。

文政七年六月口上書の抜萃

（上略）高機絣他所相弘り候譯は私事年來工夫仕極上絣を織せ旅人の目を驚し候故一反の上絣は千端に響き追々評判宜敷他所遠國へ相聞え候故の儀に御座候得ば猶極上絣を織らせ結城絣等よりも餘程上品に仕立、京大阪は勿論九州關東迄日本一の木綿絣と評判爲仕度存念に御座候左候は、於御國夥出來候ても差支無之相捌可申者眼前の事に御

【子】之部

茶類

宇治茶
帳簿紙

淡町四丁目
三浦源十郎
電八二七

提灯製造

專賣特許中津式機械製
安山提灯

木居町三丁目
中津福次郎

提灯製造
原料各種卸

唐人町三丁目
安藤清七

彫刻

扶桑木細工
海松木菌工

千舟町
井上梧竹堂

座候 (下略)

新助の高機創作と相前後して、温泉郡垣生村今出
鍵谷カナ女、讃岐金比羅宮参詣の船中に於て感ず
る所あり、歸郷後刻苦慘憺の結果、小柄緋の機織
法を創め盛に之を近郷に傳へ今出緋と稱せらるゝ
に至る。

現今の伊豫緋はこの今出緋を一層改良し之をか
高機によりて織出し、大に世人に愛用せらるゝに
至りたるものにして松山緋は次第に減退せしも、
伊豫緋は全盛の期に達せり。然るに伊豫緋も一時
粗製濫造の弊を生じ其聲價を墜すこと鮮からざり
しが、明治十九年以後同業組合を設けて、之が改
良取締を勵行し、再び今日の盛況を見るに至りた
るものなり。現今伊豫織物同業組合事務所は、松

【リ】之部

旅	旅	旅	旅	旅	旅
館	館	館	館	館	館
三	魚町二丁目	三	三	三	三
佐々木	大岩目	大谷	渡部	城番	城番
旅館支店	電一トヨ	電三一九	電部町一ナ四三	電戸六七	電戸六七
八〇一					

山市紙屋町にありて、製産品の検査を行ふと共に、
其改良進歩を奨むること尠からず。

(綿糸) 倉敷紡績株式會社松山工場は明治二十六
年の創立に係る、錘數一萬六千五百十二錘を有し
年産價格壹百五拾萬圓に上れり。

(菓子) 舊藩時代より製法巧緻なるものありたる
が、維新後一段の進歩をなし、縣内は勿論中國九
州地方へ移出せらる。年産額參拾六萬圓に及び、就
中カステーラ、羊羹、餡物は特に好評を博せり。

(清酒) 一ヶ年の醸造高三千五百三十石にして價
格貳拾萬八千圓に及び大阪府、宮崎縣等に移出せ
らる。

(竹製品) 舊藩時代より技術巧妙なるものありたる
が、明治三十七八年頃より色付籠を創作し、神戸

旅	旅	旅	旅	旅	旅
館	館	館	館	館	館
三	三	三	三	三	三
金子	金子	金子	金子	金子	金子
館主	館主	館主	館主	館主	館主
電五五九	電五五九	電五五九	電五五九	電五五九	電五五九

貿易商人の手を経て海外に輸出せしが、大に其嗜好に投じ、盛に輸出せらるゝに至り斯業頗に勃興せり。現今松山、三津、道後等の年産額拾餘萬圓の多きに達せり。

(干油揚) 古來の製品に改良を加へ長時間貯蔵するも、色澤風味の變退することなきに至りたるを以て、次第に販路を擴張して内地各縣は固より、遠く北米、布哇等へ輸出し、年産額九百萬枚價格四萬圓に及べり。

今左に本市重要物産の品種と製産價額を表示せん。

松山市重要物産一覽表

種別	生産價格	種別	生産價格
綿糸	一、四一五、八〇〇円	伊豫緋	一、三九〇、六五七円
菓子	四二〇、〇〇〇	洋服	二五二、六八〇
菓子酒	二〇五、四二五	綿子	九六、七七二
指物	七三、〇〇〇	醬油	六一、九三二

旅館、質商	板八東町	電話	一次五
旅館	千會船	電話	三七七
料理屋	二番梅	電話	乃三
料理	豐龜坂	電話	乃一
料理	三番明	電話	治二
料理	二番松山	電話	一三三

靴物	五八、〇〇〇	鹽酸加里	五四、八六四
干油揚	五〇、〇〇〇	竹製品	四三、三五〇
麻裏草履	四〇、〇〇〇	覆物	三九、七六〇
足袋	三六、〇〇〇	染物	三五、〇〇〇
縮木綿	三四、〇〇〇	桶織	三〇、〇〇〇
清涼飲料	二五、五八七	麵粉	二二、四六六
傘	二〇、〇〇〇	製氷	二〇、〇〇〇
味噌	一七、六〇〇	疊	一六、七八六
打物	一六、二五〇	酢	一三、二〇〇
提灯	一三、〇〇〇		一二、〇〇〇

愛媛縣物産陳列場

松山市の生産物は勿論、縣下の重要物産を陳列して公衆の縦覧に供し、且つ即賣をなす、大正二年の建築に係る宏壯の建物にして、階下を陳列場に充て階上は縣公會堂として各種公會の開催に用ひらる。同場に陳列せらるゝ縣下主要物産の主なる品種を列舉すれば左の如し。

和洋料理	大道一富士事	電話	三三〇
朝日ビヤホール	黒川	電話	三三〇
料理	淡町三丁目	電話	二春三
料理仕出し	松前町四丁目	電話	二春三
料理仕出し	鈴木秀太郎		
料理仕出し	すし菊事		
料理仕出し	成野菊藏		
料理仕出し	萱町六丁目(古町驛前)		
料理	三番町(横町)	電話	五〇八
料理	大日	電話	五〇八
塗物師	サクラビヤホール		
塗物師	即日西洋料理		

- ◎◎◎◎◎ 繭木綿
- ◎◎◎◎◎ 清酒
- ◎◎◎◎◎ 和紙
- ◎◎◎◎◎ 木材
- ◎◎◎◎◎ 生糸
- ◎◎◎◎◎ 履子
- ◎◎◎◎◎ 菓製品
- ◎◎◎◎◎ 紙製品
- ◎◎◎◎◎ 鑛物
- ◎◎◎◎◎ 綿糸
- ◎◎◎◎◎ 指物
- ◎◎◎◎◎ 陶器
- ◎◎◎◎◎ 木菌細工
- ◎◎◎◎◎ 伊豫紘
- ◎◎◎◎◎ 竹製品
- ◎◎◎◎◎ 漆器
- ◎◎◎◎◎ 海産物

松山商工會

松山商工會は明治三十一年一月の創立にして、市内
 商工業者の大多數を網羅し、銳意目的の遂行に向つ
 て邁進しつゝあり、現在役員の名は左の如し。

- 會長 櫻井 瀨
 副會長 山本 義晴
 相談役 石原 操
 伊藤 榮
 堀内 治
 香川 太
 田村 八
 長井 政
 中野 元三郎
 井上 政
 小笠原 政
 高須 原
 田内 榮
 仲田 傳
 夏井 保四郎
 要孝 董造郎
 山本 義晴
 石原 操
 藤原 榮
 伊藤 榮
 堀内 治
 香川 太
 田村 八
 長井 政
 中野 元三郎

塗物師 唐人町二丁目 友太郎

【ヲ】之部

織物類

伊豫紘問屋

各種綿練、大正布、各種廣巾綿布	豐坂町	田内機織所	電一五〇
綿卸商	魚町二丁目	玉井合名會社	電六五
綿卸商	本町二丁目	天野鶴	電一〇八

- 長坂彌三郎
 向井次郎
 窪田節三郎
 栗田卯盛三郎
 山本勘左衛門
 藤岡信近
 小村和信
 木村徳次郎
 白川徳次郎
 瀬川喜七郎
 世良然次郎
 大木貞太郎
 垂水幾太郎
 山本昌太郎
 相原伯太保
 佐伯太保
 會計專務理事
 會計專務理事
 岩田正雄
- 村上上正太郎
 村上幸次郎
 栗東正次郎
 柳原正次郎
 福賀新三郎
 佐賀友三郎
 三好金三郎
 勝田久藏
 世良藤藏
 岡田源之助
 竹田忠太郎
 福田忠太郎
 福島忠太郎
 木村虎太郎
 逸見安太郎
 早瀬周作

紙、綿卸商	栗屋田	電三三七
紙、綿卸商	本町二丁目	電亮太郎
紙、綿卸商	本町一丁目	電野四六五
紙、綿卸商	紙大屋	電西三熊一八
伊豫紘、綿製造業	豐坂町	電一五〇
綿製造	南八坂	電二七二

理事

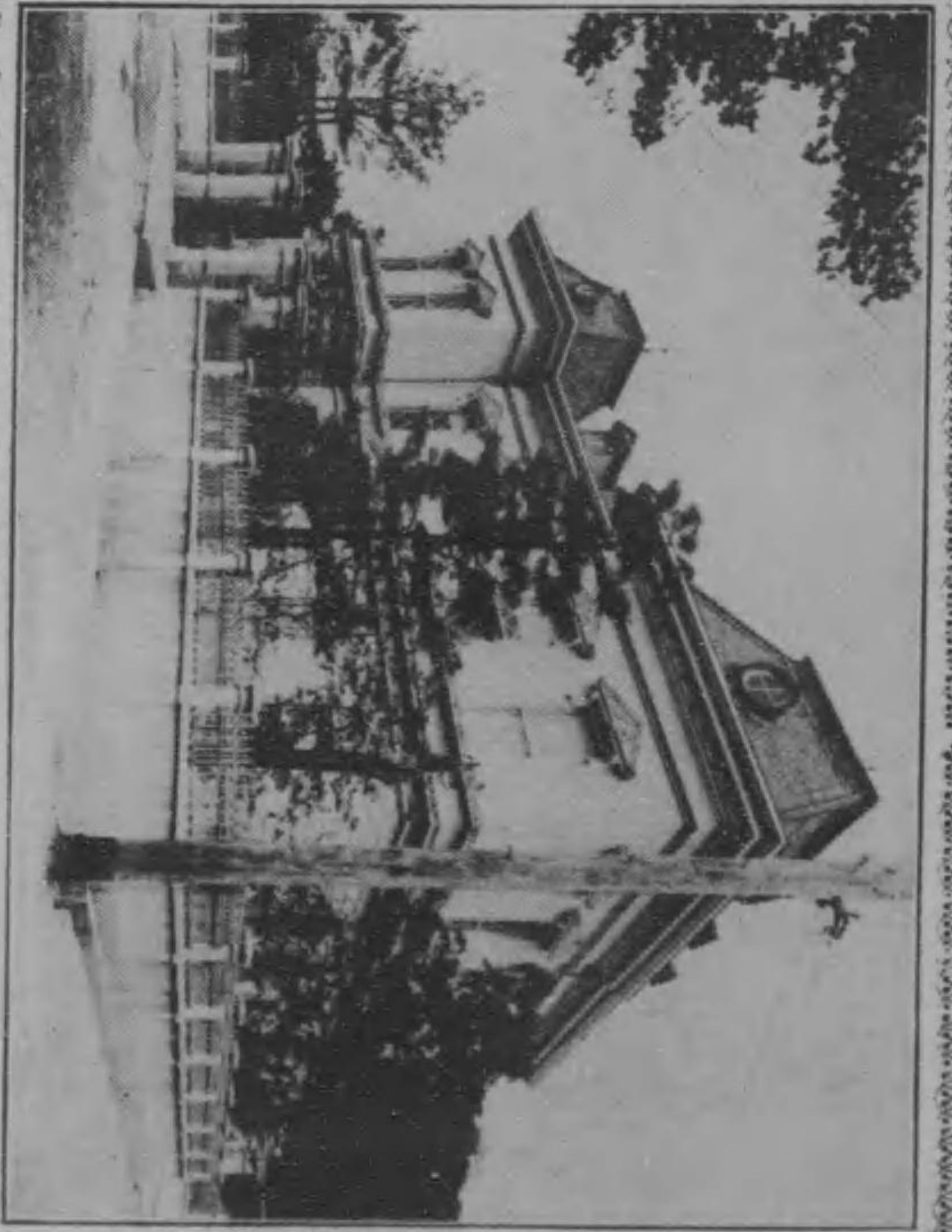
井堀戸尾渡武津向郷妻三森世
 上田井崎邊田守井田鳥井松良
 眞市善愛藤新嘉作
 喜良太五次朝太郎藏
 吉太郎藏平郎郎郎郎郎
 二徳富岡勝玉長野櫻三檜森關
 宮森野岡井阪本井垣
 陸要周幸亮
 三音太重次清正峰太
 精藏郎彌郎吉郎郎與吉吉定

愛媛縣商工團體聯合會

縣下各商工團體の連絡を圖り、商工業の發展に貢献すべき目的を以て、大正五年六月組織せられ、事務所を松山商工會に設置せり、聯合せる團體左の如し。

耕製造	耕製造	耕製造	耕製造	耕、綉製造	耕製造	耕製造	耕製造
湊町一丁目 武井茂三郎	唐人町一丁目 池之内友次郎	唐人町一丁目 倉橋源七	唐人町一丁目 山崎助次郎	柳井町 和井田榮七郎	湊町一丁目 大西熊六吉	湊町一丁目 神山五九	湊町一丁目 小崎寅六四三

株式會社 愛媛縣農工銀行
 資本金壹百四拾萬圓
 積立金六拾七萬五千圓
 松山市二番町
 電話(二番)四五二番
 電信路號(エノコ)



大正七年一月現在
資本金 壹百貳拾萬圓
積立金 拾參萬圓

▲支店

郡中町、三津濱町、
 市内紙屋町

▲出張所

市内唐人町、川上、平井
 堀江、北條、中山、松前
 三机、其居島、総津



松山市大字湊町四丁目
 伊豫農業銀行
 愛媛貯蓄銀行
 株式會社
 株式會社
 電一四六、四六〇、七二〇

松山市に於ける商工業の諸團體左の如し。

東北 宇和島商工會
 西 宇和島商工會
 喜 宇和島商工會
 同 宇和島商工會
 同 宇和島商工會
 同 宇和島商工會
 上 宇和島商工會
 伊 宇和島商工會
 温 宇和島商工會
 同 宇和島商工會
 松 宇和島商工會
 越 宇和島商工會
 新 宇和島商工會
 周 宇和島商工會
 宇 宇和島商工會
 同 宇和島商工會

商工業諸團體

まつやま

併 製 造	併 製 造	併 製 造	併 製 造	質 併 製 造	併 製 造	併 製 造
府中町三丁目 和田茂吉	柳西原町 淺治	江生島町 梅之助	唐人町二丁目 永木源太郎	南味酒町 向井愛次郎	南八坂町 電七七一 玉井重清	春日峰町 電六七三 光嘉一郎

- ◎伊豫織物同業組合
- ◎伊豫果物同業組合
- ◎松山乾物荒物商組合
- ◎松山味噌醸造組合
- ◎松山酒造組合
- ◎愛媛縣酒造聯合會
- ◎松山市溫泉郡茶業組合
- ◎松山市和洋商組合
- ◎松山酒醬油組合
- ◎松山藥業會
- ◎松山吳服商組合
- ◎松山米穀商組合
- ◎松山金物商組合
- ◎松山書籍商組合
- ◎松山材木商組合
- ◎松山染物商組合
- ◎松山古着商組合
- ◎松山貴賓會旅館組合
- ◎愛媛縣織物聯合會
- ◎松山製靴商組合
- ◎松山自轉車商組合
- ◎松山履物商組合
- ◎松山菓子商組合
- ◎松山洋服商組合
- ◎松山文具商組合
- ◎松山時計商組合
- ◎松山指物商組合
- ◎松山綿糸商組合

併製造卸	併製造	併製造	併製造	併製造	併製造	併製造	併製造
湊町一丁目 伊井利三郎 電三七三	南 京町 眞木喜藏	魚町四丁目 芳野清一	南 京町 正作	松前町三丁目 重川富五郎	府中町四丁目 村上京平	萱町七丁目 平田筆次郎	萱町七丁目 渡部勝次郎

- ◎松山疊業組合
- ◎松山紙商組合
- ◎愛媛縣茶業聯合會

産業組合

産業組合法に依りて設立されたる組合左の如し。

- 有限責任松山購買組合
- 有限責任松山市信用組合

三番町
千船町

米穀取引所

伊豫米穀取引株式會社は其の起源頗る古く、約三百年前元祿年間に創設されたるものにして、藩政時代には松山藩保護の下にありて、松山米商會所と稱したるもの、明治二十七年取引所法の實施と共に組織を改めて株式會社となし、現在資本總額拾萬圓を以て營業せり。一ヶ月の賣買高二十萬石を下らず、營業所は市内末廣町二丁目にあり。四國唯一の米穀取

併製造	併製造	併製造	併製造	併製造	併製造	併製造	併製造
南八坂町 田中寅之助	府中町四丁目 中野好助	府中町四丁目 日下松五郎	府中町三丁目 久万長五郎	府中町四丁目 遠藤喜市	木屋町三丁目 村上彦一	府中町三丁目 中野伸次	木屋町五丁目 木村儀一

引所とす。

金融機關

市内金融機關の主なるもの左の如し。

(株式五十二銀行) 明治十一年九月の創立にして三番町に在り、資本金額貳百萬圓、各種積立金額七拾貳萬五千圓、重役氏名左の如し。

取締役(頭取) 石原 操 同 深見禹之助
同 渡部 正 同 加藤 彰廉
同 勝田 久敬

(株式伊豫農業銀行) 明治三十年十月の創立にして湊町四丁目に在り、資本金額百貳拾萬圓、拂込九拾萬圓、諸積立金拾參萬圓、重役氏名左の如し。

取締役(頭取) 村上半太郎 同 二神 精一
同 清水 義彰 同 新田 長次郎
同 石崎 兵太郎 同 小西 莊三郎
同 逸見 安太郎

(株式松山商業銀行) 明治廿九年二月の創立にして末廣町二丁目に在り、資本金額壹百萬圓拂込八拾五萬圓、諸積立金拾萬五千圓、重役氏名左の如し。

取締役(頭取) 廣瀬 滿正 同 福田 新十郎
專務取締役 廣瀬 千秋 同 田内 榮三郎
常務取締役 櫻井 瀨 同 山本 盛信
取 締 役 村瀬 正敬

(株式愛媛縣農工銀行) 明治三十一年八月の創立にして二番町に在り、資本金額壹百四拾萬圓拂込壹百四萬八千圓、諸積立金六拾六萬四千圓、重役氏名左の如し。

取締役(頭取) 仲田 傳之助 同 窪田 節次郎
同 玉井 安藏 同 阿部 光之助
同 玉井 健次郎 同 廣瀬 滿正
同 近藤 貞次郎 同 村上 丈夫

綿 製造

豐坂町一丁目 西原 伸三 助

綿 製造

松前町五丁目 高橋 信平

綿 製造

新町二丁目 芳野 政次郎

綿練、廣巾織物

綿練、大正布 各種廣巾綿布

田内 機織所 泉町工場 電五四



北 京町 松山綿練合名會社 電三〇一

綿 布

淡町一丁目 西熊 築山町 工場

織物販賣

綿 絞蚊張

河 渡原 部町 電三精六一

綿 絞各太物

河 藤原 本町 電好五五三

綿 絞太物類 雜貨卸小賣

河 岡崎 町 每太郎

【ワ】之部

綿 製造

製 綿

淡町一丁目 會余 田平太

製 物問屋綿

松前町四丁目 佐伯 德太郎

(株式伊豫勝山銀行) 明治四十三年六月の創立にして湊町三丁目に在り、資本金六萬五千圓、積立金貳千五百圓、役員氏名左の如し。

取締役 伴 政孝 同 新野米太郎
同 永井虎之輔 同 大石傳五郎
(株式松山貯蓄銀行) 明治二十八年三月の創立にして三番町に在り、資本金拾萬圓拂込四萬七千五百圓諸積立金約四萬四千圓、諸預り金九拾六萬圓、役員氏名左の如し。

頭 取 仲田傳之助 取締役 栗田幸次郎
取締役 仲田久太郎
(株式愛媛貯蓄銀行) 明治二十三年の創立にして湊町四丁目伊豫農業銀行内に在り、資本金貳拾參萬圓、拂込拾萬圓、積立金六千圓、諸預り金四拾七萬圓、役員は伊豫農業銀行と同一なり。

【カ】之部
紙類
河原町 電二二七

紙、石油
木原町 電二二七

紙類、帳簿
木屋町五丁目 仲野政五郎
電八二二

紙類
木屋町三丁目 宮川岩太郎
電四四一

紙、茶卸
湊町一丁目 松岡岩三郎

金物

(株式伊豫銀行) 明治十三年六月の創立にして三番町に在り、資本金九萬八千圓、諸積立金四千圓、役員氏名左の如し。

頭 取 新野伊三郎 專務取締役 武田市太郎
取締役 津守善五郎 取締役 渡部卯平
同 山本義晴

(合名仲田銀行) 明治五年八月の創立にして本町二丁目に在り、資本金貳拾萬圓、諸積立金拾萬圓、役員氏名左の如し。

業務執行社員 仲田傳之助 同 仲田久太郎
社員 栗田幸次郎 社員 仲田長四郎
(合名大野銀行) 明治三十二年六月の創立にして湊町二丁目に在り、資本金貳拾五萬圓、諸積立金六萬圓、役員氏名左の如し。

頭 取 大野 悌 副頭取 大野 邦道

金物
湊町三丁目 世良然次郎
電一一九

金物板硝子
三番町 長坂町 電一七

金物
三番町(壽座前) 藤田兼太郎
電七六三

金物
木屋町二丁目 鎌田茂實
電七二

金物
大古池道 古池祐太郎

金物
西堀端町 井上吉太郎

以上の外他地方に本店を有して市内に支店を設くるもの、高知銀行支店、今治商業銀行支店、今出銀行出張所、不動銀行出張店、共榮貯蓄銀行支店等あり、信託事業に松山信託株式会社(三番町)あり共に地方金融界に裨益する處大なり。

會社

市内に於て會社組織を以て、各種の事業を經營するもの尠からず、左に其の主なるものを列擧す。

◎伊豫鐵電氣道株式會社(湊町五丁目)

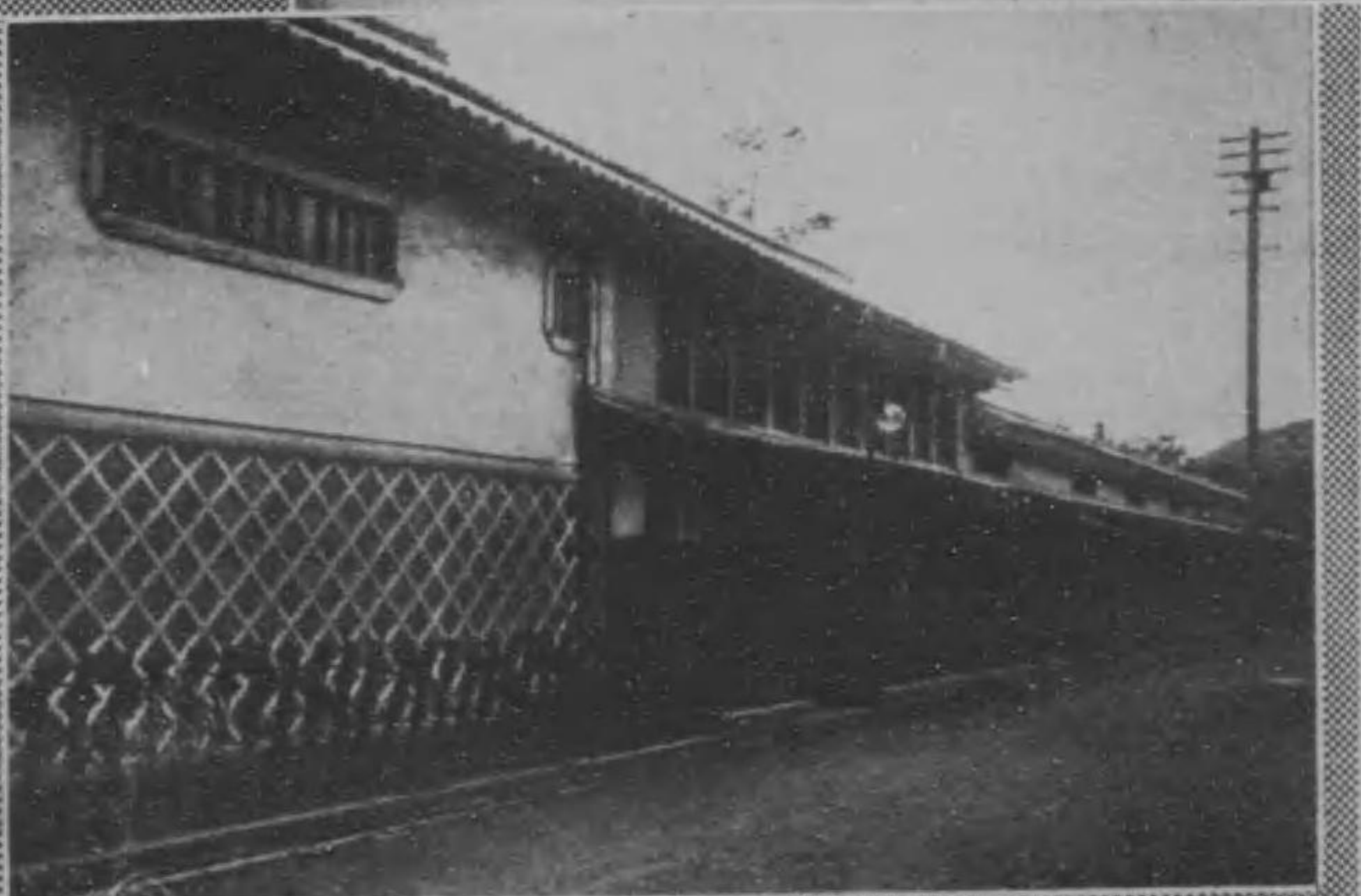
創立 明治十九年十二月
 資本總額 四百萬圓
 事業 運送業(汽車、電車兼營)
 電燈、電力供給
 取締役(社長) 井上 要 同 八束喜藏
 同 新野伊三郎 同 賀田金三郎
 同 仲田傳之助 同 岡本榮吉

鏡板 硝 壺子	硝子類	(諸車)金物製造 新立町 鈴木元三郎	鍛冶職	金網製造卸 唐人町一丁目 野本熊吉	金物 湊町四丁目 新海源次	金物 大栴鏡道 圭次郎	金物 河原町(立花橋下り口) 柳原淺太郎
---------------	-----	--------------------------	-----	-------------------------	---------------------	-------------------	----------------------------

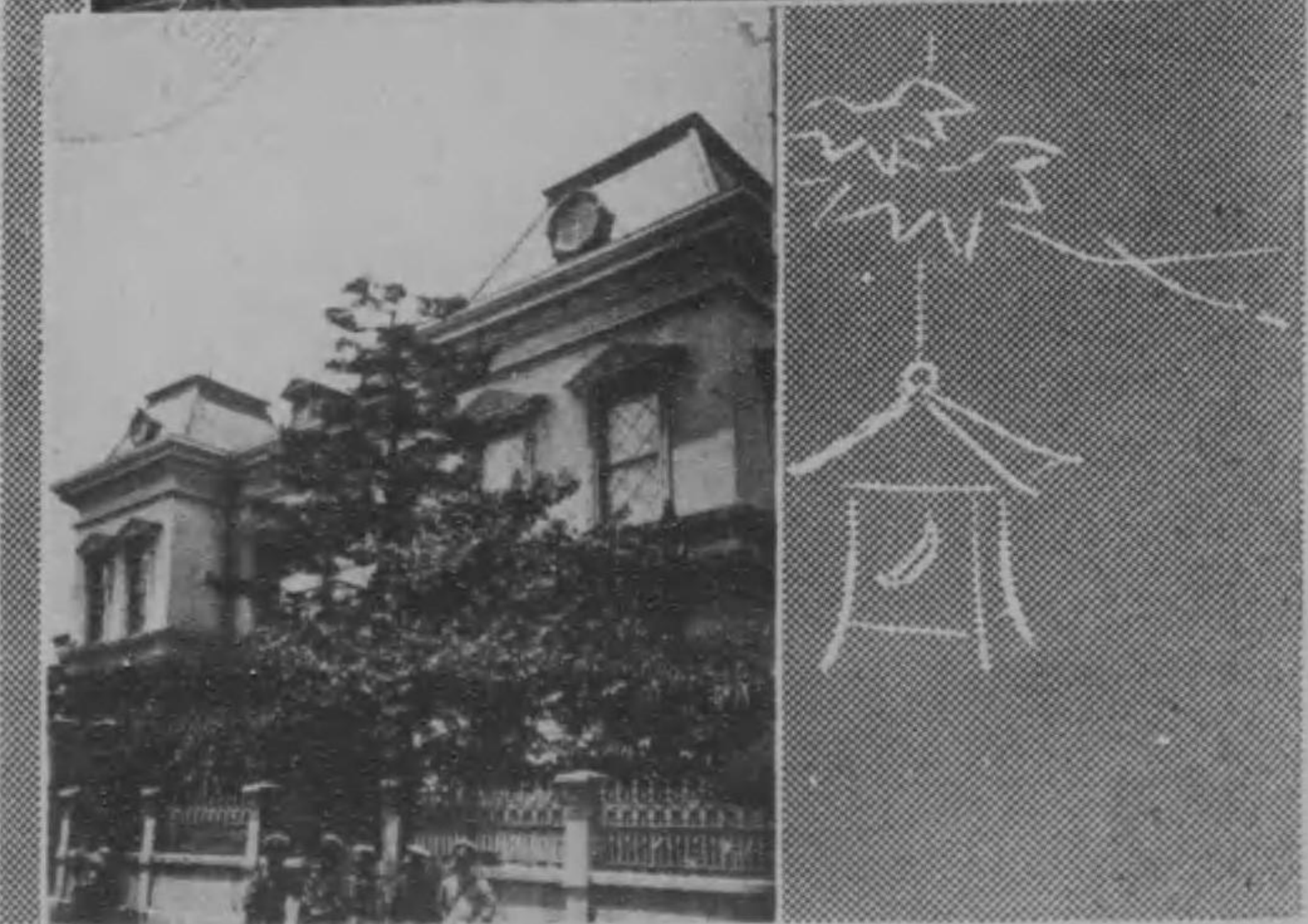
株式會社五十二銀行



株式會社松山商業銀行



株式會社愛媛縣農工銀行



株式會社伊豫農業銀行



株式會社伊豫米穀取引所



合名會社仲田銀行

同 清水義彰 同 大本貞太郎

◎松山電氣軌道株式會社(鮎屋町)

創立 明治四十年三月
 資本總額 壹百萬圓
 事業 運送業(電車)、電燈電力供給
 取締役(社長) 栗田光一 同(專務) 久松定夫
 同(支配人) 卯之木晋一郎 同 龜岡哲夫
 同 長島新三郎 同 榊井峰太郎
 同 武西長次郎

◎倉敷紡織株式會社松山工場(三津口町)

本店所在地 岡山縣都窪郡倉敷町
 創立 明治二十一年十月
 資本總額 七百五十萬圓
 事業 綿糸紡織業
 社長 大原孫三郎 松山工場長 水田 勇

◎松山瓦斯株式會社(江戸町)

創立 明治四十三年十一月

まのやま

各種硝子製造	萱町一丁目 松木多藏
投薬瓶專門 硝子類一切	千舟松久町 二商店 四五四
乾物、荒物類	湊町五丁目 豐田音次郎 電三九
乾物、荒物	唐人町三丁目 藤崎徳太郎 電一五三
乾物、砂糖	千舟兒島町 電一七
乾物、荒物	魚町二丁目 野貞五郎 電六〇七

三

資本總額 參拾萬圓
 事業 瓦斯供給
 取締役(專務) 香川熊太郎 同 來住益太郎
 同 宮内本三郎 同 松木今一郎
 同 白石務

◎株式會社伊豫米穀取引所(末廣町二丁目)

創立 明治二十七年七月
 資本總額 拾萬圓
 事業 米穀取引
 理事長 高須峰造 理事 香川熊太郎
 理事 御手洗忠孝 同 宮内安貞

◎松山織物株式會社(松前町五丁目)

創立 明治二十九年三月
 資本總額 拾萬圓
 事業 伊豫絨製造販賣
 取締役(社長) 白石徳次郎 同 手島正誼
 同 別宮福麿 同 津守善五郎

◎伊豫製氷株式會社(久保町)

乾物、仕出し

湊町三丁目(魚の棚) 武井フサ

乾物、荒物雜貨卸
各昆布罐詰

湊町五丁目 栗田國光
電六八

乾物、荒物

アサヒヤ 北神町眞

乾物卸

湊町二丁目 門田善三郎
電七二

乾物、荒物卸

木屋町三丁目 藤原紋太郎

乾物、荒物

本町五丁目 眞木嘉六

乾物 漬物

湊町五丁目(魚市場) 森川音吉
電三八

創立 明治四十四年三月
 資本總額 拾萬圓
 事業 製氷
 取締役(社長) 豐島直行 同 村瀬正敬
 同 新野米太郎

◎松山精米精粉株式會社(松前町二丁目)

創立 明治三十四年二月
 資本總額 參萬圓
 事業 精米及コンスターチ製造
 取締役(社長) 堀内胖治郎 同 山本義晴
 同 垂水幾太郎 同 大本貞太郎
 同(專務) 北尾桂二郎

◎松山醬油株式會社(松前町二丁目)

創立 明治四十二年十二月
 資本總額 壹萬圓
 事業 醬油釀造販賣
 取締役 山本盛信 同 津守善五郎
 同 山本義晴 同(常務) 妻鳥朝太

荒物、馬道具

河原町今村濱太郎

海産物

海陸物產問屋
委託賣買

河原町(立花橋詰) 山下商店
電六四二

海産物、荒物

新立町 渡部福太郎

海産物、乾物

河野町 本國藏

海産物、雜貨

河原町 倉根商會

蒲鉾製造

蒲鉾

藤田改 小西節藏
湊町三丁目(延立寺前)

◎日本サイダー株式會社(唐人町三丁目)

創立 大正四年十二月

資本總額 五萬圓

事業 清涼飲料水製造販賣

取締役(社長) 高須峰造 同

同 堀内胖治郎 同(專務)

山本昌信
鈴木秀助

官衙公署

市内及び其附近に設置されたる官衙公署の種類及其の位置を擧ぐれば左の如し。

- ◎愛媛縣廳 一番町 電 一
- ◎松山地方裁判所 一番町 電 五八
- ◎松山區裁判所 一番町 電 五八
- ◎松山市役所 出淵町一丁目 電 四二八
- ◎溫泉郡役所 榎町 電 四四
- ◎松山稅務署 萱町三丁目 電 四九
- ◎松山郵便局 三番町 電 五九

蒲 鉾

淡町五丁目(魚市場)
紀伊支店

瓦斯業

瓦 斯 江 戸 町
松山瓦斯株式會社
電二六五五四一

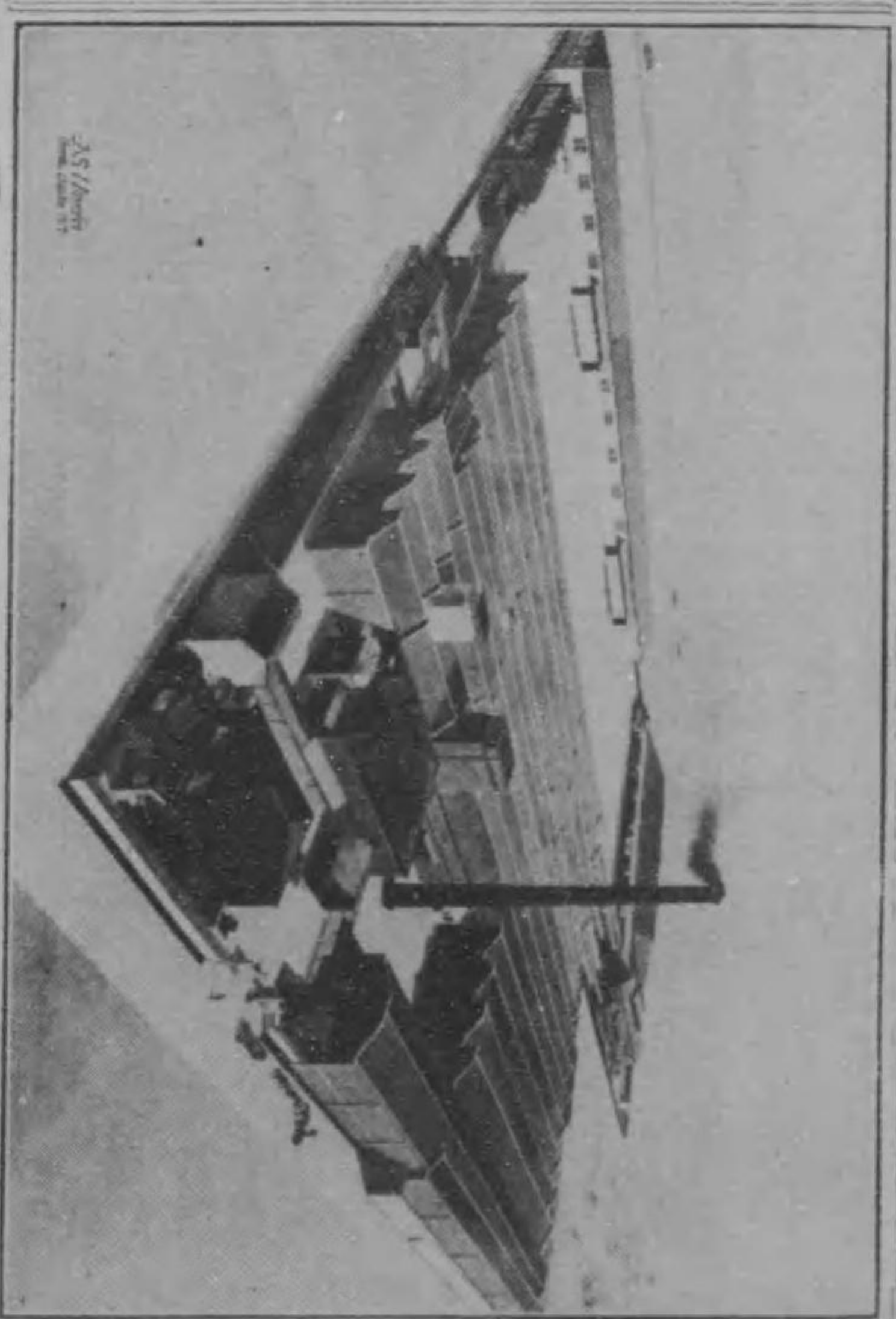
【ヨ】之部

洋 服

洋 服 三 番 町
千葉萬次郎
電 一 五 五

洋 服 淡 町 三 丁 町
尾崎良藏
電 二 四 四

創立明治二十五年
松山市三津口町
倉敷紡績株式會社
電話 一三六〇番



大正七年一月現在 (明治四十一年一月創立)
 資本金 貳拾萬圓
 積立金 拾萬圓

仲田銀行

出張店 (外側出張店) 松山市三番町 (電話一四九)
 (道後湯之町) (電話五四九)
 (三津濱出張店) 三津濱町藤井町 (電話二八八)

松山市本町二丁目 (電話八番)
 (電話五七二番)
 山越出張店 御幸村山越
 堀江出張店 堀江村堀江

大正七年一月現在

資本金 拾萬圓
 積立金 四萬參千九百七拾八圓

株式會社 松山貯蓄銀行

出張店代理店 (○) 本町 (○) 北條 (○) 山越 (○) 三津濱 (○) 堀江 (○) 川上
 (松山市三番町) (電話二一四番)

◎廣島專賣支局松山出張所出淵町一丁目 電二三六	◎松山監獄 藤原 電二八八甲	◎松山警察署 出淵町一丁目 電一五三	◎松山一等測候所 持田 電四二九	◎愛媛縣工業試驗場 湊町六丁目 電四四九	◎愛媛縣農事試驗場 道後村 電六五四	◎步兵第二十二聯隊 堀ノ内 電二七一	◎松山聯隊區司令部 堀ノ内 電四一七	◎松山衛戍病院 堀ノ内 電四二六	◎松山憲兵分隊 西堀端町 電二二九	◎愛媛縣物產陳場 一番町 電四四五	各種團體	
◎愛媛縣農會 道後村 電一五六	◎松山市醫師會 湊町四丁目 電八二六	◎日本赤十字社愛媛支部 一番町 電一一三	洋服、質商 千武舟西町 電五長次四郎	洋服 西堀端町 電常八太郎	用達 花園町二丁目 越智長三郎	用達 出淵町一丁目 田村忠藏	用達 二番崎町 電百五十一三郎	用達 南八坂町 古川敬治一郎	陸軍出入商			

まつやま

三

- ◎帝國在郷松山支部 堀ノ内
- ◎軍人會 松山武揚會 市役所内
- ◎大日本武徳會愛媛支部 出淵町一丁目
- ◎愛媛頌功會 一番町(縣廳構内)
- ◎愛國婦人會愛媛支部 二番町
- ◎海員救濟會愛媛支部 一番町(縣廳構内)
- ◎水難救濟會 一番町(同上)
- ◎軍人後援會 一番町(同上)
- ◎愛媛縣神職會 木屋町一丁目 電 五七三
- ◎愛媛縣松山市支會 出淵町二丁目(市役所内)
- ◎神職會 松山市支會 出淵町二丁目(市役所内)
- ◎産業組合愛媛支會 一番町(縣廳構内)
- ◎中央會 松山商工會 湊町六丁目 電 二四
- ◎愛媛縣商工團體聯合會 同(松山商工會内)
- ◎松山機業協成會 豊阪町一丁目

【夕】之部	
建具形紙	大 街井道 清與
附屬建具	三 番村 忠樹
竹細工	喜 典 高橋 只次
煙草	湊町五丁目 西岡 荒吉

- ◎愛媛教育協會 二番町
- ◎愛媛教育協會松山部會 同(松山高等小學校内)
- ◎松山同郷會 二番町
- ◎松山市青年會 出淵町一丁目(市役所内)

病院及醫師

日本赤十字社愛媛支部病院は二番町に在り、大正七年の新築にして規模宏壯、設備充實全科の治療を行ふ。地方模範的病院たり。其他私立病院三、開業醫百十人あり。松山市立病院は市外雄群村にあり、傳染病患者を收容す。

公共營造物

(縣公會堂) 一番町に在り、大正元年縣物産陳列場並に縣會議事堂兼用の下に、縣營を以て建設せる洋風の建築にして、階上を公會に使用し階下を物産陳

煙草元賣捌所	村上孝次郎
筆筒製造	萱町二丁目 梅谷 嘉吉
高等筆筒	萱町四丁目 常盤 熊次郎
筆筒製造	萱町二丁目 楠伊 佐松
最新筆筒	萱町四丁目 門屋 利平
筆筒	萱町四丁目 木村 初治

列場に充つ、尙地下室ありて事務室に充用せり、松山城山を背景とし前面に庭園を設け市内屈指の建築物たり。

(松山市公會堂) 萱町二丁目に在り、明治二十二年の建設に係り、日本式二階建にして階上を二百疊敷の大廣間とし階下を十數室に分つ、大小の集會に便する所大なり。

(武徳殿) 出淵町一丁目に在り、大正五年市外持田より移して茲に建築したるもの、大日本武徳會愛媛本部の經營に屬す、地方唯一の練武場なり。

教育

市の教育機關は數個の幼稚園を始め、初等教育機關には高等小學校一、尋常小學校五を有し、中等教育には公私立を併せ十餘の各種學校あり、實業教育に

は私立工業學校の外、各尋常小學校に實業補習學校を附設して補習教育を施し、特種教育の方面には、私立松山夜學校、愛媛盲啞學校、松山女子夜學校あり、通俗教育の施設としては、愛媛教育協會の圖書館あり、又松山教育部會の通俗教育講話會ありて、通俗教育の普及に勉む。

松山高等小學校の施設に係る水泳教授は、毎年七月中旬より八月下旬に涉り、市の東端御園池おんいけに於て行はれ、松山に創開されたる神傳流の水泳術を教授す。

松山青年會は市を五區に分ち、各其區青年の指導啓發に勉む、又津田育英會ありて秀才の教育を授く。

今左に各學校所在地を列記して參考に供せん。

簞 筒	萱町三丁目 古川商店
足袋製造	淡町四丁目 平松宗太郎
足袋	淡町三丁目 電 七六六
足袋、襪物	新立町 金正利太郎
足袋、メリヤス卸 綿布加工品卸	魚町三丁目 富田傳藏

墨表、花苳、綿糸	淡町二丁目 井上合名會社
墨表、花苳、物	河原町 電 四七一
墨製造	三番町 電 一八八
墨製造	府中町二丁目 樋口覺太郎
漆物	【リ】之部

松山高等小學校
 松山第一尋常小學校
 松山第二尋常小學校
 松山第三尋常小學校
 松山第四尋常小學校
 松山第五尋常小學校
 松山市立工業學校
 松山 中學校
 愛媛縣師範學校
 同 附屬小學校
 松山商業學校
 松山農業學校
 松山高等女學校
 北 豫 中 學 校
 濟美高等女學校

市立

縣立

二番町
 二番町
 木屋町一丁目
 南八阪町
 喜與町
 新玉町二丁目
 南味酒町
 市外持田
 府中町一丁目
 木屋町一丁目
 旭 町
 持 田
 末廣町一丁目
 鐵砲町
 湊町六丁目

染物司	末廣町二丁目 本田 武太郎
染物司	湊町二丁目 湯山 吉五郎
染物司	西堀端町 本家 ワシヤ 五兵衛
染物司	唐人町二丁目 梶村 元太郎
染物司	大 街 道 岡 部 丈吉
染料	二 番 町 松岡 染料店
葬 具	

愛媛縣廳



(建築工事中)



松山地方裁判所

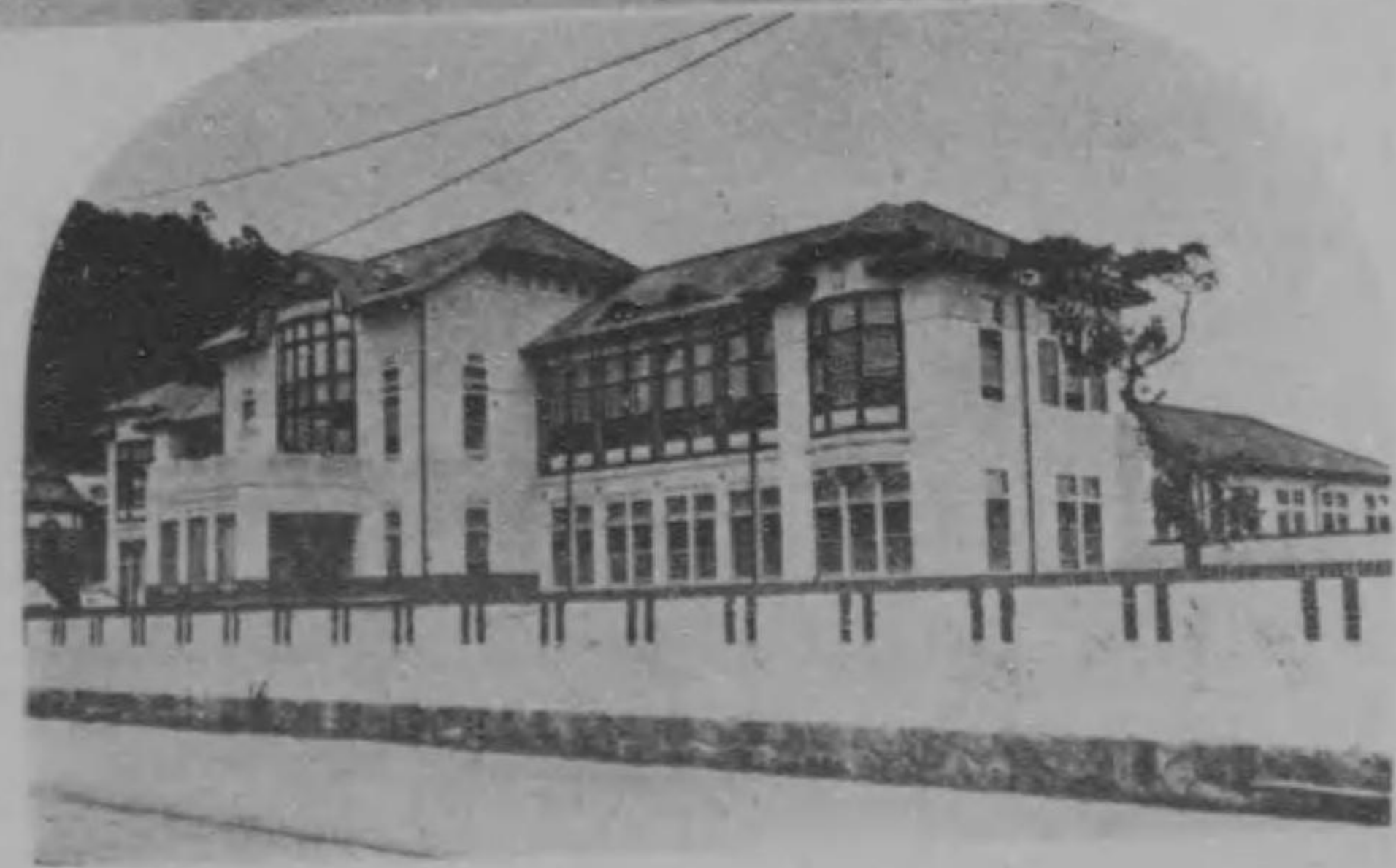
歩兵第二十二聯隊兵營



愛媛教育協會圖書館



武徳殿



日本赤十字社愛媛支部病院

濟美女學校
私立松山女學校
崇徳女學校
松山技藝女學校
村井實用女學校
松山夜學校
松山女子夜學校
愛媛盲啞學校
松山幼稚園
常盤幼稚園
愛媛國學館

湊町六丁目
二番町
西堀端町
私立出淵町二丁目
琢町
永木町
傘屋町
築山町
湊町四丁目
宮古町
木屋町一丁目

右の外近く高等學校の設立せらるゝありて高等教育の方面も漸く完備に至らんとす。

新聞

日刊新聞に海南新聞、愛媛新報、伊豫日々新聞の三

まつやま

葬摺機 河原田村角太郎
具 六 電七三二
湊町二丁目(延立寺前)
弘七 八舍

【ツ】之部

漬物

漬物 湊町三丁目(魚の棚)
山澤分店
松島廣吉

【ナ】之部

米穀取引所仲買

取引所仲買 未廣町二丁目
岡田義朗
電二〇一、五二二

あり、本縣言論界の雄鎮として、將た本縣操觚界の先驅者として貢献する處大なり。共に年中無休刊にして所在地左の如し。

名稱	創刊	發行所
海南新聞	明治九年	南堀端町 海南新聞株式會社
愛媛新報	同二十一年	湊町四丁目 愛媛新報株式會社
伊豫日々新聞	同三十五年	西堀端町 伊豫日々新聞株式會社

神社、寺院、教會

(縣社阿沼美神社) 宮古町に在り、延喜式内の古社にして、往古は勝山山嶺にありしを、加藤嘉明築城の際、茲に遷して味酒大明神と改めしもの、明治三年阿沼美神社と改稱せり。祭神は大山積の命を主神とす。

取引所仲買	末廣町二丁目 長島新三郎 電三五六、五〇九
取引所仲買	末廣町二丁目 豊島直行 電三五三
取引所仲買	末廣町二丁目 田村政太郎 電一六
取引所仲買	西永田町 永田文藏 電六四六
取引所仲買	末廣町二丁目 重松太市 電六五一
取引所仲買	西加藤町 加藤正人 電四五七
取引所仲買	西開町 開町龜次郎 電三四五、五六七
取引所仲買	西近藤町 近藤龜吉 電五五五

(縣社井手神社) 立花町にあり、祭神は木花開耶姫にして山城國梅宮より勸請せしものなりと云ふ、其の後、橋清友、伊豫國司たりしとき、其祖橋諸兄を合祀し、井手大明神と稱せり、社殿は往古石手川の南に在りしを、二百六十餘年前此處に遷せり。

(縣社雄郡神社) 市外雄群村大字小栗に在り、もと小栗正八幡大神と稱し、用明天皇の元年宇佐より應神天皇の靈を勸請したる古社にして、繪馬廻廊は地方に稀なる設備なり。

(縣社東雲神社) 松山城山東北の山腹長者岡に在り、舊藩主久松家の祖、息長福玉命(松平少將定勝の勅許神號)及び菅原氏の祖、天穗日命、並に菅原道眞(久松家は本姓菅原氏)を合祀す。本社は久松家第十二代の藩主定通が、こゝに社を營み、文政六

取引所仲買	西山内町 山内淺次郎 電一三三
取引所仲買	末廣町二丁目 玉柳榮三郎 電二〇二
苗木、花卉	宮古町(古町驛前) 植政種苗合資會社 電八四
苗木、花卉	一番町 五百木嵐香園
【ラ】之部	
ラム子 サイダー 製造	唐人町三丁目 日本サイダー株式會社 電二一四

年十二月十八日(百餘年前)に遷宮式を行ひたるものなり。境内に有名なる能舞臺の設けあり、又前面の臺上に戦勝記念碑あり。
 (神宮奉齋會) 西堀端町にあり、皇太神宮を奉齋せり。

(大社教分院) 本町二丁目にあり、出雲國大社教の分院なり。

(多賀神社) 新立町にあり、近江國多賀神社より勸請したるものなり。境内に招魂社あり毎年秋季祭典を舉行す。

(天理教) 傘屋町に分教會あり、其他市内各所に宣教所あり。

(黒住教會) 松前町一丁目にあり宗忠神社の教義を奉し設立せし教會なり。

三ツ星 ラム子 淡町一丁目
 サイダー 眞木 乙彦
 朝日 ラム子 木屋町六丁目
 サイダー 門田 商店
 金時 サイダー

【ム】之部

蒸物
 饅頭 大 街道 一六まんぢう店
 蒸物菓子 大 街道 大西國太郎

【ウ】之部
 菓子パン 大 街道 山本勉 號



愛媛縣女子師範學校



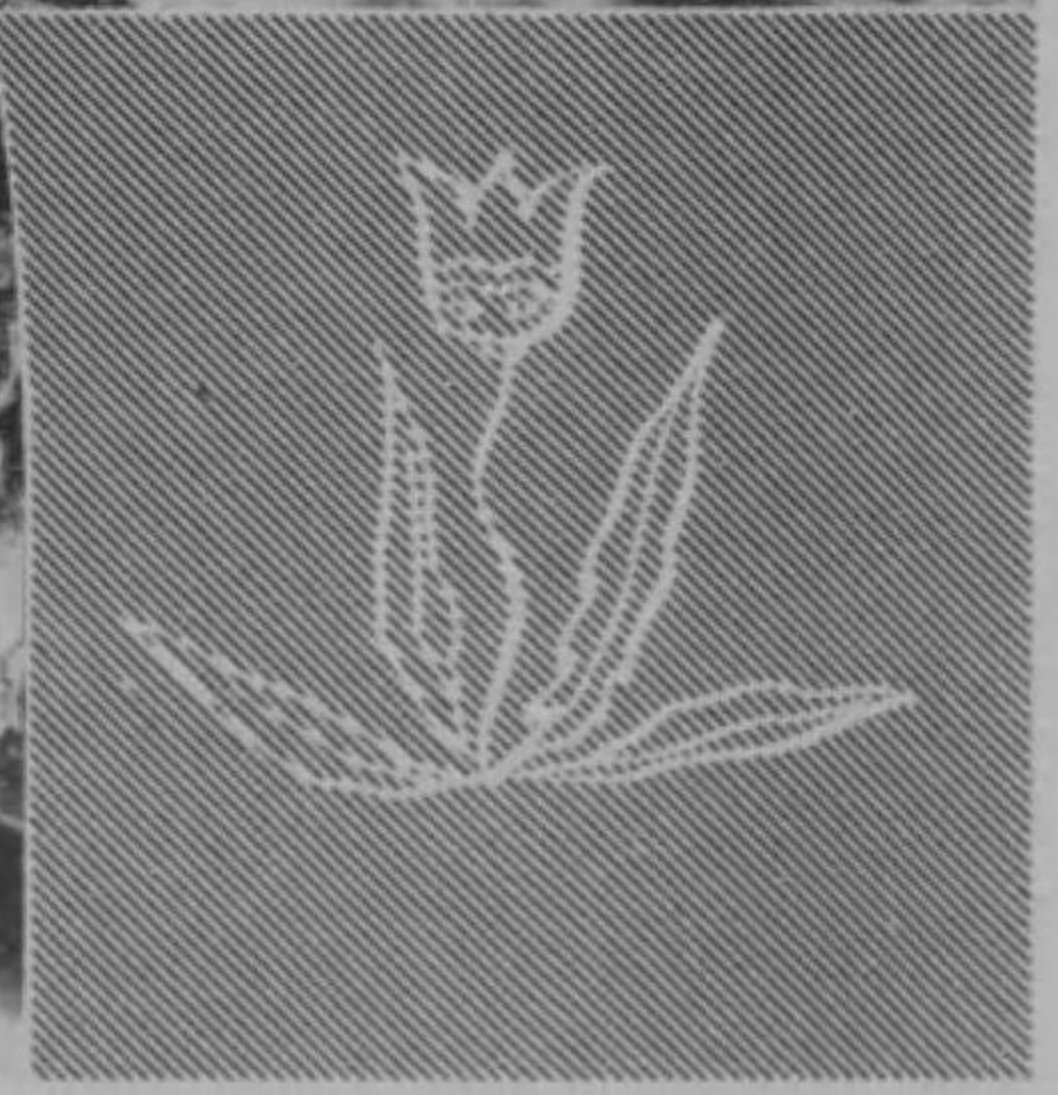
重信橋



岩 堰



湧ケ 淵



縣立松山高等女學校



松山市立工業學校



私立北豫中學校



私立盲啞學校

(金光教松山支教會) 西堀端町にあり、又北京町に東支教會あり。

(大林寺) 淨土宗宮古町に在り、舊藩主久松家の菩提所にして、歴代藩主の靈廟墓を並べ壯嚴を極む。

(大法寺) 日蓮宗 魚町五丁目
境内に清正公を合祀す。

(圓福寺) 眞言宗 木屋町三丁目
境内に高機の發明者菊屋新助の墓あり。

(長久寺) 日蓮宗 木屋町五丁目
境内に舊松山藩の忠臣山内與左衛門の墓あり。

(勸善社) 眞宗信者の設立したるものにて西堀端町にあり。

(妙清寺) 日蓮宗 出淵町二丁目
境内に有名なる心學者田中一如の墓あり。

まつやま

運送業

汽車取扱 松山驛前 橋本運送店

汽車取扱 松山驛前 電開運社

汽車取扱 開運舎 矢野淺太郎

魚類

生魚問屋 魚市場

團扇引札

團扇引札 本町三丁目 野田鬼一郎

四

(法龍寺) 曹洞宗 末廣町一丁目
寺内に有名なる五百羅漢を安置す。
(正宗寺) 臨濟宗 末廣町一丁目
境内に俳星正岡子規の碑あり。
(圓光寺) 眞宗 湊町四丁目
僧明月の建立せし山門今尙存せり。
(正安寺) 淨土宗 湊町三丁目
境内に佐久間大學の墓あり。
(觀音寺) 眞言宗 唐人町二丁目
(ハリストス教會) 一番町
(メソヂスト教會) 二番町
(基督教會) 小唐人町一丁目
其他魚町四丁目、西堀端町、榎町にも基督教會の設
けあり。

團扇紙箱	末廣町一丁目 永井商店
團入盃引札	三番町(郵便局東隣) 森柄竹三郎
【ノ】之部	
農具	
農具荷車製造	唐人町一丁目 大野傳次
【ク】之部	
菓子	
菓子、砂糖卸	河原町 岸節三郎 電話三四四

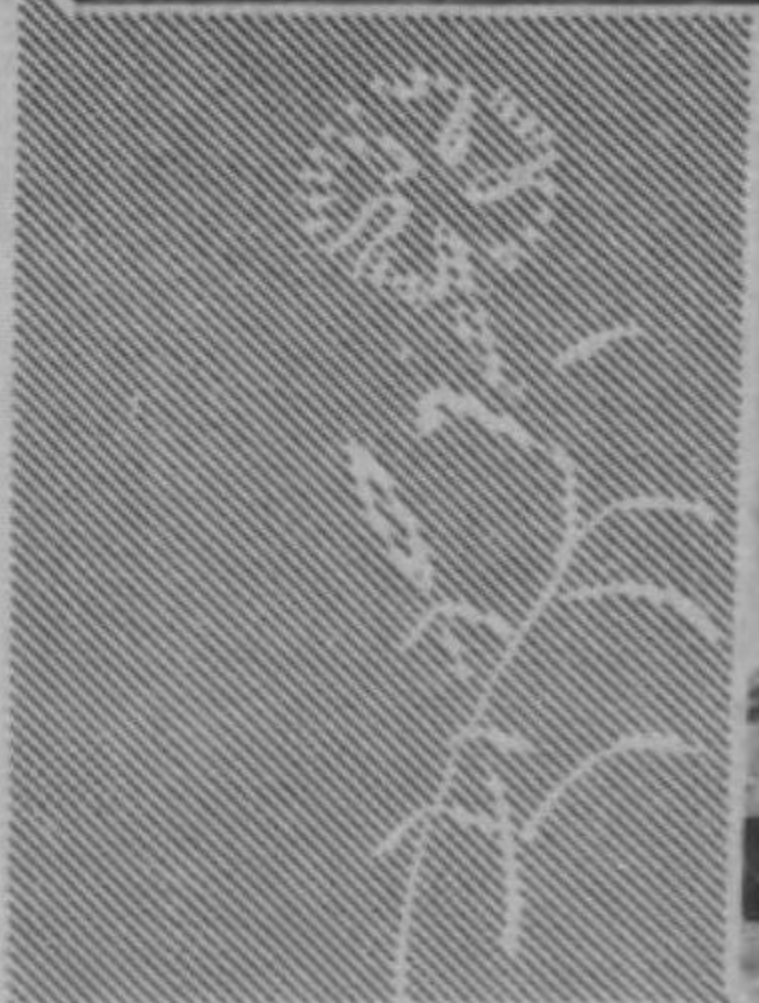
新榮座



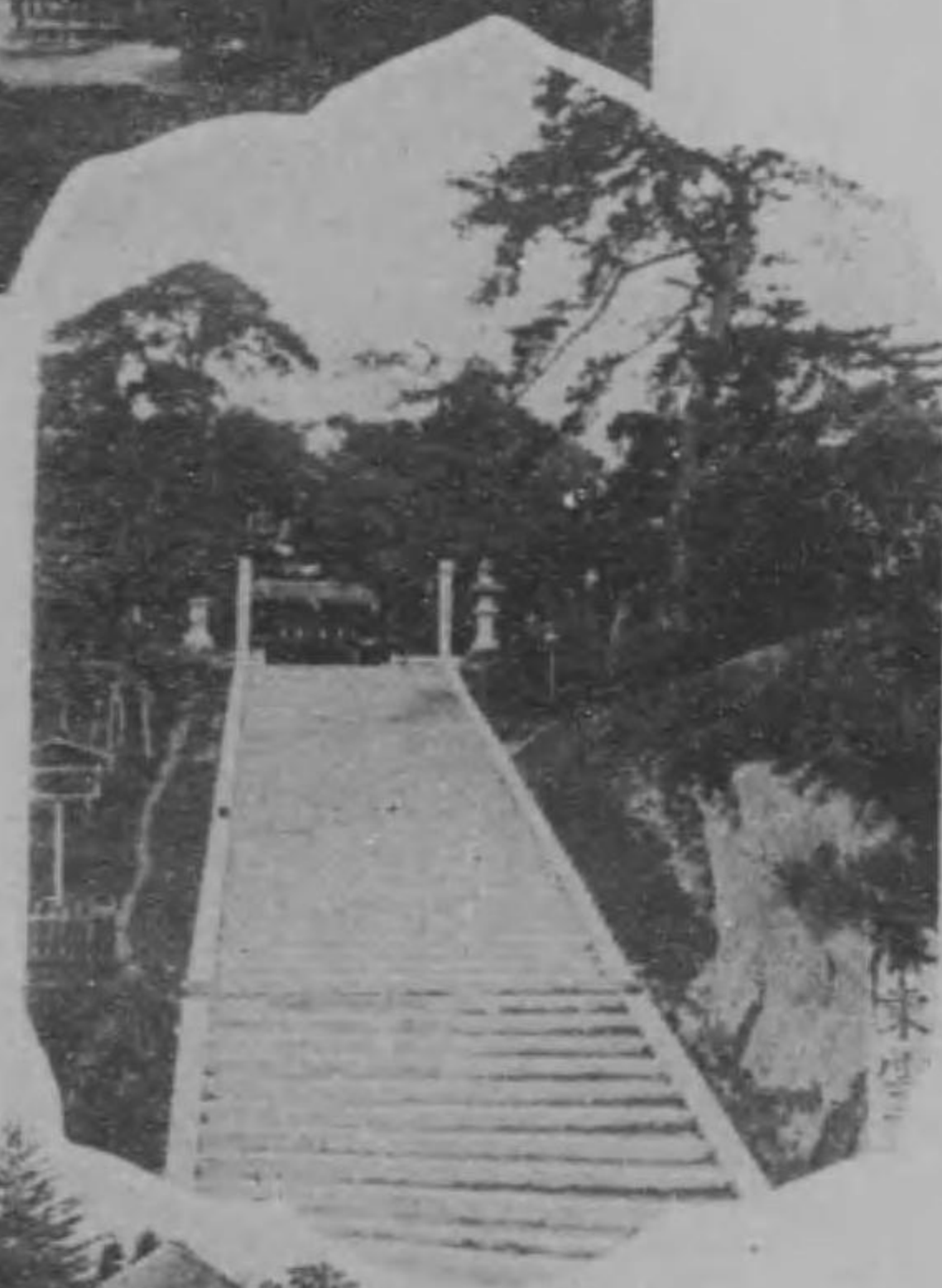
右樂座



壽座



縣社東雲神社



大林寺



松山公園



道後公園

名所舊蹟

左に市内及其附近の名所舊蹟の主なるものを紹介して遊覧の便に供せん。

(松山公園) 松山城の沿革に就ては既に其の項に於て説明する處ありたり、松山市は明治四十三年五月陸軍省より城山の大部分を借受け、之を松山公園と名けて庶人遊覧の地として公開せり。昇降口を東雲下、物産陳列場裏、縣廳西側、木屋町一丁目の四個所に設けり。天主閣内には古代の武器を陳列して縦覧に供し、園内の設備完成せり。天主閣上よりは市街の全部を始め道後の平野を俯瞰し、遠く藝豫防長の群島、佐田岬頭の豊豫海峡に沈めるを見るべく、景趣の佳絶なる筆紙の盡くし得べき處にあらず。

(石手川公園) 松山市が御大典記念として經營した

まつやま

四九

菓子、煙草	菓子卸	菓子	菓子卸	菓子	菓子	菓子
桂井	河原白	西堀端町	河原赤松	大山内	大相原	大街道
上堂	石喜市	間龜榮堂	町文平	電三七〇	電三三五	電一五一
三番町(壽座前)						

る公園にして、石手川の右岸緑樹鬱蒼たる天然の大公園なり、盛夏一たび足を此處に入れば涼味津々遠く黄塵萬丈の街を去れるの感あり、未だ多く人工を加へざる處、更に一段の興趣あり。

(石手寺) 道後驛より東南十町、道後村大字石手にあり、聖武天皇の勅願によりて建立したるものにて四國五十一番の靈場なり、境内の三重塔、寶塔、伽藍、鐘樓、仁王門等、何れも特別保護建造物に指定せらる、賽客常に絶えず。

(常信寺) 道後驛の北方五丁、道後村大字祝谷にあり、玄海僧正の肇建にして舊藩主久松家の菩提所たり、境内の櫻樹數百株花時最も美觀なり。

(薄墨櫻) 道後驛より約二里、伊臺村西法寺境内にあり、花時には雅人墨客の杖を曳く者多し。

菓子	府中町二丁目 大黒屋
菓子卸	辨天 森辰商店
岩おこし卸	辨天 森嘉一郎
クラツカー	淡町五丁目 清水信一
菓子、煙草	萱町二丁目 近藤忠太郎
菓子卸	魚町四丁目 村上猪之助
菓子	千舟町 松月堂
薄墨羊羹製造元	淡町三丁目(魚の棚) 中野本店

(星の岡) 松山市の南十町、石井村に在る數個の丘陵なり、元弘三年三月土居通増。得能通綱、義兵を擧げ長門探題北條時直を破りし古戰場にして山上に表忠碑あり。

(岩堰) 道後驛東南十一町、石手寺の東一町の處にあり、石手川の清流奇崑怪石に觸れて、轟々百雷の墜つるが如く、飛沫紛々として、盛夏猶涼氣の颯爽たるを覺ふ。

(湧ヶ淵) 岩堰より一里餘の上流に在り、奇岩高く突出し、松柏其間に生じ碧玉を布ける淵は飛瀑となり岸を噛みて逆下す、奇絶言語に絶す。

(太山寺) 高濱驛より東北十餘町、三津濱驛より北方十餘町、和氣村大字太山寺にあり。天平十一年僧行基、聖武帝の勅命を奉じて建立したる名刹にして、

菓子	唐人町一丁目 宇都宮定市
菓子	萱町五丁目 古川一國堂
菓子	大江良菊壽堂
菓子	大街道 村井金松堂
果物類	
果物問屋	松山驛前 西岡永壽
果物問屋	淡町五丁目(松山驛前) 七福出張所

豊後國大野郡三重郷眞野長者の一夜建立と稱す。現在の堂宇は一千三百年の星霜を經、本堂は十間四面にして一も貫楔くさぎを用ひざる稀有の建築なり、行基自作の中一面觀音及び弘法大師の大門の額は殊に有名なり、四國靈場五十二番の札所にして參拜者絶ゆる時なし。

(知新園) 松山市の西北十餘町、朝美村衣山にあり。佳樹草花を以て有名なり、松山電氣軌道會社は、茲に停留場を設け遊覽者に便せり。

(西山) 松山市の西方十町、朝美村にあり。山嶺は花見山城址にして、山腹に朝日八幡神社、山内神社及び大寶寺あり、此の寺に有名なる姥櫻うばざくらあり、釋迦如來、阿彌陀如來の佛像は共に國寶に數へらる。

(鹿島) 松山市の北方四里、北條町の海上にあり、

果物販賣 園藝業 新立町 河合金五郎

靴製造

製靴 三番町 大野綱衛

製靴、馬具 湊町四丁目 二宮常男

製靴 出淵町(武徳殿西横) 静岡 岡邦滿

屑物

製紙原料 唐人町二丁目 丸田徳次郎

古銅製屑物類 永木吉之助 電話一四九

伊豫綿 廣巾各 練種



製造 販賣

田内織所

松山豊坂町三丁目

振替口座 四六二八番
電話 五四番

資本金 壹百萬圓
 積立金 拾貳萬貳千貳百圓
 (貯蓄兼營)

松山商業銀行

松山市末廣町二丁目
 電話長貳拾番・五百〇貳番

支店	今治町 (電話二二九九番)	出張店	松山市小唐人町一丁目 (電話四四四番)
出張店	松山市本町一丁目 (電話一六二番)	同	三津濱町 (電話四五番)
同	新居郡中萩村	同	山口縣大島郡蒲野
派出所	新居郡垣生村	派出所	新居郡新居濱町
同	新居郡金子村	同	山口縣大島郡小松町

往古久留島氏の屬城たりし舊蹟にして、山麓に鹿島神社あり。北條町は温泉郡北部の關門にして地方の良港なり。附近に小燕子花の名所なる腰折山、並に建武二年河野通盛の七堂伽藍を創營して京都の東福寺に擬したる有名なる善應寺等名所の尋ねべきもの多し。

松山の名所名物を巧に俗歌に讀み込める「伊豫ぶし」は克く人口に膾炙して大に趣味あり、掲げて一燦に供す。

伊豫ぶし

伊豫の松山名物名所、三津の朝市道後の湯、音に名高き五色素麵、十六日の初櫻、吉田さし桃、小牡若、高井の郷のていれぎや、紫井戸や片目鮒、薄墨櫻や、緋の蕪、チョイト伊豫餅。

まつやま

製綿製紙原料
 古銅鐵屑物類
 淡町六丁目
 龜井季太郎

製紙原料
 古銅鐵屑物類
 永木町
 浅吉

【ヤ】之部

藥種、賣藥

藥品、教育品
 淡町四丁目
 株式會社 小倉藥館
 電一三八

藥種、賣藥
 辨和天
 田町
 電二七

藥品賣藥卸問屋寫
 眞機械材料一式
 淡町二丁目
 岡市
 電六一

五

地方行事

松山市並に附近郡村に於て、毎年定期に行はるゝ祭典其他の行事を左に掲ぐ。

(●印は陰暦の月日なり)

- ◎正月五日 柳天皇祭
- ◎正月五日 温泉郡湯山村 (松山市より東二里)
- ◎正月八日 伊豫豆比古神社大祭(椿祭)
- ◎正月八日 同郡石井村大字居相 (松山市より南一里)
- ◎正月十六日 十六日櫻(龍穩寺)
- ◎正月十六日 同郡御幸村大字山越 (松山市より北七町)
- ◎正月十六日 聖天緣日
- ◎正月十六日 同郡桑原村 (松山市より東南一里)
- ◎正月廿四、五日 春脱天満宮大祭
- ◎同郡余土村大字久保田 (松山市より西南一里)

藥種、賣藥	木屋町二丁目 戸井眞喜太 電四〇四
藥品、煙草 度量衡器	辨天町(松山驛前) 河野寛龍 電六六二
藥種、賣藥	湊町三丁目 上田内藏亮 電六一四
藥品一切 處方調劑	三番町 家木藥局
藥種、染料卸小賣	大街道 吉村福三 電六一一
藥品賣藥 染料卸小賣	松山停車場前東入 和田藥局 電六七〇
藥種、賣藥	末廣町二丁目 仲田藥局 電七二六

◎三月十五日 日招八幡宮祭

温泉郡余土村大字保免 (松山市より西南十町)

◎三月十七日 眞野長者緣日(太山寺)

同郡和氣村大字太山寺 (松山より西北二里)

◎二月初日 谷上觀音緣日

伊豫郡郡中村大字上吾川(松山市より西南三里)

◎三月十日 金刀比羅神社例祭

温泉郡生石村大字北吉田(松山市より西一里餘)

◎二月初午日 稻荷神社大祭

同郡郡中村大字稻荷(松山市より西南三町)

◎四月九日 稻荷大祭(道後湯之町)

◎四月十七、八日 東雲神社大祭(松山市東雲町)

◎三月廿一、二日 温泉記念祭(道後湯之町)

◎三月四日 石手大師御練り(石手寺)

◎三月四日 石手大師御練り(石手寺)

藥品賣藥卸小賣	三番町 和田多三郎 電五四二
藥劑師	湊町三丁目 錦織竹五郎
藥局	唐人町一丁目(中ノ川上角) 岩田正雄
藥種賣藥	萱町一丁目 鴻海福藏
藥種、染料	千船町 西川藥房
朝鮮專業 人參	朝鮮人參製劑所 四國販賣郎 湊町四丁目六六番戶
賣藥	萱町一丁目(土橋) 江戸茂本家

温泉郡道後村大字石手(松山市より東二十町)
四月二十三日 義農神社大祭

伊豫郡松前村大字筒井(松山市より西南二里)
三月十二日 隻手薬師縁日

温泉郡南吉井村大字田窪(松山市より東南三里)
三月十五日 生目八幡春季大祭

同郡阪本村大字淨瑠璃寺(松山市より南三里)
四月二十三日 山内神社例祭

同郡朝美村大字南江戸(松山市より西十町)
三月二十一日 石手大師縁日

同郡道後村大字石手(松山市より東二十町)
三月二十八日 寶塔寺縁日

同郡朝美村大字澤(松山市より西七町)
五月廿九日 鐘馗夏祭(安養寺)

六月朔日 (松山市木屋町)

柳行李、支那靴

柳行李 高久保 電七二〇恭
靴鏡 電七二〇恭

山産物

推茸製茶 河原町 白石源次郎 電四三五

【ケ】之部

建築枝料

建築材料 湊町四丁目 黒田兄弟商會 電六〇五
陶器 新玉町二丁目(新道筋) 中村長太郎 電七七四

建築材料 湊町四丁目 黒田兄弟商會 電六〇五
建築材料 新玉町二丁目(新道筋) 中村長太郎 電七七四

◎七月廿四、五日 天神祭 (宮古町阿沼美神社)

(立花町井手神社)
◎七月二十九日 萬燈施餓鬼 (千秋寺)

温泉郡御幸村大字山越 (松山市より北五町)
◎六月十七日 嚴島祭

同郡興居島村 (高濱より渡海約十八丁)
◎六月十七日 田中觀音縁日 (松山市木屋町)

◎六月二十九日 住吉祭

伊豫郡郡中町 (松山市より西南三里)
◎七月十八日 流燈施餓鬼 (梅津寺)

温泉郡新濱村(松山市より西北一里半)
◎七月廿三、四日 日切地藏尊縁日(湊町五丁目)

◎十一月子日 初子祭 (道後湯之町)

◎十月六日 還熊八幡神社例祭
温泉郡御幸村大字山越 (松山市より北六丁)

建築材料 湊町四丁目 高橋權平 電六六八

【フ】之部

文房具

文房具 三番町 徳田勇進堂 電七一〇

文房具 三番町 原田玉林堂 電三二一

文房具 大街道 勉強堂 光本彌三吉 電三二五

旅館

市の發展に伴ひ内外旅客の出入愈々頻繁を加ふると共に、旅館の設備は漸次改善せられ、遠來の賓客をして旅情を慰さむるに足るも、尙一層の改良を計るの目的を以て、市内主なる旅館は貴賓會を組織せり、旅館名左の如し。

城戸屋旅館	三番町	電 六七
高知屋旅館	魚町二丁目	電 一六一
渡部旅館	三番町	電 一四三
白石旅館	湊町四丁目	電 一六四
大谷旅館	三番町	電 三一九
久保豊旅館	大街道	電 六四
叶世旅館	大街道	電 一二七
金子旅館	三番町	電 五五九

文房具卸

淡町三丁目

吉田三吉堂
電 七六七

萬年筆専門

大街道(唐人町角)
中屋 號

文房具

大街道
松本元日堂
各種萬年ペン并ニ即時修繕

古着

本町二丁目



矢野常治郎
電 二三三八

營業品目
綿古着小袖類古羅紗物古蒲團類其他種々

古着

淡町一丁目

浅野富三郎

松利旅館	御寶町	電 六〇四
佐々木旅館	魚町二丁目	電 一七〇
末廣旅館	榎町	電 一一五
久保田旅館	榎町	電 一〇三
彌千代旅館	大街道	電 六六
福田旅館	湊町四丁目	電 三二六
宇津旅館	三番町	電 七六〇
小松旅館	三番町	電 六五三
西村旅館	三番町	電 四六八
曾根豊旅館	千船町	電 三四七
今岡旅館	一番町	電 二六二

右の外市内の旅館は百を以て數ふべく、道後湯之町には、鮎屋旅館、同別館、大和屋本支店、岩井屋、道後ホテル、琴松館、八雲旅館等大小の旅館軒を並

古着

府中町二丁目

日下百太郎
電 一八五

古着

千船町
本田覺次郎

古着

辨天山下町
熊九吉

古着卸

本町二丁目
野間眞一

古着

辨天眞鍋町
忠則

古着

淡町一丁目
太田茂吉

蒲團

蒲團反物

淡町四丁目
高久保清市

べ、三津濱町には宮崎旅館、向盛館等あり、高濱には窪田(小富士亭)有信館、東雲亭等あり、郡中町には門茂、福屋等あり、何れも客室其他の設備完全なり。

料理屋

市内には大小の料亭各所に散在す、其主なるもの左の如し。

梅の家	二番町	電 三七
明治樓	三番町	電 二二五
龜乃井	豊阪町	電 二一五
清樂館	唐人町二丁目	電 三三四
松山俱樂部	二番町	電 一三一

梅の家の客席の宏壯なる、明治樓の瀟洒なる、龜乃井の泉水の雅致なる、清樂館の眺望に富める、共に地の如し。

麩製造

松前町四丁目
山崎安五郎

武力細工

湊町四丁目
石橋九市

【コ】之部

交通機關

電車	湊町五丁目	伊豫鐵道電氣株式會社 電七、二〇七、二二三
電車	一番町(停留場前)	松山電氣軌道株式會社 電五五、三五七

方有數の料亭たるを失はず。

遊廓

道後湯之町に松ヶ枝町の遊廓あり、大岩、大紋、鳶屋等を始め幾多の青樓軒を列ねて絃歌絶ゆることなし、又三津濱町にも稻荷新地の遊廓あり、松ヶ枝町と共に東西相應して遊客を迎ふ。

劇場、活動寫眞

新榮座	小唐町二丁目
壽座	三番町
朝日座	松前町四丁目
末廣座	湊町五丁目
大正座	柳井町
有樂座	小唐人町二丁目 (活動寫眞)

吳服太物

吳服太物	湊町四丁目	米周合名會社
吳服太物	湊町三丁目	吉田重兵衛支店
吳服太物	湊町二丁目	神谷鶴之助
吳服太物	太街	末吉
吳服太物	高田	末吉
吳服太物	湊町四丁目	米藤合資會社
吳服太物	湊町三丁目	龜井吳服店

土産品

松山道後に遊べる旅客の、土産物として求むべき品は類多あれども、就中左の數品は地方の名産として殊に名有るものとす。

(砥部焼陶器) 淡黄磁器として近時其名全國に噴々たり、製造所は伊豫郡砥部村(松山市を距ること南方三里)にして販賣所は市内に數箇所あり、花瓶、茶器、菓子器等を出す。

(竹細工) 竹細工は近來特に其技術進歩し、内地用の外、外國向の製造盛に行はれ、種類多く土産品として恰好のものなり。

(竹卷陶器) 地方獨特の竹細工を以て砥部焼陶器を卷けるもの、頗る優雅高尚にして、以上の諸品と共に土産品として最も珍重せらる。

吳服太物	本町一丁目	大丸合名會社	電一〇七
吳服太物	淡町二丁目	井次郎	電二三一
吳服太物	淡町二丁目	御木龜太郎	電一〇四
吳服太物	本町一丁目	瀬川喜七	電三〇七
吳服太物	大街	増岡清三郎	電五二五
吳服半衿	大街	東廣義	電六三五

國産伊豫絣

製造販賣

本店 松山市魚町二丁目

玉井合名會社

製造工場 松山市春日町

關西捺染特約店

電話六五番 電略(タマ)
振替口座大阪一五〇〇番

陸軍御用

味噌醬油製造業

松山市木屋町四丁目

① 木村本店

電話 一 一 二 番
振替口座大阪六五四九番

(伊豫絨) 地方特有の織物にして其名世上に噴々たり、詳細は本書産業の部に盡くせり。
 (五色素麵) 宮内省御用品として其の名世に顯はる、地方特有の産物にして他に其類を見ず、細糸五色に彩れる處、美麗にして味亦佳なり。
 (二名煮と干海老) 共に乾燥したる特種の製品にして風味佳良なり。
 (緋蕪) これ亦地方の特産にして、其色の眞紅なるは他に其の比を見ざるところなり、漬物として特に其名あり。
 其他水月焼、江山焼の古雅なる陶器あり、勝山提燈、木菌細工、具細工の外、古來有名にして高尚なる伊豫簾あり、製紙には奉書、生漉、小菊紙等あり、菓子、羊羹、饅頭、其他の蒸物類は他に優れる風味と

まつやま

三

吳服、古着	本町一丁目 小倉長太郎 電話 一三四
吳服太物	木屋町五丁目 光宗百太郎
モスリン	大野道 西野恒三郎 電話 六一〇
吳服太物	本町二丁目 會社南條商店
吳服、太物	大野道 ちぎや吳服店 電話 二七七
吳服、太物	本町二丁目 石崎永太郎
太物、シャツ	木屋町五丁目 相原松三郎

體裁とを備ふるもの多く、土産用に適するもの類多あり、干油揚は地方特有の逸品なり、又近來果物類の松山市附近に産出するもの年々其の種類と數量とを増加し、四時の需要に應ず、これ亦土産品として最も適當なり。

道後湯之町

道後湯之町は、松山市の東北十餘町の處にあり、戸數五百餘、人口二千餘、有名なる温泉の在る所にして、浴客常に絶えず。伊豫鐵道電氣株式會社の電車と、松山電氣軌道株式會社の電車は數分間毎に發車し、松山道後間を往復して交通最も便なり。温泉は歴史的由緒ある靈泉にして、泉質の清淨にして諸病に効驗あると、建築物の宏壯なるを以て日本一の温泉と稱せらる。氣候溫和にして空氣の流通よく、

小間物

小間物卸	淡町四丁目 野本秀次郎 電三五五
小間物卸小賣	唐人町三丁目 和泉儀商店 電一六九
小間物袋物卸	本町三丁目 大丸寅次郎 電七二五
小間物化粧品	大森街 清次郎 電六七二
小間物化粧品 櫻足袋本店	大アズマヤ號街 島本米次郎
小間物、化粧品	淡町四丁目 關重邦
小間物、寫眞	淡町二丁目 山下倉太郎 電七五八

避暑避寒共に上乘の温泉場たり、浴客を待つ旅舎は百餘を有し、清潔にして高樓臺を連ね、又閑靜の地をトして數奇を凝らせる旅館も尠からず。されば四季共に晝夜を問はず、湯治の客陸續として來り集り、其數一ヶ年百萬人以上に及ぶ、誠に好個の樂天地なり。温泉場の東方に遊廓あり松ヶ枝町と云ふ、絃歌常に絶えず、又以て旅情を慰する別天地たり。

温泉の由來 神代の昔、大巳貴命、少名彥命と共に、此地に來り給ひし時、少名彥命、不圖病みて絶え入り給ひたるを、大巳貴命之を蘇生せしめんとて、温泉を汲取つて少名彥命の御身に灌ぎかけ給へば、暫くにして甦り「眞暫寢哉」と詠じて、勢健く側の石を踐みて立ち給ふ、其の石、今尙温泉の側にありて、世に之を靈の石と唱ふ。

公債株式賣買

公債株式賣買	三番町 明治屋株式店 電五八五三〇、五八〇、七六五
公債株式賣買	三番町 郷田藤次郎 電二三四、四七一
公債株式賣買	末廣町一丁目 酒井熊吉 電長二〇四、四七七、六二九

古歌

伊豫の湯の汀に立てる靈の石

これぞ神代のしるしなりける。

古史の傳ふる處によれば、少名彥命は、極めて矮少なる神なりしと云ふ、されば神の湯第一室の湯槽に刻める神像の、大已貴命に抱へられて居給へるは、問はずして此命たることを知り得べし、人皇の世となりては、一時震災のために埋没したるを、或時脚を傷ける鷺一羽飛來りて、此湯に浸し、が、數日の後全く癒へしを見て、人々其靈驗を知り、此の地に溫泉場を開くに至れりと。現在溫泉場の建築場の裝飾其の他に多く鷺を用ひたるは凡て之に因めるなり。此溫泉は古には饒多津の石湯と稱せられ、代々の天皇の御幸ありしこと左の如し。

現公債株式

三番町 東鶴吉商店 電四六三、六六一、六六七

地方株式

四堀端町 久間野 電七一九

勸業貯蓄

萱町六丁目(電車通南) 八谷慶三郎 振替大阪二八三三〇

琴、三味線

琴、三絃製造卸

千船町 矢野兄弟商會 電四二三

琴、三味線

大阿街 古屋 電八〇二

琴、三味線

大眞街 鍋憲一

氷

久保町 伊豫製氷株式會社 電四〇一

興行

劇場

小唐人町三丁目 新榮座興行株式會社 電八〇八

劇場

三番町 壽座

劇場

松前町四丁目 朝日座

活動寫眞

松山驛前 松山 電七二四

高等娛樂場

大街道 樂座 電七五四

【テ】之部

第七代 孝靈天皇及皇后

第十二代 景行天皇及皇后

第十四代 仲哀天皇及神功皇后

第三十三代 推古天皇及聖德太子

第三十四代 舒明天皇及皇后

第三十七代 齊明天皇及當時儲副たりし天智、天武の兩帝

明治の御世に至りては、明治三十六年。

今上陛下 未だ東宮に在はせし時行啓あり。其他内

外貴顯の來浴數ふるに違あらざるなり。

(浴室構造) 往古は一面の湯の中に間架を設けて、

一人づゝ男女を別ちて浴せしめしと見ゆ、この間架を湯桁と名付けしこと、左の古歌に徴して察するを得べし。

伊豫の湯の湯桁の数は左八つ

右はこゝのつ中は十六

(六花集)

神さふる伊豫の湯桁のそれならて

わが老らくの敷をしられす

(新葉集)

久松定行松山入城の後、改修して石を疊み溝を浚へ、貴賤男女を分ちて浴せしむることゝなせり。

其後明治二十五年更に改築せしもの、即ち現在の浴室なり。

(浴室名稱)

神乃湯	甲室	男浴
	乙室	女浴
	一室	男浴
二室	男浴	
	女浴	
三室	女浴	

電氣業

電氣供給

淡町五丁目

伊豫鐵道電氣株式會社

電二五、二二七

電氣供給

一番町(停留場前)

松山電氣軌道株式會社

電五五、三五七

鐵工業

鐵工、鑄物

南八坂町

佐伯鐵工所

電二五〇

鐵工、鑄物

千船町

勝山鐵工所

電五四六

鐵商

鐵類

府中町三丁目

後藤豐太郎

電六三七

養生湯	五室	男浴
	六室	女浴
神乃湯	七室	男浴
	八室	女浴
松乃湯	左室	男浴
	右室	女浴
區外	牛馬浴	

浴室の階上には二階三階あり、浴客の休憩に充て、茶菓等を饗するの設備あり、特に神乃湯の三階には浴客倶楽部の設けあり、楊弓、碁盤、其他の遊技具を備へり。

浴槽は何れも花崗石にて築造し、温泉は絶えず湯口より瀧をなして落下し、温度人體に適し、且つ極めて清淨透明なること、他の温泉に見ざるとこ

手拭

印地木綿卸

三番町

高松岩藏

電六七一

【了】之部

藍商

藍、染料

木屋町三丁目

村上孝次郎

電四

藍、染料、糸

木屋町四丁目

松村經助

電五三八

藍染料

西堀端町

北佐商店松山支店

電三四三

ろ、其の醫治効能の著しきことは、廣く世人の喧傳する處なり。

(醫治効能)

- 第一 貧血症、慢性腸胃加答兒、慢性癩麻質斯、胸膜炎、肋膜炎、心臟の諸病、皮膚病。
 - 第二 神經衰弱症、諸種の肺病、氣管支加答兒、男女生殖器諸病、貧血より來る腦の諸病。
- 特に最近ラヂウム含蓄量の多きこと全國中の白眉と稱せらる。

(道後附近名所舊蹟)

道後公園 建武年中河野通治の築きし湯月城を、天正年中小早川隆景が攻落せし以來、全く荒廢に歸して竹木の生茂るに委せ『お竹籬』と呼ばれしもの、明治十八九年の頃開拓して公園とな

藍	府中町三丁目	米田 武一
藍	本町三丁目	桑村 商店
油揚製造		
干油揚	唐人町二丁目	川田 金太郎
干油揚	萱町一丁目	程野 兵次郎
飴製造		
飴製造	河原町	武田 廣一
飴製造	辨天町	中川 助太郎
滋養飴瓶詰		電六七四

し、今尙外濠、内濠など昔の名残を留むる中に、四季折々の花樹を植栽し、殘んの濠は自然の泉水をなして潑瀾たる鯉魚躍り、庭園のベンチ、四阿は來遊者の憩ふに委するの外、聚樂館、風詠館、其他幾多の料亭、茶店の備へあり各種の運動具も設けらる。

鷺谷 道後十六谷の内に數へらる、麓に鷺の井と云ふ名泉あり、印ち脚を傷けし鷺の平癒せしと云ふ傳説の地なり。

寶嚴寺 時宗の開祖一遍上人誕生の舊蹟にして、松ヶ枝町の東端にあり。同寺に上人自作の木像を藏す。

湯神社 温泉の南、冠山に在り、温泉創始の守護神大巳貴命、少名彥命を祭る。

飴製造、米穀	淡町一丁目	太田 雄治郎
飴製造	木屋町六丁目	渡部 芳太郎
麻糸、荒物		
麻糸、荒物	淡町三丁目(魚の棚)	工水 戸商店
油紙製造		
外科消毒油紙 小包油紙、合羽	西柳町	田音 五郎
麻裏製造		
麻裏製造卸	水口町	田中 光次郎

伊佐爾波神社 伊佐爾波岡に在り、昔仲哀天皇の神功皇后と共に此温泉へ行幸ありし舊蹟なり、神殿は寛文七年清水八幡に倣ひ、飛彈の良匠を招きて改築せしものにして、社殿廻廊輪奐の美を極む。

鴉 溪 道後十六谷中最も有名の勝地なり、天保年中松山の舊士大高坂舍人、此地を拓きて亭を設け、五清淨室と稱し自ら楽しみたるもの、今は河畔の丘上に幾多の小亭を設け、雅客の來遊に便せり。

放生池 道後停留場前にあり、石清水の放生池に擬して名けたるものにして其の名高し。

義安寺 道後停留場より東數丁の地に在り、弘安の役に、名譽の戦死を遂げし、河野通時の遺骨

【廿】之部

清酒醸造

酒醸造

本町三丁目 岡酒造合名會社 電二一

酒醸造

松前町三丁目 栗田幸次郎 電二七

酒醸造

築山 辻田町 鶴次 電七二八

酒類醸造

北夷子 岡良 電八一 振替大阪三六八三五 河原町 小賣部

酒類販賣

酒類

大 街 村上和洋酒店 電四〇

酒類

湊町四丁目 池田清二郎 電二二〇

酒類

萱町一丁目 福岡 電六十 二郎

酒類

末廣町一丁目 村山健兒

酒類

千 船 砂田サヨ

酒類

一 万 馬越七藏

を埋めたる處、後に天文八年河野義安の建立せし寺にて螢の名所として名高し、松尾芭蕉此地を過ぎ、次の句を詠めりと云ふ。

この螢田毎の月とくらべ見む

(道後土産) 遠來の浴客が道後土産として郷國に贈すべき品々は概ね左の如く、何れもこの地に製産せるものなれば土産物として最も恰好なり。

扶桑木彫刻品 木菌細工 竹細工 湯酒艾 道後煎餅 湯桁飴 五色素麵 湯晒團子 湯泉染手拭

三津濱町

三津濱は最も古き歴史ある有名の港にして、高濱港と共に瀬戸内海往來の要津たり。戸數二千五百、人口一萬餘、貨物は常に港頭に輻輳し、特に近海島嶼の物資供給地として、大小船舶の出入引きも切ら

ず、内港には常に帆檣林立せり、目下數十萬圓の巨費を投じ築港工事中なれば、其の完成の日は一層の繁榮を見るべく、産物には海産物、竹細工、二名煮等最も有名なり。

毎朝三津港頭に於ける朝市は、古來有名の市場にして、元和二年に創設せられたりと云ふ、日々集散する魚類極めて顆多しく、群集せる漁夫商人は千を以て數ふべく、加ふるに近來果物蔬菜の市場も、同時に開催せるを以て、其の盛觀は當町の花と唱すべく、古來魚市場として關西一の稱あり。

三津濱港の南端に松山電氣軌道會社の經營に係る海水浴場あり、夏季には一個の行樂地として頗る殷賑なり。

烈女松江の墓 海水浴場の東南數丁にして、烈女松

酒類	千會船	電部一	四五
酒類	北京	河上村	上與平次
酒類	末廣町二丁目	三戸米	四郎
酒類	紙屋	佐賀	喜平
酒類、煙草	花園町二丁目	渡邊	勘三郎
酒類、醬油	千友船	近利	吉
酒類、醬油	河原	大阪屋	本店
酒類、醬油	本町五丁目	徳丸	政吉

江の墓あり、松江は縣下舊大州藩士井口瀨兵衛の女、文化十年節操を汚さんとせる無頼漢を切捨て自分は父の刃に伏せし壯烈の婦女なり、世俗今に至るまで之を慕ひ、香火常に絶えず。

高濱

松山市を距る西方一里半、伊豫鐵道高濱線の起點の在る處にして、伊豫小富士の稱ある興居島と相對して、太山寺山を負ひ、海には四十島、九十九島繪の如く、港内水深くして船舶の寄泊に適す、港内南と北とに棧橋を設け汽船は皆之れに據る。大阪商船株式會社其他の各社は支店又は代理店を設け、船客無料待合所其他種々の設備整ひ、海陸連絡の便實に縣下第一と稱せらる。旅館料理店の設備整ひ遊覽地として有數の地なり、尙魚市場及び果物市場等あり。

酒類	南夷子町(舊廣組)	廣田	酒肆	三四
酒、醬油	釐町七丁目	田頭	國太郎	
砂糖	淡町三丁目	神田	常義	五六
砂糖	三番	大本合名會社		四六
砂糖	唐人町一丁目	松島	政太郎	四五
雜貨(和洋)				

梅津寺濱 高濱の南方一小丘を超ゆれば、海水浴場として有名なる梅津寺濱あり、白砂青松前面に鏡の如き海を控へ、浴客のために設けたる休憩所を始め、噴水、温浴、其他各種の運動遊戯具等皆完備せり。

興居島は高濱の前面に横はり、周廻七里、山嶽中央に聳ゆ、これ伊豫の小富士にして海拔一千尺、戸數九百、人口五千餘、全島桃。林檎等を栽培し殊に花時は極めて美觀にして雅人騷客の來り遊ぶもの多し、島内なる泊の丘上に嚴島神社あり、毎年七月例祭を行ひ賽客極めて多く頗る殷賑を極む。

郡中町

郡中町は松山の南三里餘、北豫海岸の名邑にして、

伊豫砥、陶器、砂糖、米、材木、八景煮、海老煎餅等の産物あり。港には船舶の出入繁く、陸には伊豫鐵道郡中線の終點なる郡中驛あり、尙同驛を起點として中山村に達する索道の架設さるゝありて、海陸運輸の便極めて良好なり。戸數一千一百、人口五千六百餘、商業盛にして、郡役所、警察署、銀行、會社等あり。旅館料亭等の設備も整ひ、殊に有名なる彩濱館は町の西端白砂青松の間にありて眺望頗る佳なり。附近に新川海水浴場あり梅津寺と並び稱せらる。其他名所舊蹟の尋ねべきもの尠からず。

和洋雜貨	淡町三丁目	田村安八郎	電三二、八三
和洋雜貨	淡町二丁目	岡千次郎	電一〇九
和洋雜貨、樂器	淡町三丁目	田村信次郎	電七〇九
和洋雜貨	大高街	高橋洋品店	電一四八
和洋雜貨	大野街	野村政吉	
和洋雜貨	大街道	高島屋支店	電七五七

和洋雜貨	大街道	石井忠三郎	
和洋雜貨	本町三丁目	三井新太郎	電二五二
和洋雜貨	淡町四丁目	若原伊右衛門	
和洋雜貨	淡町四丁目	作道久吉	電八八
和洋雜貨	淡町三丁目(魚の棚西(三軒目))	村上傳一郎	
和洋雜貨	淡町五丁目(松山驛前)	石丸鹿太郎	
雜貨	淡町一丁目	森松嘉藏	電一八、一七七
雜貨卸	淡町一丁目	森松嘉藏	電一八、一七七

雜貨卸	木屋町五丁目 仲野元藏 電一四四	雜貨農具商具	湊町二丁目 藤村良太郎 電七五九	雜貨卸	河原町 富田陸三郎 電二七四	雜貨、冰室卸小賣 病人用器具	小唐人町三丁目 山田敬次郎 電四八	雜貨	三番町 溝口義忠	雜貨、メリヤス 帽子、洋傘、袋物	木屋町六丁目 光田傳三郎	雜貨	萱町九丁目 藤田廣吉
雜貨	河原町 富永政吉	枝木	松前町二丁目 赤木松太郎 電六三九	材木	河原町 窪田材木店 電四一九	材木	湊町二丁目 岡本辰次郎 電五一九	材木	新町二丁目 吉久元五郎	材木	湊町六丁目 成瀬利三 電一七八	材木	木屋町三丁目(新町角) 篠田商店

材木	萱町六丁目(古町驛前) 丹生谷榮藏	竹材、杉皮	永木部町 朝光	指物製造	湊町四丁目 伊藤好藏 電七六四	和洋指物製造 椅子、卓子	和洋家具商	湊町四丁目 藤本岩五郎	裁縫箱	木屋町三丁目 いろはや商店	裁縫いろは箱	銀行業	三番町 株式會社 五十銀行 電五二、四〇三、五二七	二番町 株式會社 愛媛縣農工銀行 電二、四五一	湊町四丁目 株式會社 伊豫農業銀行 電一四六、四六〇	末廣町二丁目 株式會社 松山商業銀行 電二〇、五〇二	更紗	千船町 太田雄三郎 電六五七	古代式更紗	【キ】之部
----	----------------------	-------	------------	------	-----------------------	-----------------	-------	----------------	-----	------------------	--------	-----	------------------------------------	----------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	----	----------------------	-------	-------

合名會社 本町二丁目 仲田 銀行 電八、五七一	合名會社 湊町二丁目 大野 銀行 電六	株式會社 三番町(郵便局東角) 伊豫 銀行 電九五	株式會社 三番町 松山貯蓄銀行 電一四	株式會社 湊町四丁目 愛媛貯蓄銀行 電七〇二	株式會社 湊町三丁目 伊豫山銀行 電七一三	株式會社 湊町三丁目 不動銀行松山支店 電二六七	株式會社 三番町 共榮貯金銀行松山支店 電二一八
株式會社 三番町 今治商業銀行松山支店 電一二三	株式會社 千船町 今出銀行松山出張店 電一三〇	金銀細工 美貴金屬細工 大街道 大丸藤四郎 電四六二	金銀細工 西堀端町 山本總太郎	【メ】之部	莫大小神物類	メリヤス雜貨 湊町三丁目 白石熊吉 電八二〇	

メリヤス雜貨 湊町三丁目 江口春次郎	メリヤス袴物 湊町三丁目(魚の棚西へ三軒目) 村上傳一郎	メリヤス、洋傘 湊町四丁目 井上數之助	メリヤス、雜貨 帽子、肩掛、洋傘 湊町三丁目 藤原吉助	麵類 木屋町三丁目 山田梅太郎 電六六三	麵類卸小賣 松龜事 梶下幾太郎 湊町三丁目(延立寺前)	麵類 辨天町(松山驛前) 井筒大阪支店 電七五六
東京生そば 二番町上横丁 更科 電四五八	【ミ】之部	味噌製造 荳町二丁目 徳丸勝五郎	味噌、醬油製造 荳町七丁目 影山千代吉	【シ】之部	書籍	

書籍、文具	淡町三丁目 向井藏次郎 電四一	書籍、文具	淡町三丁目 土肥與平 電二六	書籍、文具	淡町四丁目 世良織次郎 電一三五	新古道書籍	淡町一丁目 守谷 電四一二	書籍、文具	西堀端町 八束活文堂 電一八九	古本專業	千船町 赤本屋 本田寛平
書籍、雜誌	淡町四丁目 文芳堂書店 大窪文美	醬油、味噌醸造	木屋町四丁目 木村虎太郎 電一一二	醬油、味噌醸造	松前町二丁目 松山醬油株式會社 電四四五	醬油味噌醸造	淡町四丁目 久賀屋	醬油、酒類	唐人町三丁目 奥田又一藏 電一六	醬油味噌醸造	

醬油、味噌醸造	三津口町 中山正五郎	醬油、味噌醸造	淡町三丁目 藤井長平	醬油、味噌醸造	淡町一丁目 澤田健一郎	醬油、味噌醸造	唐人町二丁目 市川庄松	醬油醸造	本町五丁目 菅義勇	醬油販賣	淡町三丁目 石崎松山支店 電四〇八	醬油、酒類	西末町 光保吉 電六〇八
醬油、酒類	○木村支店 榊崎覺市 北夷子町	醬油、酒類	○末廣町一丁目 木村第二支店	燒酎蒸溜		白燒酎命酒類	荳町一丁目 徳丸利一	銃砲	淡町二丁目 竹田榮三 電五七四	銃砲、火藥		自轉車	出淵町一丁目 好正春 電三三一

クラント	木屋町二丁目 伊藤自轉車店 電七四一	自轉車	荳町一丁目 村上自轉車店	薪、炭	薪炭商 紙屋町 電五四七	薪炭肥料	木屋町四丁目 吉野寅藏 電一九八	寫真業	二番岡本中央寫真館 電三〇七	寫真業	大街道二丁目 兒玉善八 電六六〇
寫真	二番町(大街道入口) 高橋直三郎	寫真	大街道 三光軒	漆器類	漆器、佛具 世帶道具 淡町四丁目 長門屋	漆器	淡町三丁目 野本幸三郎 電七四七	新聞發行	南堀端町 海南新聞株式會社 電一六八		

新聞雜誌賣捌

東京各新聞取次	淡町四丁目 愛媛新報株式會社 電五三、七四〇	肥料	肥料滿鮮大豆 荳町一丁目 堀洋行	東京各新聞取次	三番町 三好屋新聞舖 電四二〇	質屋業	唐人町三丁目 奥田マスヨ	肥料	魚町二丁目 五百木荒三郎 電六四九	大阪各新聞取次	三番町 三好屋新聞舖 電四二〇	質商	唐人町一丁目 山内富五郎	肥料	末廣町一丁目 村七イ 電三六四
肥	淡町六丁目 伊豫肥料合資會社 電四二七	質商	唐人町一丁目 山内富五郎	肥	栗田卯太郎	質商	末廣町一丁目 村七イ 電三六四	質商	唐人町一丁目 山内富五郎	肥	栗田卯太郎	質商	末廣町一丁目 村七イ 電三六四		

質 商 唐人町一丁目 弘井ハナ

質 商 鐵砲町 吉田政常

質 商 北八坂町 池川 濶 廉

【七】之部

精米業

精米、米穀 河原町 橋本丑之助

精米、米穀 本町四丁目 御堂萬之輔

精米、米穀 辨天町(松山驛前) 森川重留

精米、米穀 北 京町 玉井徳次郎

精米 唐人町三丁目 村上辰造

精米、米穀 辨天町(松山驛前) 泉好松

精米、米穀 木屋町四丁目 岡本 彝

製 杖

製 材 淡町六丁目 藤本友次郎

製 材 淡町六丁目 製材所

製粉業

製粉、米穀 北 京町 白石友吉

製粉業 南夷子町 山内市太郎

製粉業 荳町一丁目 和田助太郎

製繩機

製繩機 新玉町二丁目 松本磯太郎

石鹼販賣

石鹼化粧品卸 湊町四丁目 富田屋 號

【八】之部

酢 釀 造

酢 釀 造 末廣町二丁目 合名 高本 六 酢 九 店

壽 司

夫婦壽し 三 番町 手島 奎 太郎

壽 司 北夷子町(竹ノ鼻) 二 名 壽 司

壽 司 一番町(裁判所前) 浪 花 壽 司

伊豫名產
砥部燒淡黃磁器



愛媛縣砥部

窯元 向井和平本店

松山市湊町三丁目

向井和平販賣部

電話 〇五三五番

大阪市南區心齋橋二丁目

向井和平支店

電話 南二三三七番

大正七年十一月廿二日印刷
大正七年十一月廿五日發行

發行兼編輯者

愛媛縣松山市湊町六丁目四十七番地
松山商工會

印刷者

大阪市南區安堂寺橋通一丁目一番地
濱田正夫

印刷所

大阪市南區安堂寺橋通一丁目一番地
濱田印刷所

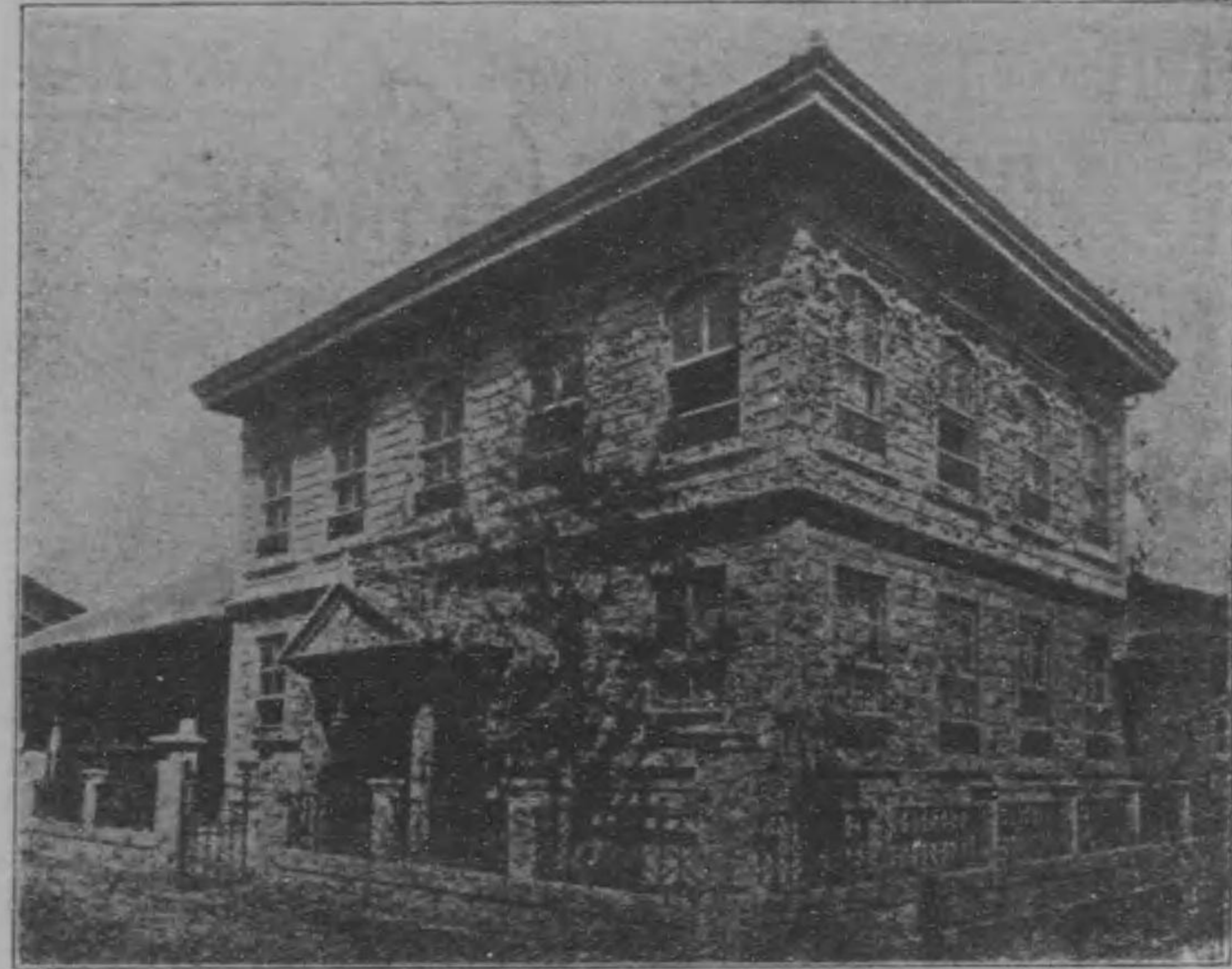
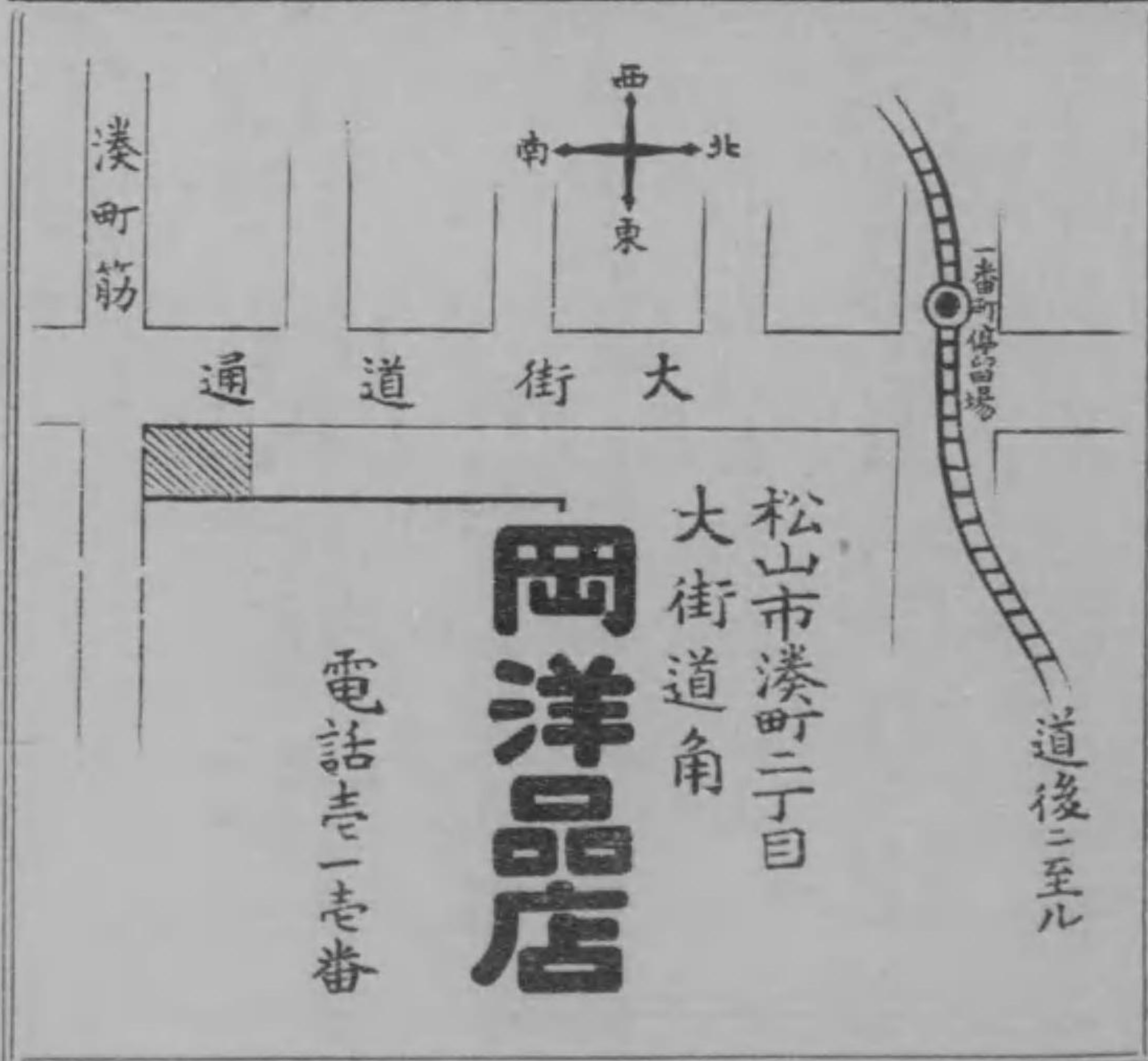
電話 南(二三三八番
六六九三番)

發行所

愛媛縣松山市湊町六丁目四十七番地

松山商工會

(電話二四番)



伊豫織物同業組合事務所

◆伊豫織物同業組合員の製織する伊豫
 紵は現代需用者の要求に應じ染色地
 質柄模様を改良し丈尺を寛裕にせり
 就中紵部の純白にして鮮明なるは全
 國に冠たり而も其價は低廉にして實
 用に適し特に學生服としては外觀耐
 久共に適實にして經濟的なり
 ◆伊豫紵の産額は一箇年約貳百萬反に
 達し東京大阪京都名古屋を首め全國
 各地に其販路を有す
 ◆伊豫紵は毎反組合検査所に於て嚴密
 なる検査を爲し検査証印を押捺す
 ◆伊豫紵の染料は正藍正紺染にして毫
 も化學的染料を使用せず
 ◆伊豫紵は全國各地太物呉服商店に於
 て販賣す

松山市紙屋町
 伊豫織物同業組合
 電話二四八番

旅館

城戶屋

松山市三番町

電話六拾七番

營業種目

活版印刷	石版印刷
和洋帳簿	活字鑄造
諸紙類	諸官衙用品
愛媛縣報印刷所	



米周吳服店

松山市湊町四丁目

電話百參拾六番

合名 松山向陽社

松山市榎町拾壹番戶

電話一四二番
振替大阪一五六二二番

吳服商



吉田重兵衛支店

松山市湊町三丁目

電話四十三番
振替大阪七八八番

清酒かちごき
清酒富久娘

特約店

キリンビール
三ツ矢サイダー

和洋
酒商



池田清二郎

松山市湊町四丁目

電話(二三〇)電略(〇五)
振替貯金(大阪四〇四八)

綿絲

卸商



泉安太郎

松山市西堀端町

電話六三六番

松山市湊町四丁目

吳服



會社 合資

米藤吳服店

電話 百十七番
振替 大阪四三二一番

松山市魚町二丁目

和洋紙商

印刷業

△ 福田合名會社

電話 二二一番
振替 大阪五九三〇番

◎價格勉強 ◎品質精撰

伊豫絣

二并 無地織物

各種卸商

松山市紙屋町



栗田卯三郎商店

電話 參貳七番



(大谷旅館全景)



(同 新築裏座敷)

松山市三番町
 (壽座前)
大谷旅館
 電話一三九番

□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
□	創	明	治	二	十	九	年	業	創
□	業	業	業	業	業	業	業	業	業
□	號	商	玉	良	洋	服	店	號	商
□	電	話	二	四	四	番	電	話	二
□	略	(及	マ)	番	番	番	番	番
□	松	山	市	湊	町	三	丁	目	松
□	尾	崎	洋	服	店	尾	崎	洋	服
□	電	話	二	一	一	番	電	話	二
□	松	山	市	湊	町	三	丁	目	松
□	尾	崎	洋	服	店	尾	崎	洋	服
□	電	話	二	一	一	番	電	話	二
□	松	山	市	湊	町	三	丁	目	松
□	尾	崎	洋	服	店	尾	崎	洋	服
□	電	話	二	一	一	番	電	話	二
□	松	山	市	湊	町	三	丁	目	松
□	尾	崎	洋	服	店	尾	崎	洋	服
□	電	話	二	一	一	番	電	話	二
□	松	山	市	湊	町	三	丁	目	松
□	尾	崎	洋	服	店	尾	崎	洋	服
□	電	話	二	一	一	番	電	話	二
□	松	山	市	湊	町	三	丁	目	松
□	尾	崎	洋	服	店	尾	崎	洋	服
□	電	話	二	一	一	番	電	話	二

全 紹糸商 垂水幾太郎

松山市萱町三丁目

電話四〇二番
電略 四九三

諸品卸商 今 森 松 嘉 藏

松山市湊町壹丁目

電話 百七十八番
電略 一七九番
振替 大阪一五六八九番

創立 明治二十七年七月



株式 會社

伊豫米穀取引所

松山市末廣町二丁目

電話 九番

國産 伊豫絣製造

松山市湊町一丁目

今 神 山 充 穂

電話五六九番

預金は有利に、貸出は擔保信用とも最も御便利に御取扱可申上候

株式會社 伊豫勝山銀行

本店 松山市湊町(電話七二三番)
支店 温泉郡北條町

和洋菓子
製造販賣

松山市大街道

豊國堂商店

電話一五一番

和御料理

松山市三番町

明治樓

電話二二五番

絹綿布卸

力

神谷鶴之助

松山市湊町三丁目

電話三十五番
振替大阪一三五七五番

金物卸小賣

松山市湊町三丁目

六

世良然次郎

電話一一九番
振替大阪二二七四番

松山で東京品を賣て東京よりも安い
信用を賣り満足を賣る店は

帽子雜貨
囊物眼鏡 商

松山市湊町三丁目

魁屋 田村洋品店

電話 八三三番
振替 東京九六一八番
大阪一六六〇五番



和洋御菓子調進所

松山市湊町四丁目

相原菓子舖

電話 三三五番

雜貨卸商

松山市木屋町五丁目

中 仲野元藏

電話一四四番
振替大阪八二七

内外米穀商
精米業

松山市河原町

毛 橋本丑之助

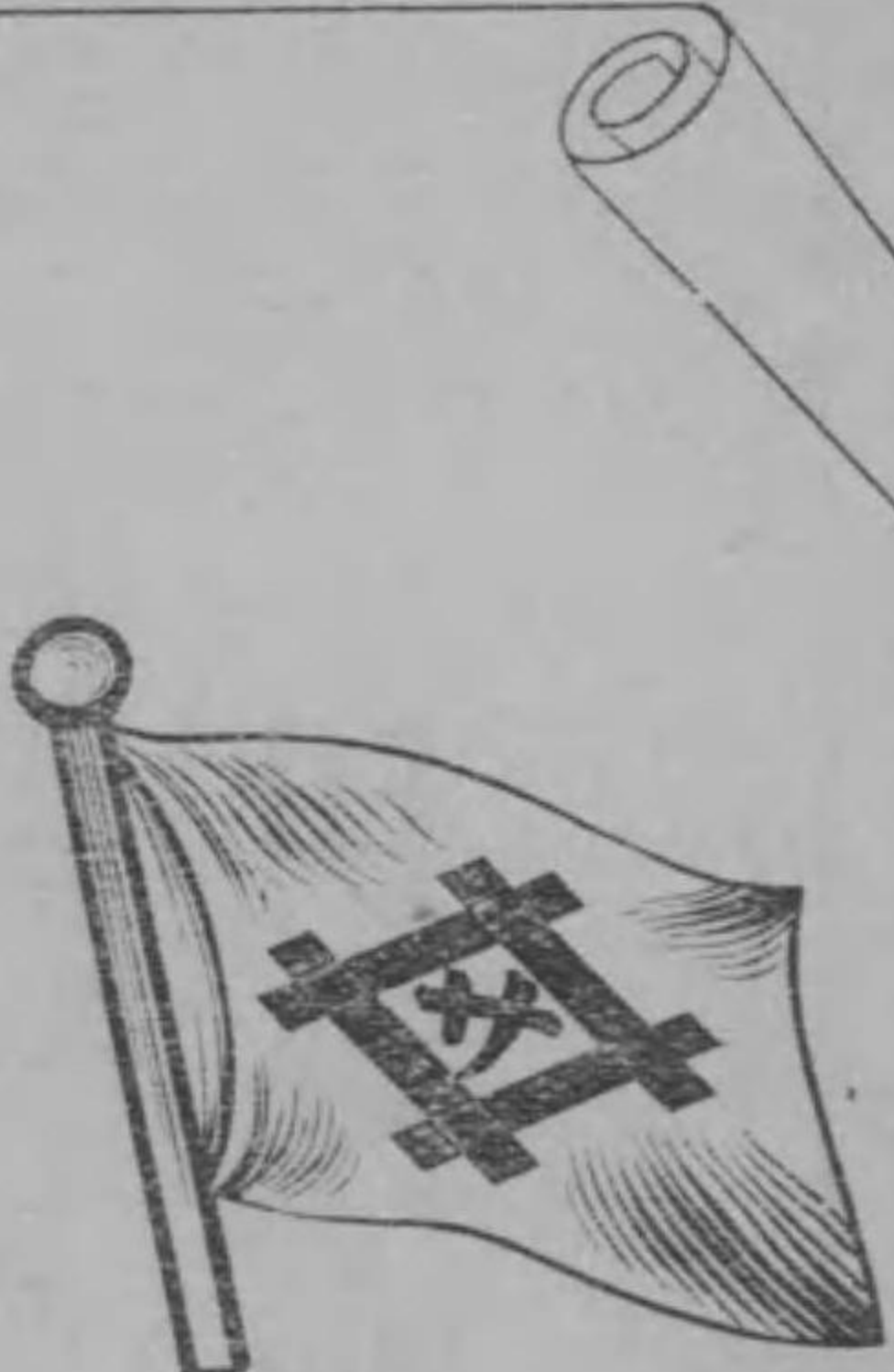
電話四二一番
電略(ハシ)又(ハ)

松山市三番町

公債株式
現物問屋

郷田藤次郎

電話長二三四番
四七一番
振替大阪五六三四番



營業科目
 國產紙輸出
 和洋紙卸商
 各種印刷業

關關和洋紙店
 關印刷部

松山市萱町一丁目土橋口
 電話 十二番
 振替大阪一三三三三番

旅館 高知屋旅館

松山市魚町二丁目

電話一六一番

和御料理 龜乃井

松山市豐坂町

電話二一五番

松山市久保町(松山驛南側)

伊豫製氷株式會社

電話長四〇一番

伊豫名產美術竹細工

輸出向其他各種製造

松山市喜與町

高橋只次

伊 大本合名會社

營業
砂糖●麥粉●雜穀
課目
外國米●澱粉

代表社員 大本貞太郎

松山市三番町

電話 四六四番
住宅 二六〇番

藥品及
教育用品

松山市湊町四丁目

株式會社 小倉藥館

電話 一三八番
振替貯金東京三五四二
大阪二五三六〇

海陸
運送



伊豫國松山驛前

內國通運株式會社松山取引店

橫濱火災海上運送信用保險株式會社代理店

橋本運送店

(電話一四一番)

荒物乾物 砂糖商

松山市湊町五丁目

豐田音次郎

電話三九番



御祝儀並ニ婚禮飾物調進

伊 豫 名 產
改 良 日 本 酒



伊 豫 松 山
岡 酒 造 合 名 會 社

營業品目

新刊書籍雜誌 圖畫手工材料
國定教科書學校用品
各流謠曲書事務用文具

松山市西堀端町
札の辻電車停留場前

八束浩文堂

電話一八九番

疊花表
紡績糸

采

井上合名會社

松山市湊町二丁目

電話一二〇番
電略 (井)

清 酒
 全 世 界
 長 五

釀 造 元
 松 山 市 松 前 町 三 丁 目
 栗 田 幸 次 郎
 (電 話 二 七 番)

諸 蠟 燭 油 製 造
 松 山 市 唐 人 町 三 丁 目
 古 川 油 店
 電 話 一 六 七 番

加 會 社 名
 龜 井 吳 服 店
 松 山 市 湊 町 三 丁 目
 電 話 十 四 番

營業品目

和洋金物
大工道具
打刃物
理髮具

カ 藤田兼太郎

松山市三番町(壽座前)

電話七六三番

干油揚製造商

松山市萱町一丁目

程野兵次郎

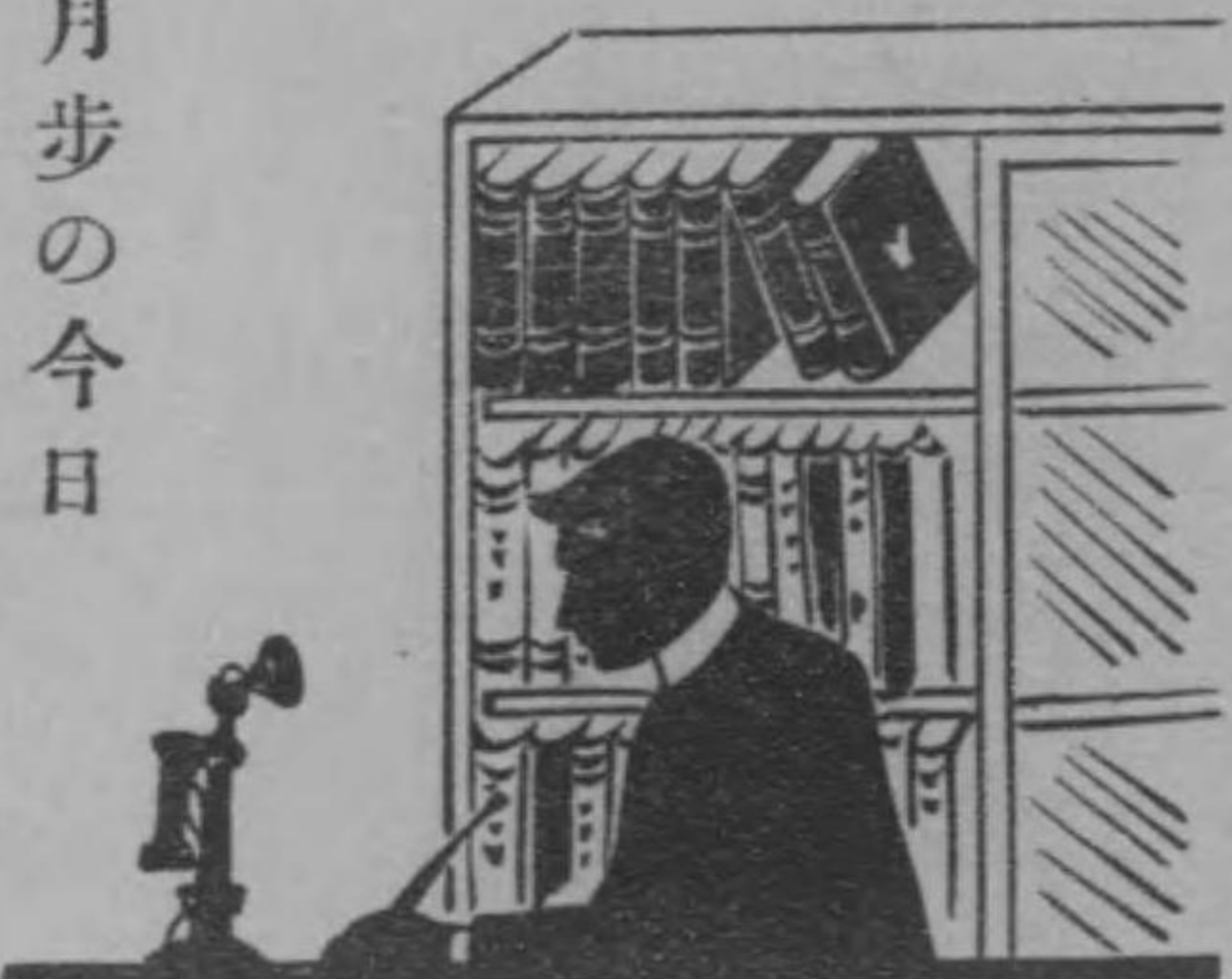
日進月歩の今日

他に先んじ各種書物を御覧なさい

新刊ノ書籍ガ揃フテキマス

時間を尊ぶ事務家は確實な文具を御使なさい

文具品各種揃フテキマス!



愛媛縣國定教科書特約販賣所

書籍 文具 商 向井藏次郎

電話 四十一番
振替 大阪 二九三九番

松山市三番町本局前

渡部旅館

電話一四三番

製



造

敷呂風ルオ夕拭手入印
拭手染綿木色綿木晒

店商藏岩松高
町番三市山松
番一七六話電

卸

商

伊豫史料の研究

愛媛縣案内

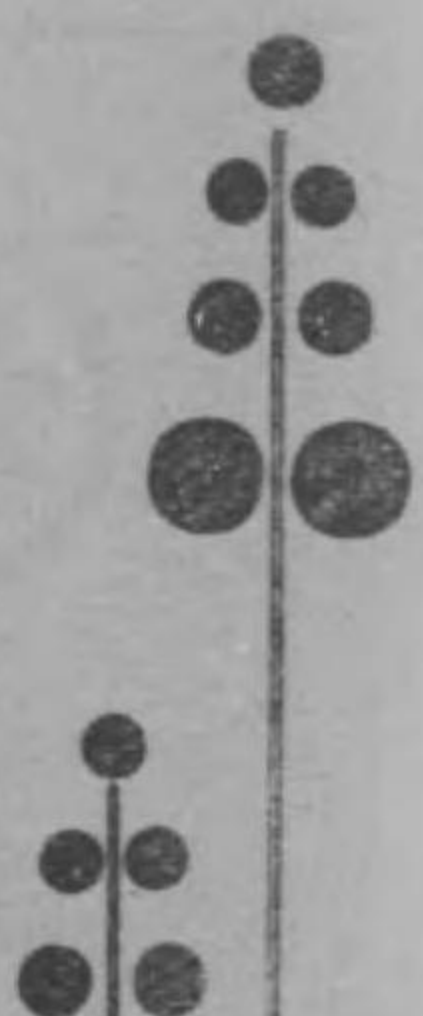
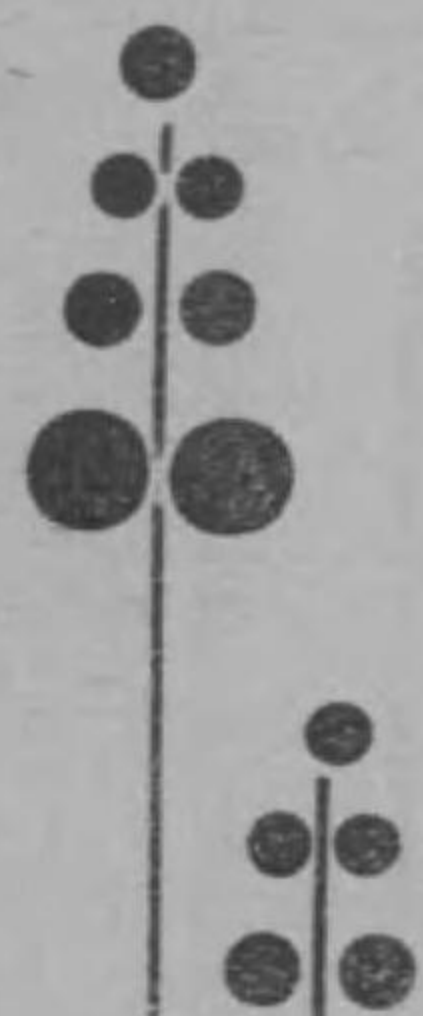
伊豫史談

發賣元

松山市湊町三丁目

大和屋書店

電話一六番... 振替東京四四三三番
大阪二八七五四番



萬金物和洋鐵鋼
銅真鍮鉛瓦斯管
汽機滾鐘附屬品類
各種唧筒板硝子
量器理髮用器一式

松山市三番町



長坂信忠商店

電話十七番

清
仁
士
塔
酒
子
律

伊豫道後

水口政太郎

電話八一四番

上高田吳服店

確實正札

松山市大街道筋
電話貳十八番



好

評

足

袋

優美と堅牢は廣く好評を給れり

松山市湊町四丁目

平松宗太郎

電話十三番

曹達晒粉
和洋藍商

松山市本町三丁目

桑村商店

樂器
雜貨
蓄音器
田村號

松山市湊町三丁目

電話七〇九番
振替大阪二三六五一番

大

松山市湊町四丁目
書籍
文具

世良文海舍

電話一三五番
振替大阪五五三九番

銃砲火藥
煙花製造
度量衡器

松山市湊町二丁目

竹田榮三

電話五七四番

陸軍御用



製靴

附屬品

諸官衙御用

松山市三番町
(郵便局西角)

大野綱衛商店

國產伊豫絣製造業

松山市柳井町



和田榮太郎

勝山結城縞製造業

電話七七番



松山市湊町二丁目
京屋呉服店
 電話二三百一十一番

洋服商



千葉萬次郎

松山市三番町

電話 壹五五番
 振替東京七三六九番

各種自轉車
 附屬品販賣

三好自轉車店

松山市出淵町一丁目

電話三一一番

長

吳服商

並ニ
古着卸

松山市本町一丁目

小倉長太郎

電話一三四番

振替福岡四五八七番

大阪商船會社荷捌所

伊豫高濱港

高濱商船組

電話六六六番
振替大阪二六七八六番

伊豫高濱港

商號
あら玉
中川運送店

電話十一番
振替大阪四〇五〇九番



サタケピル

標商錄登家本

食傷妙藥



江戸茂薬

(意注御乞)

橋土山松豫伊

太平茂海鴻

度量
衡器

造製



目丁三町屋木市山松

保義藤廣

番九〇八話電



松山市三番町上横丁

小松旅館

電話六五三番

◎英式製繩機械と藁打機械

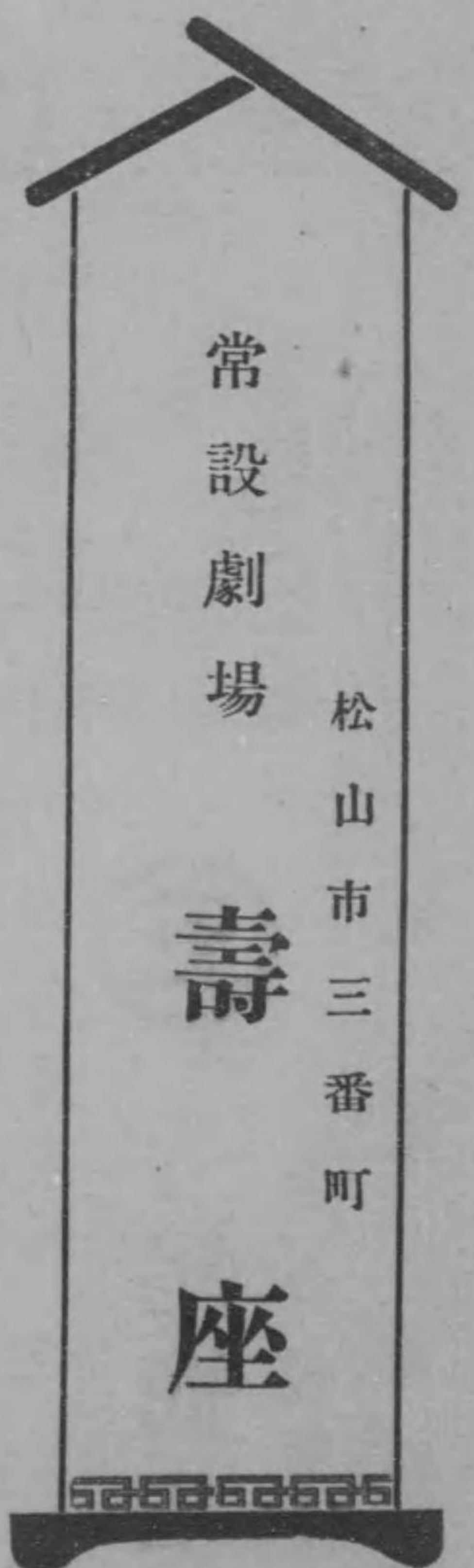
一 手製にて困難なる如何なる細でも出来ませぬ
 一 製繩機械でなくば出来ませぬ
 一 製産力は他の機械の二倍又は三倍以上出来ませぬ
 一 英式製繩機械の能力は少しも偽りも懸引もありません
 一 十ヶ年の保険を付けます
 一 藁打機械は一日七十貫以上打てます
 一本縣立農業學校に買上せられたりした 一 各村農會の指定品になつて居ります



四國販賣元

松山市新玉町二丁目
第五學校前

松本商店



松山市三番町

常設劇場

壽座

古着卸商

松山市本町二丁目



野間眞一商店

商 登



標 錄

釀 造 元

愛媛縣松山市

取締及 山本盛信

全 津守善五郎

取締及 山本義晴

全 常務妻鳥朝太

松山醬油株式會社

松山市本町一丁目

大丸吳服店

同雜貨部

電話一〇七番

石 炭

陶 器

日用雜貨

販賣部古町驛前

貯藏場 高濱港

松山市西堀端町

商號茶五

五 寺尾商店

御料理

松山市二番町

梅の家

電話三拾七番

天活直營

常

活動寫真

設

松山驛前

松山館

電話七二四番

松山市湊町二丁目十四番戶

合名
會社

大野銀行

電話 區六番

和洋
御菓
子

山内百華堂

松山市大街道
電話三七〇番



松山市河原町

諸紙
卸商
石油

木原屋

電話 四貳貳七番
電略キハラヤ又ハ(キ)
振替口座大阪一五三六番

國產 伊豫絣製造

松山市湊町一丁目

吉 小崎寅吉

電話六百四拾參番

御旅館 兼質商



末廣旅館

松山市榎町

電話百拾五番

國產

伊豫絣製造

松山市南八坂町



佐伯行義

電話二七二番